Nikon

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

Jp

このたびはニコンデジタル一眼レフカメラをお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- D800/D800Eの操作説明は共通です。この使用説明書ではD800で説明します。
- SDメモリーカードおよびコンパクトフラッシュカード（CFカード）を「メモリーカード」と表記しています。ただし、SDメモリーカードとコンパクトフラッシュカードを区別して説明している場合は、それぞれ「SDカード」と「CFカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

ヘルプ機能

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくは□18をご覧ください。

「見て聞くマニュアル」デジチューター

インターネット上でD800の操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。下記アドレスのホームページをご覧ください。
http://www.nikondigitutor.com/

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□xiii〜xxiをご覧ください。

この使用説明書について

この使用説明書では、次から知りたいことを簡単に探し出すことができます。

目的別かんたん検索

撮る

見る

加工する

	📖
撮影した画像のサイズ、色、明るさなどを変更する	340
RAW画像をJPEG画像に変換する	353
写真を絵画のような画像にする	360、361
動画の必要な部分だけを残したり、1フレームだけを切り出してJPEG画像にする	72

操作する

	📖
メニューの操作方法	15
液晶モニターやファインダー内の表示がすぐに消えないようにする	283、285
ファインダーをはっきり見えるようにする	33
内蔵時計の日付と時刻を設定する	25、328
メモリーカードを初期化（フォーマット）する	31
最初（購入時）の設定に戻す	189、264、275
ヘルプを表示する	18

パソコン/プリンター

	📖
パソコンに画像を転送する	233
プリンターで画像を印刷する	241
日付を入れて印刷する	243

アクセサリー/メンテナンス

	📖
使えるメモリーカード	442
使えるレンズ	375
使える外付けフラッシュ（スピードライト）	385
使えるアクセサリー（ACアダプター、USBケーブルなど）	392
使えるパソコン用ソフトウェア	395
カメラを掃除する	399
カメラを点検や修理に出す	457

目 次

静止画ライブビュー撮影　43

動画ライブビュー撮影と再生　57

画像の記録　77

フォーカス　89

レリーズモード 101

ISO 感度 107

測光・露出 113

ホワイトバランス 141

画像処理 159

フラッシュ撮影 177

撮影の便利な機能 189

画像の再生 215

パソコン、プリンター、テレビとの接続　233

メニューガイド　253

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

 危険　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。

 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

 △ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

 ⃠ 記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

 ●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラとレンズについて）

表示	内容
分解禁止	**分解したり修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
バッテリーを取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかにバッテリーを取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。 バッテリーを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
使用禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。
警告	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** 特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと。 首に巻き付いて窒息の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
警告	**指定のバッテリーまたは専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラとレンズについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
使用注意	**カメラの電源がONの状態で、長時間直接触れないこと** 使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
保管注意	**製品は幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
使用注意	**逆光撮影では、太陽を画角から充分にずらすこと** 太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
バッテリーを取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと** バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止	**バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**バッテリーをショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。 Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15は、D800/D800Eに対応しています。
危険	**バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意	**バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱・破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること** 液もれ、発熱・破裂の原因となります。

警告（専用リチウムイオン充電池について）

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

注意（専用リチウムイオン充電池について）

注意

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

使用注意

充電中のバッテリーに長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告（チャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

プラグを抜く

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。

ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

⚠ 警告（チャージャーについて）

使用禁止	**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**電源コードを傷つけたり加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因になることがあります。
禁止	**チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠ 注意（チャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
使用注意	**通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと** 通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。
放置注意	**製品は幼児の手の届かないところに置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

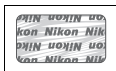
http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットマニュアルの画像（🕮150）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

●AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）

(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

http://www.mpegla.comをご参照ください。

アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

カメラなどの点検サービスについて

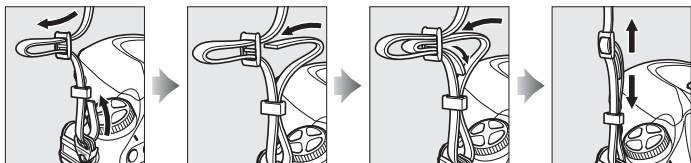
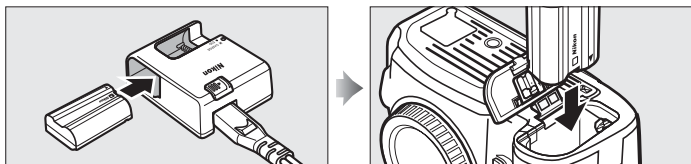
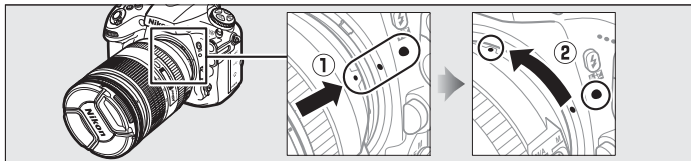
カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズや別売スピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

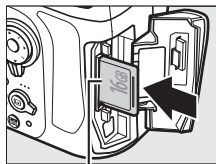
すぐに撮影する方のために

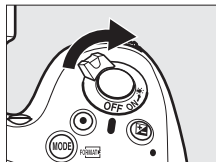
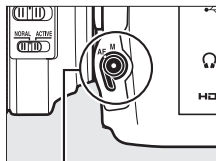
次の手順で操作すると、すぐに撮影ができます。

1 ストラップを取り付ける

ストラップの取り付け手順は次の通りです。

2 バッテリーを充電して（□19）カメラに入れる（□21）

3 レンズを取り付ける（□23）

関連ページ

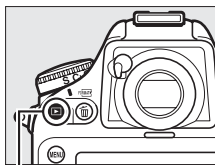
日時を設定するには、□25をご覧ください。
ファインダーを見やすくするには、□33をご覧ください。

4 メモリーカードを入れる（□28）

おもて面

5 カメラの電源をONにする（□35）

6 フォーカスモードセレクターをAF（オートフォーカス）にする（□89）

フォーカスモード
セレクター

7 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する（□38、39）

ピント表示

8 撮影した画像を確認する（□41）

▶ボタン

お使いになる前に

カメラと付属品を確認する

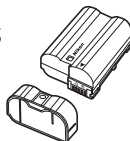
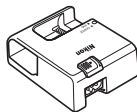
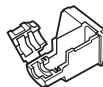
お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万が一、付属品がそろっていない場合は、販売店にご相談ください。

- ❑ D800/D800E カメラ本体（□2）

- ❑ ボディーキャップ BF-1B（□23、395）

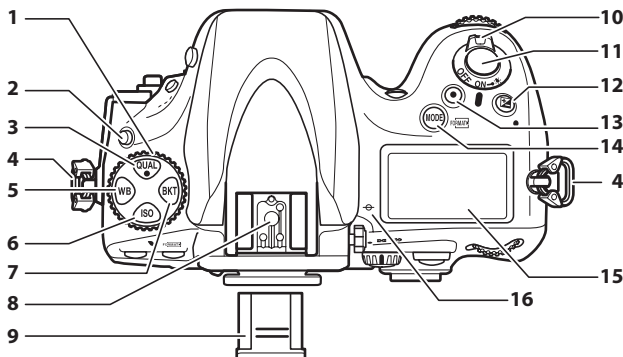
- ❑ アクセサリーシューカバー BS-1（□385）

- ❑ 液晶モニターカバー BM-12（□14）

- ❑ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15（端子カバー付）（□19、21）

- ❑ バッテリーチャージャー MH-25（電源コード/電源プラグ（直付け型）付）（□19）

- ❑ USBケーブル UC-E14（□237）
- ❑ USBケーブルクリップ（□238）

- ❑ ストラップAN-DC6（D800の場合）またはAN-DC6E（D800Eの場合）（□xxii）
- ❑ 保証書
- ❑ 使用説明書（本書）
- ❑ Quick Guide（クイックガイド）
- ❑ ViewNX 2 CD-ROM（□233）
- ❑ 登録のご案内

- SDメモリーカードやコンパクトフラッシュカード（CFカード）は別売です。
- 電源プラグ（直付け型）の付属の有無は、ご購入いただいた国によって異なります。

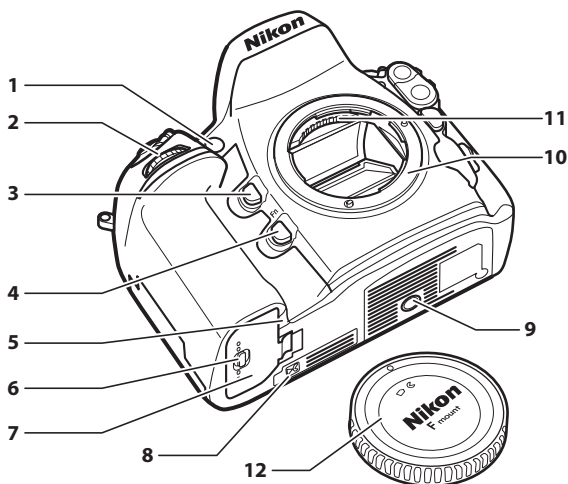
各部の名称と機能

カメラ本体

1	レリーズモードダイヤル 101
2	レリーズモードダイヤル ロックボタン 101
3	**QUAL**ボタン 画質モード............................84 画像サイズ............................86 ツーボタンリセット 189
4	ストラップ取り付け部 （吊り金具）................................xxii
5	**WB**ボタン ホワイトバランス .... 142、146、149
6	**ISO**ボタン ISO感度.................................... 107 感度自動制御.......................111
7	**BKT**ボタン ブラケティング ....131、135、138、313
8	フラッシュ取り付け部 （アクセサリーシュー）............385
9	アクセサリーシューカバー 385
10	電源スイッチ......................25、35
11	シャッターボタン..............38、39
12	☒ボタン 露出補正. ....128 ツーボタンリセット...........189
13	動画撮影ボタン.......................... 58
14	**MODE**（FORMAT）ボタン 露出モード ....115 フォーマット...............................31
15	表示パネル 6
16	-⊖- 距離基準マーク................100

1. 内蔵フラッシュ........................177
2. フラッシュロック解除ボタン 177
3. ϟ（ϟ±）ボタン
   フラッシュモード...............178
   調光補正 184
4. 内蔵マイク..........................61、68
5. シンクロターミナルカバー 385
6. 10ピンターミナルカバー ....212、395
7. シンクロターミナル 385
8. 10ピンターミナル..........212、395
9. 端子カバー ....237、241、249
10. 外部マイク入力端子.................. 61
11. USB端子 .... 237、241
12. ヘッドホン出力端子.................. 61
13. HDMIミニ端子.........................249
14. レンズ着脱指標.......................... 24
15. レンズ取り外しボタン 24
16. AFモードボタン ....45、47、90、93
17. フォーカスモードセレクター .... 45、89、99
18. 露出計連動レバー....................436
19. ミラー .... 106、403

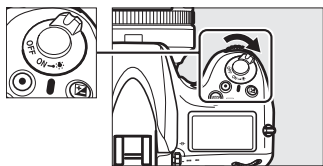
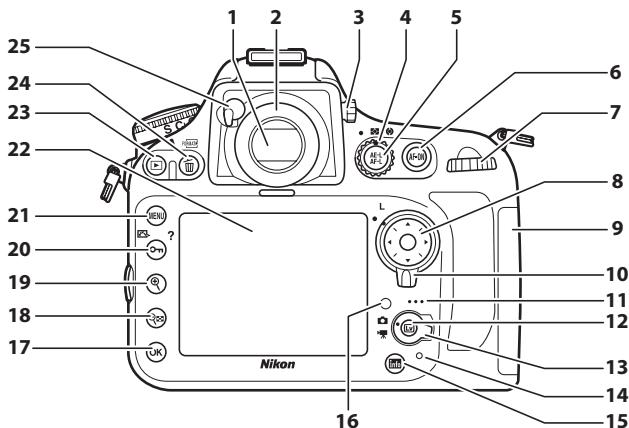
✔ マイク、スピーカーについてのご注意

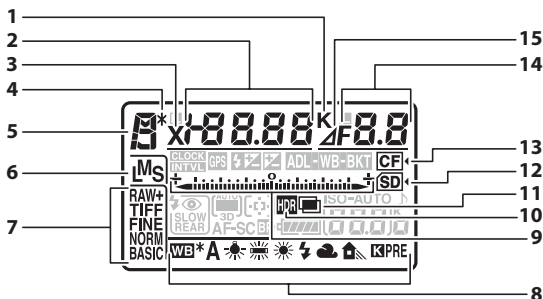
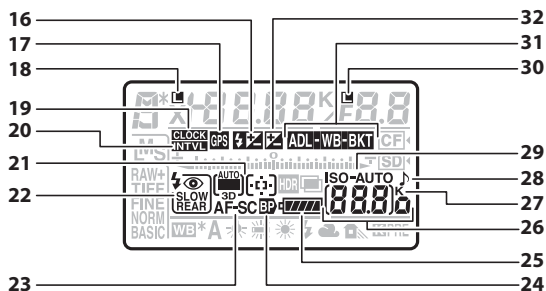
マイクやスピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。マイクやスピーカーに磁気製品を近づけないでください。

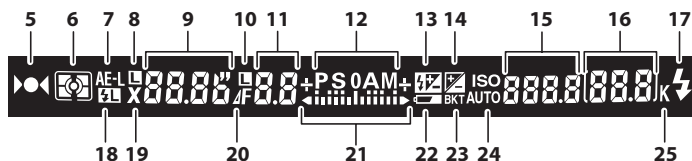
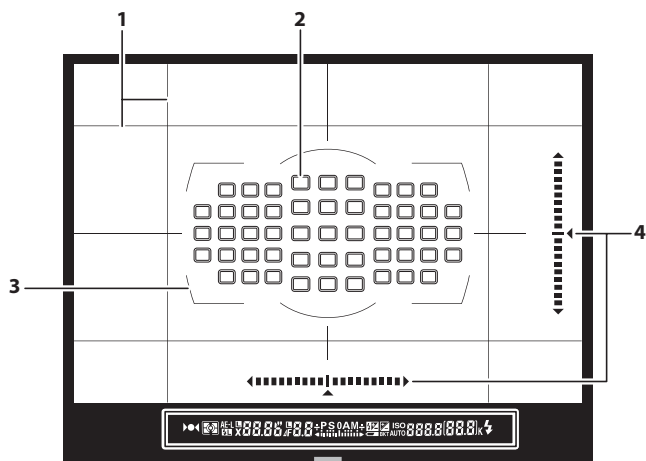
カメラ本体（つづき）

1	AF補助光ランプ......................279 セルフタイマーランプ...........104 赤目軽減ランプ.......................179	5	パワーコネクターカバー........397
2	サブコマンドダイヤル...........314	6	バッテリー室開閉ノブ.............21
3	プレビューボタン ....59、115、311、320	7	バッテリー室カバー.................21
4	**Fn** ボタン ファンクション ....81、187、307、320	8	MB-D12用接点カバー...........392
		9	三脚ネジ穴
		10	レンズマウント...............24、100
		11	レンズ信号接点
		12	ボディーキャップ...................395

表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを☀マークの方向に回すと、表示パネルのイルミネーター（照明）を点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは6秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☀マークの方向に回すと消灯します。

電源スイッチ

1	ファインダー接眼窓	33
2	アイピース	34、105
3	視度調節ノブ	33
4	測光モードダイヤル	114
5	AE-L/AF-Lボタン AE/AFロック	96、126、312、321
6	AF-ONボタン AF作動	43、58、90
7	メインコマンドダイヤル	314
8	マルチセレクター	16、40、217
9	メモリーカードカバー	28
10	フォーカスポイントロックレバー	94
11	スピーカー	70
12	Lvボタン ライブビュー	43、57
13	ライブビューセレクター	43、57
14	メモリーカードアクセスランプ	29、30
15	infoボタン インフォ	10、13
16	照度センサー（液晶モニター自動明るさ調整機能）	50、324
17	OK OKボタン	16
18	縮小ボタン サムネイル	215
	縮小	52、227
19	拡大ボタン 拡大	52、215、227
20	プロテクト（ピクチャーコントロール/?）ボタン プロテクト	229
	ピクチャーコントロール	160
	ヘルプ	18
21	MENU ボタン メニュー	15、253
22	液晶モニター	41、48、60、215、324
23	再生ボタン 再生	41、215
24	削除（FORMAT）ボタン 削除	42、230
	フォーマット	31
25	アイピースシャッターレバー	34、105

表示パネル（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	ホワイトバランス色温度表示 147
2	シャッタースピード.........117、120 露出補正値......128 調光補正量......184 ホワイトバランス微調整値 ......144 ホワイトバランス色温度 ......147、149 ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ番号 ......150 オートブラケティング撮影コマ数 ......131 WBブラケティング撮影コマ数 ......135 HDR露出差......175 多重露出撮影コマ数 ......195 インターバル回数 ......200 非CPUレンズ焦点距離......211
3	フラッシュシンクロマーク......294
4	プログラムシフトマーク 116
5	露出モード......115
6	画像サイズ......86
7	画質モード......83
8	ホワイトバランスモード ......141 ホワイトバランス微調整設定マーク 146
9	インジケーター 露出 ......121 露出補正......128 オートブラケティング ......131 WBブラケティング......135 ADLブラケティング ......138 PC接続中 240
10	HDRマーク......172
11	多重露出マーク......193
12	SDカードマーク ......29、31
13	CFカードマーク......29、31
14	絞り値 ...... 118、120 絞り込み段数...... 119、379 オートブラケティング補正ステップ......132 WBブラケティング補正ステップ ......136 ADLブラケティング撮影コマ数 ......138 インターバルタイマー撮影コマ数 ......200 非CPUレンズ開放絞り値......211 PC接続中マーク 240
15	絞り込み段数マーク ......119、379

16	調光補正マーク	184
17	GPS通信マーク	213
18	シャッタースピードロックマーク	124
19	時刻未設定マーク	27、425
20	インターバルタイマー設定マーク	200
	微速度撮影設定マーク	207
21	AFエリアモードマーク	91、93
	オートエリアAF設定マーク	92、93
	3D-トラッキング設定マーク	91、93
22	フラッシュモード	178、179
23	AFモードマーク	90
24	MB-D12のバッテリー使用マーク	292
25	バッテリー残量表示	35
26	記録可能コマ数	36、444
	連続撮影可能コマ数	103、444
	ISO感度	107
	ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示	152
	アクティブD-ライティング度合い表示	139、310
	微速度撮影中マーク	207
	手動設定レンズNo	211
	PCカメラモード表示	240
27	1000コマ以上補助表示	36
28	電子音マーク	286
29	ISO感度マーク	107
	感度自動制御設定マーク	109
30	絞り値ロックマーク	125
	HDR（連続マーク）	175
	多重露出（連続マーク）	195
31	ブラケティングマーク	
	オートブラケティング	130
	WBブラケティング	135
	ADLブラケティング	138
	アクティブD-ライティングマーク	171
32	露出補正マーク	128

ファインダー（説明のため、全ての表示を点灯させています）

1	構図用格子線............................289 （カスタムメニュー d6［**格子線の表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます。）
2	フォーカスポイント表示 ....38、94、277、278 AFエリアモード表示.................93
3	AFエリアフレーム.....................33
4	水準器 309
5	ピント表示...................... 38、100
6	測光モード...............................113
7	AEロックマーク.......................126
8	シャッタースピードロック マーク 124
9	シャッタースピード ....117、120 AFモード 90
10	絞り値ロックマーク 125
11	絞り値 ....118、120 絞り込み段数................119、379
12	露出モード...............................115
13	調光補正マーク.......................184
14	露出補正マーク.......................128
15	ISO感度...................................107 ホワイトバランス プリセットマニュアルデータ 取得モード表示.......................151 アクティブD-ライティング度合い 表示 ....310 AFエリアモード 93
16	記録可能コマ数......................... 36 連続撮影可能コマ数 .... 103、444 露出補正値 ....128 調光補正量 184
17	レディーライト.......................177
18	FVロックマーク.......................186
19	フラッシュシンクロマーク.......294
20	絞り込み段数マーク .... 119、379
21	インジケーター 露出 ....121 露出補正...............................128
22	バッテリー警告表示.................35
23	ブラケティングマーク オートブラケティング ....130 WBブラケティング.............135 ADLブラケティング............138
24	感度自動制御設定マーク 110
25	1000コマ以上補助表示.............36

ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

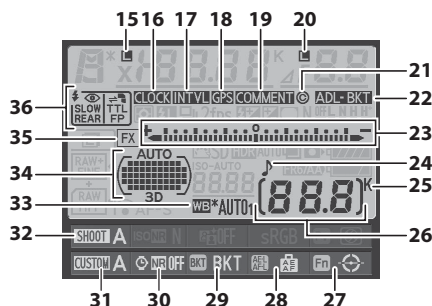
高温、低温下での液晶表示について

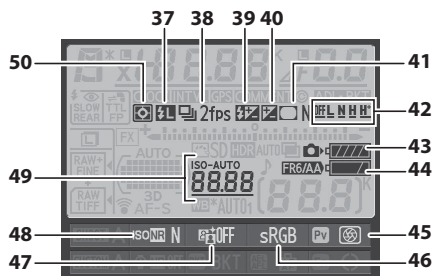
表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

インフォ画面（説明のため、全ての表示を点灯させています）

infoボタンを押すと、液晶モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。

infoボタン

No.	項目
1	露出モード……115
2	プログラムシフトマーク……116
3	フラッシュシンクロマーク……294
4	シャッタースピード……117、120 露出補正値……128 調光補正量……184 ホワイトバランス微調整値……144 ホワイトバランス色温度……147、149 オートブラケティング撮影コマ数……131 WBブラケティング撮影コマ数……135 多重露出撮影コマ数……195 非CPUレンズ焦点距離……211
5	ホワイトバランス色温度表示……147、149
6	絞り込み段数マーク……119、379
7	絞り値……118、120 絞り込み段数……119、379 オートブラケティング補正ステップ……132 WBブラケティング補正ステップ……136 ADLブラケティング撮影コマ数……138 非CPUレンズ開放絞り値……211
8	ピクチャーコントロールマーク……160
9	HDRマーク……172 HDR露出差……175
10	多重露出マーク……193
11	AFモードマーク……89
12	Eye-Fi通信マーク……338
13	画質モード……83 副スロットの機能……88
14	画像サイズ……86

- **15** シャッタースピードロックマーク 124
- **16** 時刻未設定マーク ...... 27、425
- **17** インターバルタイマー設定マーク 200
  微速度撮影設定マーク 207
- **18** GPS通信マーク 213
- **19** 画像コメント入力設定マーク 332
- **20** 絞り値ロックマーク 125
  HDR（連続マーク）......175
  多重露出（連続マーク）......195
- **21** 著作権情報設定マーク 333
- **22** オートブラケティングマーク 130
  WBブラケティングマーク 135
  ADLブラケティングマーク 138
- **23** インジケーター
  - 露出......121
  - 露出補正......128
  - オートブラケティング......131
  - WBブラケティング 135
  - ADLブラケティング 138
- **24** 電子音マーク......286
- **25** 1000コマ以上補助表示...... 36
- **26** 記録可能コマ数......36、444
  手動設定レンズNo 211
  微速度撮影中マーク 207
- **27** **Fn**ボタンの機能表示......307
- **28** AE/AFロックボタンの機能表示 312
- **29** **BKT**ボタンの機能表示 313
- **30** 長秒時ノイズ低減マーク 271
- **31** カスタムメニュー設定表示...... 274
- **32** 撮影メニュー設定表示 263
- **33** ホワイトバランスモード 141
  ホワイトバランス微調整設定マーク 145
- **34** オートエリアAF設定マーク 93
  フォーカスポイント表示 94
  AFエリアモード表示...... 91
  3D-トラッキング設定マーク 91
- **35** 撮像範囲表示...... 77
- **36** フラッシュモード......179

インフォ画面（つづき）(説明のため、全ての表示を点灯させています)

37	FVロックマーク	187
38	レリーズモード	101
	連続撮影速度	102
39	調光補正マーク	184
40	露出補正マーク	128
41	ヴィネットコントロールマーク	269
42	ADLブラケティング度合い表示	139
43	カメラのバッテリー残量表示	35
44	MB-D12のバッテリー種別表示	291
	MB-D12のバッテリー残量表示	292
45	プレビューボタンの機能表示	311
46	色空間マーク	268
47	アクティブD-ライティングマーク	171
48	高感度ノイズ低減マーク	271
49	ISO感度マーク	107
	感度自動制御設定マーク	110
50	測光モード	113

インフォ画面を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面の表示中に、infoボタンを2回押す

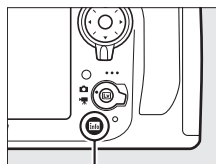
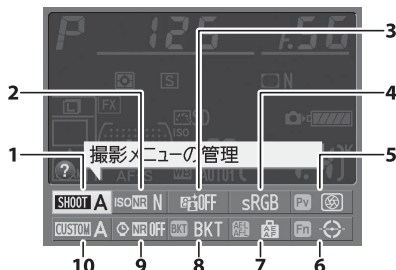
操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

関連ページ

- 液晶モニターの点灯時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□285）
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → d9［**インフォ画面の表示設定**］（□290）

■ 撮影時の設定を変更する

インフォ画面を表示中にもう一度 info ボタンを押すと、表示されている撮影時の設定を変更できるようになります。

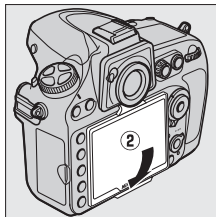
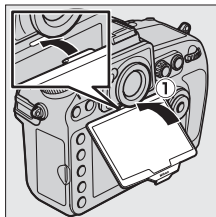
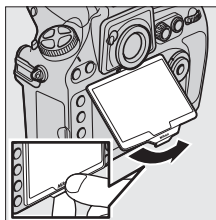
- マルチセレクターで項目を選んで OK ボタンを押すと、設定したいメニュー項目へ直接ジャンプします。

info ボタン

- インフォ画面からジャンプできるメニュー項目は次の通りです。

1	撮影メニューの管理................263	6	**Fn**ボタンの機能......................... 307
2	高感度ノイズ低減....................271	7	AE/AFロックボタンの機能.......312
3	アクティブD-ライティング...... 171	8	**BKT**ボタンの機能....................313
4	色空間......................................268	9	長秒時ノイズ低減....................271
5	プレビューボタンの機能........311	10	カスタムメニューの管理........274

インフォ画面のガイド表示

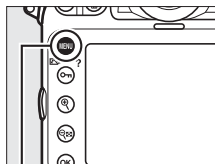
選択しているメニュー項目名を表示します。カスタムメニューd8［**インフォ画面のガイド表示**］（0290）では、ガイドを表示させないようにできます。

液晶モニターカバー BM-12の取り付け、取り外し方

液晶モニターカバーを取り付けるには、液晶モニターの上にある溝にカバーの上部をはめ込み（①）、カバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください（②）。

カバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支え、右図のようにカバーの下からゆっくりと外してください。

基本操作

メニューの操作方法

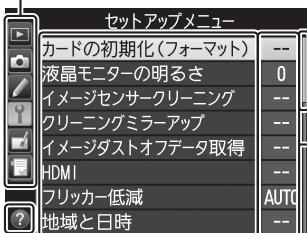
撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENUボタンを押すと、液晶モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

▶	再生メニュー（□253）	🔧	セットアップメニュー（□323）
📷	撮影メニュー（□262）	✓	画像編集メニュー（□340）
✎	カスタムメニュー（□272）		マイメニュー / 最近設定した項目（□368）※

※どちらかに設定できます。初期設定は［**マイメニュー**］です。

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

?

ヘルプがある場合に表示します（□18）
このアイコンを表示しているときに O‑n（/?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとⓀボタンを使います。

マルチセレクター

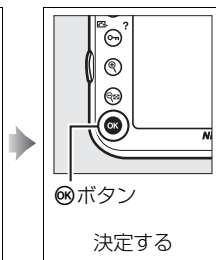
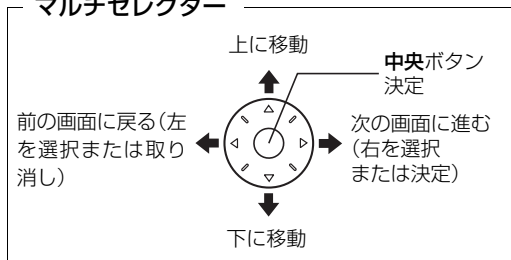
上に移動

中央ボタン
決定

前の画面に戻る（左を選択または取り消し）

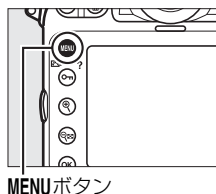
次の画面に進む（右を選択または決定）

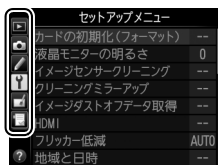
下に移動

Ⓚボタン

決定する

■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

- **MENU**ボタンを押します。

2 メニューのタブを選ぶ

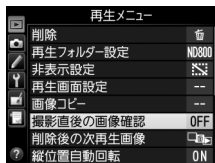
- ◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。

3 メニューを切り換える

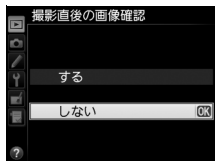
- ▲または▼を押して、メニューのタブを切り換えます。

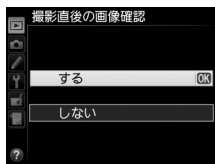
4 選んだメニューに入る

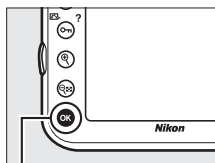
- ▶を押して、選んだメニューに入ります。

5 メニュー項目を選ぶ

- ▲または▼で項目を選びます。

6 設定内容を表示する

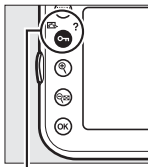
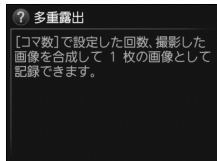
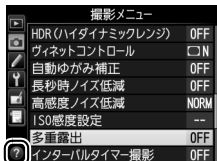
- ▶を押して設定内容を表示します。

7 設定内容を選ぶ

- ▲または▼で設定内容を選びます。

8 決定する

- ㊇ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、MENUボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□39）してください。

㊇ボタン

ヘルプを使う

メニュー画面の左下にヘルプマーク ⓘ が表示されているときは、O-n（⧉/?）ボタン（ヘルプ）を押している間、その項目の説明（ヘルプ）を見ることができます。

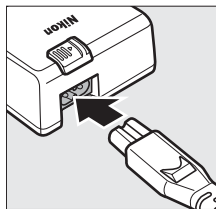
- 説明が2ページ以上ある場合は、O-n（⧉/?）ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押して、次のページを表示してください。
- O-n（⧉/?）ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。

O-n（⧉/?）ボタン

> **メニュー項目の設定について**
>
> - カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
> - ⓞ ボタンの代わりにマルチセレクターの ▶ や**中央**ボタンを押しても決定できますが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、ⓞ ボタンしか使えないことがあります。

撮影前の準備

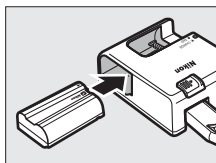
バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15は、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-25でフル充電してください。使い切ったバッテリー 1個を充電するには約2時間35分かかります。

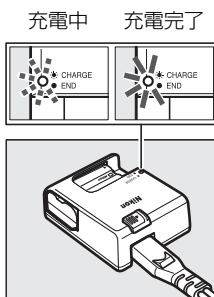
1 チャージャーと電源コードを接続する

- 電源コードのACプラグをACプラグ差込口に差し込みます。ACプラグは回転させずに図の位置でお使いください。

2 バッテリーの端子カバーを取り外す

3 バッテリーをチャージャーにセットする

- バッテリーをチャージャーの中に描かれている図に合わせて取り付けます。

4 電源プラグをコンセントに差し込む

充電中　充電完了

- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。
- 充電が完了すると、「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わります。

5 充電が完了したら、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーを取り外す

チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

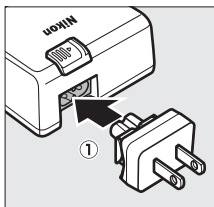
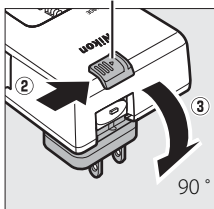
- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0 ～ 40℃）でお使いください。

上記の処置をしても不具合が続く場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

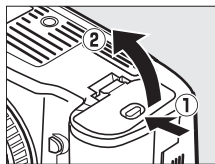
付属の電源コードと電源プラグ（直付け型）についてのご注意

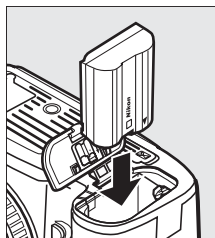
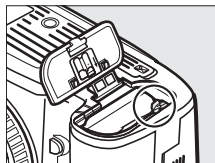
付属の電源コードおよび電源プラグ（直付け型）は、バッテリーチャージャー MH-25以外の機器に接続しないでください。この電源コードおよび電源プラグ（直付け型）は、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/でもお求めいただけます。

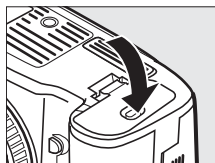
電源プラグ（直付け型）について

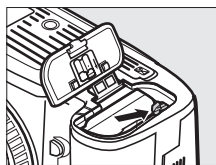
- 電源プラグ（直付け型）を使う場合は、チャージャーのAC プラグ差し込み口に付属の電源プラグ（直付け型）を差し込みます（①）。その後、電源プラグ（直付け型）回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら（②）、電源プラグ（直付け型）を90°回転させ、しっかりと固定させます（③）。
- 電源プラグ（直付け型）をチャージャーから取り外すときは、取り付けたときと逆の手順で行ってください。

電源プラグ（直付け型）回転ロック

カメラにバッテリーを入れる

1 カメラの電源をOFFにする

2 バッテリー室カバー開閉ノブを矢印の方向に押して（①）、カメラ底面のバッテリー室カバーを開ける（②）

3 充電したバッテリーを入れる

- 右図のように、正しい向きで入れてください。

- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かり、バッテリーがロックされます。

バッテリーロックレバー

4 バッテリー室カバーを閉じる

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにしてから、バッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと、バッテリーが少し飛び出しますので、引き抜いて取り出してください。

✔ バッテリーを出し入れするときは

バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

✔ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

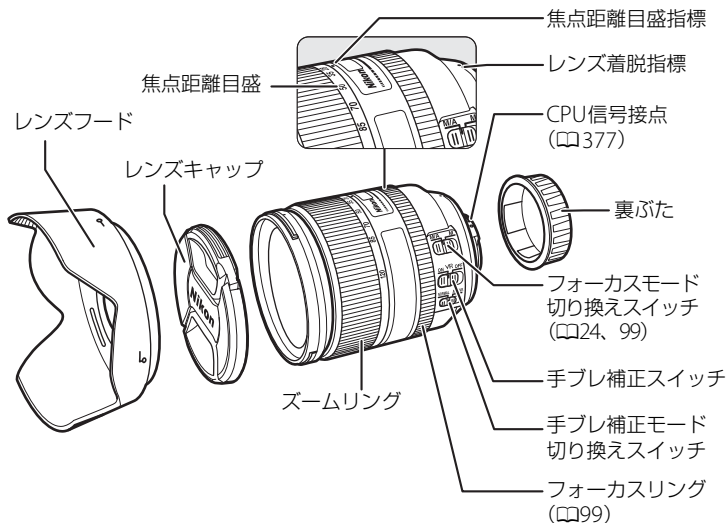
- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（□xiii～xviii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（□406～409）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0 ～ 15℃、45 ～ 60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］（□330）で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリー EN-EL15をお求めください。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- バッテリーをカメラやチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25に対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-25で充電しないでください。

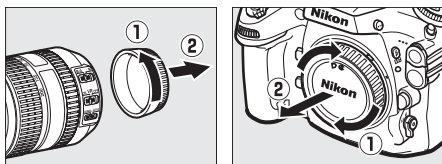
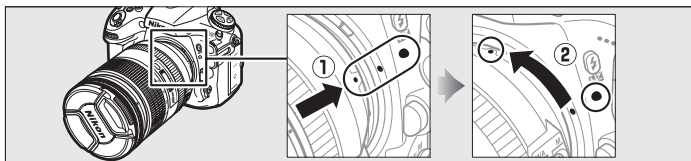
Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15 について

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15をお使いの場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます（□330）。

レンズを取り付ける

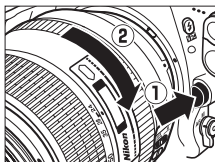
レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。
この使用説明書では、主にAF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VRのレンズを使用して、説明しています。各部名称は次の通りです。

焦点距離目盛指標
レンズ着脱指標
焦点距離目盛
CPU信号接点
(□377)
レンズフード
レンズキャップ
裏ぶた
フォーカスモード切り換えスイッチ
(□24、99)
手ブレ補正スイッチ
ズームリング
手ブレ補正モード切り換えスイッチ
フォーカスリング
(□99)

1 **カメラの電源をOFFにする**

2 **レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す**

3 レンズとカメラの着脱指標を合わせ（①）、矢印の方向にレンズを回す（②）

- カチッと音がするまでレンズを回します。このとき、レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M**/**A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください。

レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。

絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（□377）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。

撮像範囲について

DXレンズを装着すると、撮像範囲がDXフォーマットに切り替わります（□77）。

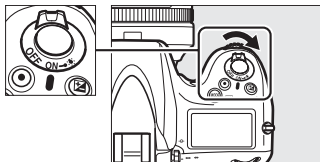
撮像範囲

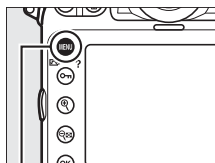
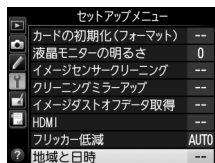
日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

- 日時を設定しないと、表示パネルに時刻未設定マーク CLOCK が点滅して警告します。CLOCK が点滅している場合は、撮影日時が正しく記録されません。

1 カメラの電源をONにする

電源スイッチ

2 セットアップメニューの［地域と日時］を選ぶ

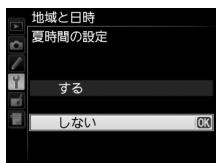
- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**地域と日時**］を選びます。
- ご購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で［**地域と日時**］が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください（□15）。

MENUボタン

3 現在地を設定する

- ［地域と日時］画面で［**現在地の設定**］を選びます。
- ［現在地の設定］画面で表示される地図上で、現在地が黄色くハイライトされるようにしてから、OKボタンを押してください。
- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（協定世界時）との時差が表示されます。

4 夏時間を設定する

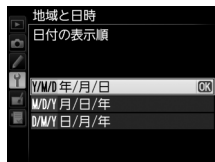
OKボタン

- ［地域と日時］画面で［**夏時間の設定**］を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、［**する**］に、実施していないときは［**しない**］にして、OKボタンを押してください。

- ［**する**］にすると、［**しない**］のときよりも時刻が1時間進みます。

5 日付と時刻を合わせる

- ［地域と日時］画面で［**日時の設定**］を選びます。
- ［日時の設定］画面でマルチセレクターを操作して現在地の日時に合わせてから、OKボタンを押してください。

6 日付の表示順を選ぶ

- ［地域と日時］画面で［**日付の表示順**］を選びます。
- 液晶モニターに表示する日付の年、月、日の表示順を選んでⓄボタンを押します。

7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bを接続すると（□397）、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。表示パネルにCLOCKが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定してください。

カメラ内蔵の時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定してください。

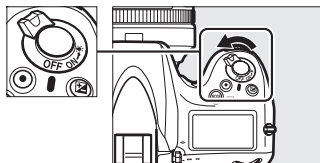
GPSによる日時合わせ（□214）

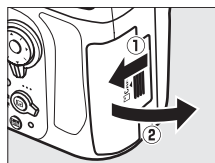
GPS機器（□212）との接続時には、GPS機器が取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

メモリーカードを入れる

撮影した画像は、メモリーカードに記録されます。このカメラは、撮影した画像をSDカードまたはCFカードに記録できるように、2つのメモリーカードスロットを装備しています。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください（□442）。

1 カメラの電源をOFFにする

電源スイッチ

2 メモリーカードカバーを開ける

- メモリーカードカバーは、矢印の方向にスライドさせて（①）、開きます（②）。

メモリーカードを出し入れするときは

- メモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- CFカードとCFカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損するおそれがあります。

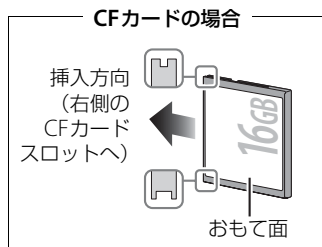
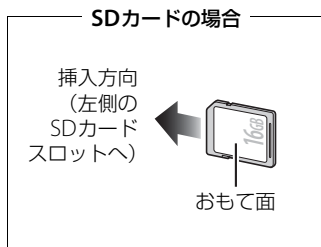
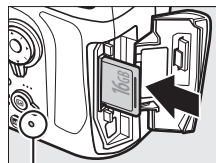
使用できるCFカードについて

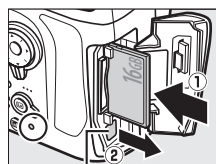
このカメラで使用できるCFカードは、Type IのコンパクトフラッシュカードCFカード）のみです。Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません。

関連ページ

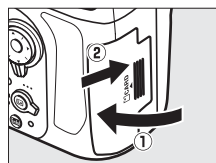
- カメラに 2 枚メモリーカードが入っているときに、優先的に使うスロットを選ぶ→ **［主スロットの選択］**（□88）
- 副スロットへの記録方法を設定する→ **［副スロットの機能］**（□88）

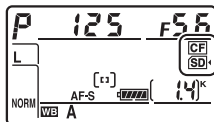
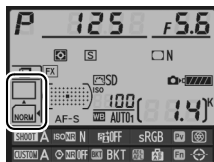
3 メモリーカードを入れる

メモリーカードの向きを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入していることを必ずご確認ください。

- **SDカードの場合：**
  SDカードのおもて面を液晶モニター側に向け、カチッと音がするまで挿入してください。SDカードが正しく挿入されると、メモリーカードアクセスランプ（緑色）が数秒間点灯します。

メモリーカード
アクセスランプ

- **CFカードの場合：**
  CFカードのおもて面を液晶モニター側に向け、奥まで確実に押し込んでください（①）。CFカードが正しく挿入されると、CF カードイジェクトレバーが出てくる（②）とともに、メモリーカードアクセスランプ（緑色）が数秒間点灯します。

CFカード
イジェクトレバー

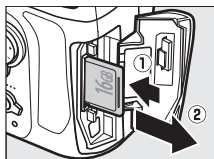
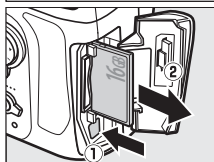
4 メモリーカードカバーを閉める

- このカメラに他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、メモリーカードを初期化してください（□31）。

メモリーカード表示について

メモリーカードをカメラに入れると、挿入したメモリーカードのアイコンが表示パネルとインフォ画面に表示されます（右図は、SDカードとCFカードの2枚をカメラに入れた例です）。
メモリーカードの残量がなくなった場合やSDカードがロックされている場合など、何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているメモリーカードのアイコンが点滅します（□428）。

表示パネル

インフォ画面

メモリーカードを取り出すときは

メモリーカードカバーを開ける前に、メモリーカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。メモリーカードカバーを開けて、次の手順でメモリーカードを取り出します。

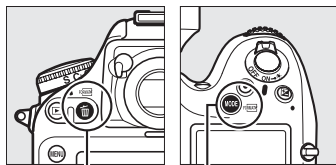
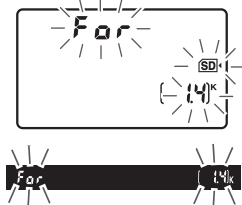
- **SDカードの場合：**
  SDカードを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

- **CFカードの場合：**
  CFカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

メモリーカードを初期化（フォーマット）する

他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。**メモリーカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**必要な画像がある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□233）。

1 カメラの電源をONにする

2 🗑（FORMAT）ボタンとMODE（FORMAT）ボタンを同時に押す

🗑（FORMAT）ボタン　MODE（FORMAT）ボタン

- 赤色のFORMATマークがついた🗑ボタンとMODEボタンを同時に2秒以上押します。
- 表示パネルとファインダー内表示にFor（フォーマット）という文字が点滅します。
- メモリーカードが2枚入っている場合は、表示パネルのメモリーカードマークが点滅している側のスロットに入っているメモリーカードを初期化します。Forが点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。

- Forが点滅状態のまま約6秒経過すると、初期化はキャンセルされます。🗑（FORMAT）ボタンとMODE（FORMAT）ボタン以外のボタンを押したときも、初期化をキャンセルします。

3 Forが点滅している間に、もう一度🗑（FORMAT）ボタンとMODE（FORMAT）ボタンを同時に押す

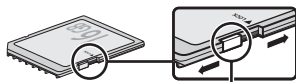
- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。
- 初期化が完了すると、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部にこれから撮影できるコマ数が表示されます。

メモリーカード取り扱い上のご注意

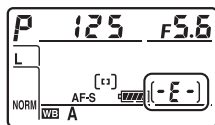
- カメラにメモリーカードが2枚入っている場合、🗑（FORMAT）ボタンとMODE（FORMAT）ボタンを押すと、主スロット（□88）のメモリーカードマークが先に点滅します。
- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
  - –メモリーカードの着脱をしないでください
  - –カメラの電源をOFFにしないでください
  - –バッテリーを取り出さないでください
  - –ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについて

書き込み禁止スイッチ

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。
- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

メモリーカードが入っていないときの表示について

メモリーカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に〔-E-〕マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの〔-E-〕マークは点灯します。

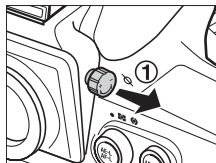
125 F5.6 P ISO 10 [-E-]

関連ページ

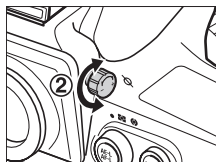
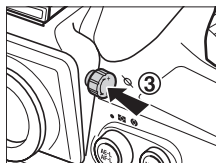
メニュー操作でメモリーカードを初期化する → 🔧［**カードの初期化（フォーマット）**］（□324）

ファインダーを見やすくする（視度調節）

撮影する前に、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

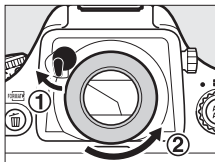
1　レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

2　視度調節ノブを引き出す（①）

3　視度調節ノブを回して調節する（②）

- ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回し、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

4　視度調節ノブを戻す（③）

視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は

- AFモード（□89）を**AF-S**、AFエリアモード（□91）をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□393）。

アイピースを取り外すには

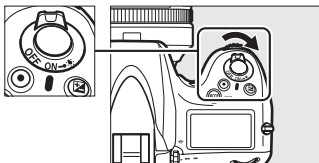
別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース（DK-17）を取り外す必要があります。アイピースシャッターを閉じてロックを解除し（①）、アイピースを図の方向に回して取り外します（②）。

撮影と再生の基本操作

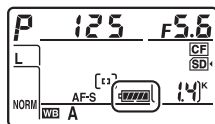
バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

1 カメラの電源をONにする

• 表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。

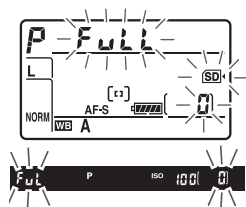
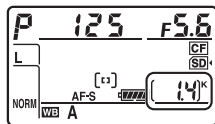
電源スイッチ

2 バッテリーの残量を確認する

• 表示パネルまたはファインダー内表示のバッテリー残量表示を確認します。

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

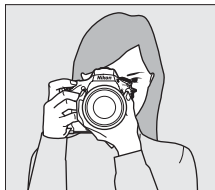
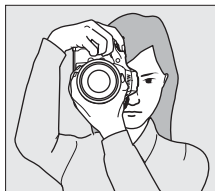
• 別売のパワーコネクターEP-5BとACアダプターEH-5bを使用した場合、バッテリーの残量表示が消えます。

3 メモリーカードの残量を確認する

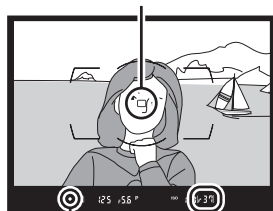
- 表示パネルまたはファインダー内表示で記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。メモリーカードが2枚入っている場合、主スロット（🕮88）の記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が1000 コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1460コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

- 記録可能コマ数がゼロの場合、表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部にFuLL（FuL）が、記録可能コマ数表示部に0が点滅します。このとき、残量のないメモリーカードのアイコンも点滅します。不要な画像を削除するか（🕮230）、別のメモリーカードに交換してください。

カメラを構える

撮影するときは、カメラをしっかりと構え、ファインダーをのぞいて構図を決めます。

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。

- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

ピントを合わせて撮影する

1 シャッターボタンを半押し（🕮39）して、ピントを合わせる

- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせ、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）と、被写体に自動的にピントが合います。
- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。
- 暗い場所などでは、AF補助光が光ることがあります。

2 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

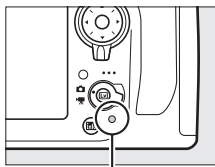
- ピントが合うとファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
● （点灯）	被写体にピントが合っています。
▶ （点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダーに表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「r」（🕮103）が付きます。

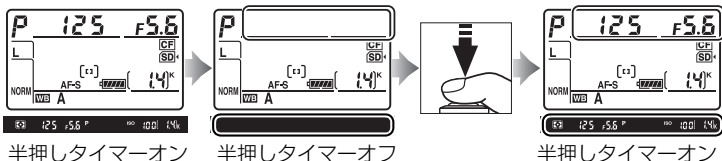
- ピント合わせができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（🕮98）をご覧ください。

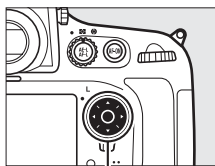
3 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）、撮影する

- シャッターがきれ、画像がメモリーカードに記録されます。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。**メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。**

シャッターボタンの半押し

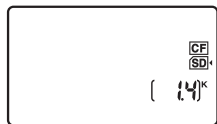
シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（🕮283）で変更できます。

撮影時のマルチセレクターの操作について

半押しタイマーがオンのときにマルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押すと、フォーカスポイントを自分で選べます（🕮94）。

マルチセレクター

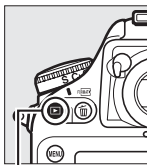
電源OFFの時の表示について

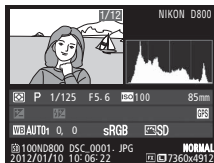
バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルのメモリーカードマークと記録可能コマ数が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれにメモリーカードマークと記録可能コマ数の表示が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。

表示パネル

撮影した画像を確認する

1 ▶ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の液晶モニターに表示します。
- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

▶ボタン

2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- ▲または▼を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります(□218)。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□259）を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

関連ページ

画像を表示するスロットを切り換える→「メモリーカードスロットの切り換えについて」（□217）

画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。

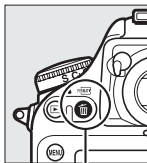
1 削除したい画像を表示する

▶ボタン

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選びます。
- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

2 画像を削除する

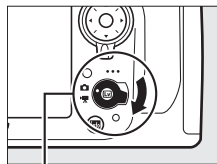
🗑（FORMAT）ボタン

- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

✔ 再生メニュー［削除］

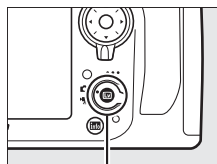
再生メニューの［**削除**］（□231）では、複数の画像を選択して削除したり、再生フォルダー内の全画像を一括して削除したりできます。また、メモリーカードを2枚使っているときは、全画像を削除するメモリーカードスロットを指定できます。

静止画ライブビュー撮影

液晶モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

1 ライブビューセレクターを（静止画ライブビュー）に合わせる

ライブビューセレクター

2 ボタンを押す

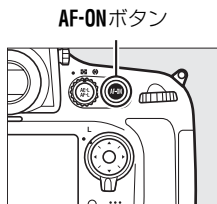
- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。

ボタン

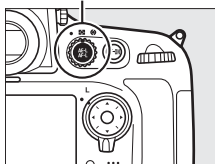
3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります（□46）。

4 シャッターボタンを半押しするかAF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

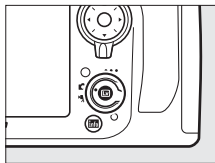
AF-ONボタン

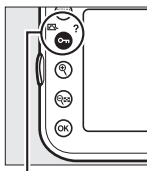
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないと赤色で点滅します。

- 露出を固定（AEロック）するには、AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押し続けます（□126）。

AE-L AF-L AE/AFロックボタン

- 静止画ライブビュー中にⓄⓚボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わります（露出プレビュー画面に切り替わらない場合は、□53の「露出プレビュー画面の制限について」をご覧ください）。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを液晶モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正時も、±3段まで液晶モニターで確認できます。

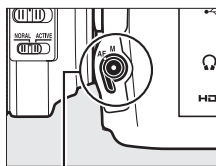
5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は液晶モニターが消灯します。

6 Lvボタンを押してライブビューを終了する

ライブビュー表示中にピクチャーコントロールを変更する

ライブビュー表示中にOn（/?）ボタンを押すと、ピクチャーコントロールの一覧が表示されます。設定したいピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、右の画面でピクチャーコントロールを調整できます（□159）。

On（/?）ボタン

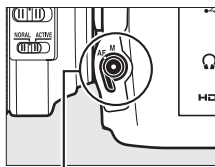
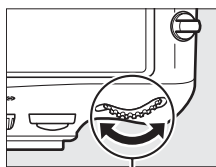
AFモードを変更する

フォーカスモードセレクターが**AF**の場合、ライブビュー時のオートフォーカスでのピントの合わせ方を選べます。

フォーカスモードセレクター

AF-S	**シングルAFサーボ**	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F	**常時AFサーボ**	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■ ライブビュー撮影時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは液晶モニターに表示されます。

AFモードボタン

メインコマンドダイヤル

液晶モニター

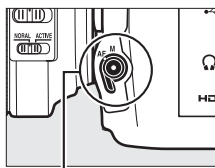
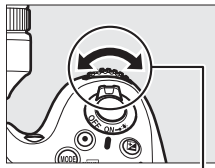
AFエリアモードを変更する

フォーカスモードセレクター（□45）が**AF**の場合、ライブビュー時にオートフォーカスでピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定できます。

顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動し、他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
WIDE **ワイドエリアAF**	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
NORM **ノーマルエリアAF**	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
ターゲット追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。フォーカスポイントを被写体に重ねて**中央**ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度**中央**ボタンを押すと、追尾を終了します。

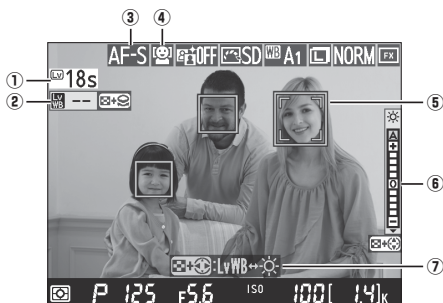
■ ライブビュー撮影時のAFエリアモードの変更方法

AF モードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは液晶モニターに表示されます。

AFモードボタン

サブコマンドダイヤル

液晶モニター

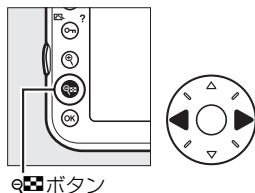
> **✓ ターゲット追尾AFについてのご注意**
>
> 次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。
>
> - 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
> - 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
> - 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
> - 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
> - 被写体の動きが速すぎる場合
> - 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

静止画ライブビュー撮影中の情報表示

① **ライブビュー残り時間**	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	🕮54、66
② **液晶モニターの色み設定**	液晶モニターの色みを調整できます（液晶モニターの色み設定は、ホワイトバランスの設定と異なる色みに設定した場合にのみ表示されます）。	🕮49
③ **AFモード**	ライブビュー撮影時のAFモードを表示します。	🕮45
④ **AFエリアモード**	ライブビュー撮影時のAFエリアモードを表示します。	🕮46
⑤ **フォーカスポイント**	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモード（🕮46）により異なります。	🕮43
⑥ **明るさインジケーター**	液晶モニターの明るさを調整できます。	🕮50
⑦ **操作ガイド**	静止画ライブビュー表示時に操作できる機能を表示します。	🕮49、50

▌液晶モニターの色みの調整方法

フラッシュ撮影用に、ホワイトバランス（⊞141）を［**フラッシュ**］や［**プリセットマニュアル**］などに設定しているときは、ライブビュー表示中の液晶モニターの色みが、実際に撮影される画像と異なる場合があります。静止画ライブビュー時には、次の方法で液晶モニターの表示を好みの色みに調整できます。たとえば、フラッシュ撮影時の画像の色みに合わせることにより、環境光による色かぶりの影響を少なくすることができます。

1 設定する機能を選ぶ

- ⊖⊠ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押して、画面左の液晶モニターの色み設定を選びます。

2 液晶モニターの色みを設定する

- ⊖⊠ボタンを押したままメインコマンドダイヤルを回して、色みの設定を変更します。
- **– –**を選ぶと、撮影時の色みを液晶モニターで確認できます。
- **– –**以外の設定を選んだときは、ここで設定した色みは、撮影した画像には反映されません。
- 液晶モニターの色みは、カメラの電源をOFFにすると解除されます。

前回設定した色みでライブビュー表示を行うには

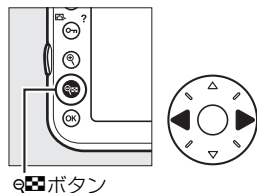
WBボタンを押しながらLvボタンを押すと、前回設定した色みの表示で静止画ライブビューを開始できます。

Lv

❚❚ 液晶モニターの明るさの調整方法

液晶モニターを好みの明るさに調整できます（露出プレビュー時を除く）。

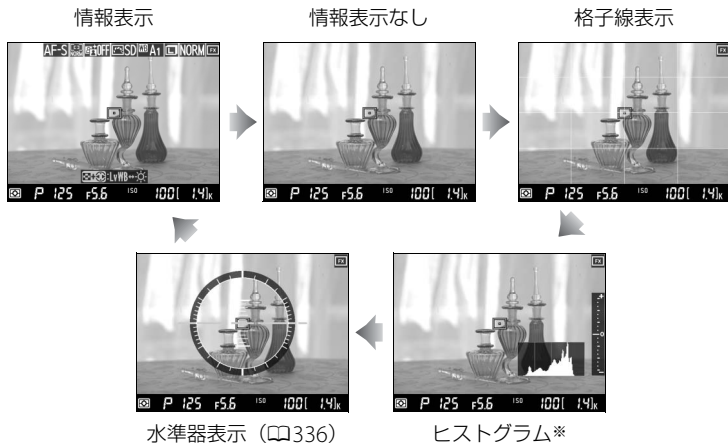
1 設定する機能を選ぶ

- ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押して、画面右の明るさインジケーターを選びます。

2 明るさを調整する

- ボタンを押したまま▲または▼を押して、明るさを調整します。
- ［**A**］（オート）を選ぶと、液晶モニターが点灯した時点で照度センサー（□5）が測定した周囲の明るさに合わせて、カメラが自動で液晶モニターを見やすい明るさに調整します。
- 液晶モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。

静止画ライブビュー時の表示切り換え

静止画ライブビュー中は、info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

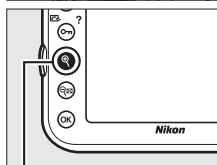
水準器表示（□336）　ヒストグラム※

※ 露出プレビュー時（□53）のみ表示されます。

Lv

マニュアルフォーカスで撮影するときのピント合わせ

フォーカスモードセレクターを**M**に合わせて、マニュアルフォーカス（🕮99）で撮影するときは、次の方法で被写体にピントを合わせます。

- レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。
- 🔍ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、ピントの状態を細部まで確認できます（最大約23倍）。

🔍ボタン

  - 🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍▦ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
  - 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
  - ライブビュー撮影時の AF エリアモードがワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFの場合、拡大表示中にマルチセレクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。

ナビゲーションウィンドウ

非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズ使用時は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（🕮209）で焦点距離と開放絞り値を設定してください。
- 非CPUレンズ（🕮379）は、露出モードが**A**、**M**のときのみ使用できます（🕮115）。
- 絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。

✔ 露出プレビューの制限について

- 露出プレビュー時の露出補正（□128）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。
- シャッタースピードが bulb の場合、露出プレビュー画面には切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
  - 内蔵フラッシュまたは別売スピードライト使用時
  - ［**アクティブ D- ライティング**］（□170）または［**HDR（ハイダイナミックレンジ)**］（□172）を設定した場合
  - ピクチャーコントロールの［**コントラスト**］が［**A**］（オート）の場合（□162）
  - シャッタースピードをx 250に設定した場合
  - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります（露出インジケーターが点滅します）。

ライブビュー撮影時の露出について

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時では、シーンによっては、露出が異なる場合があります。ライブビュー撮影時は、ライブビュー表示に適した測光を行うため、液晶モニターに表示された明るさに近い露出で撮影されます。

Lv

ライブビュー撮影時のご注意

- 静止画ライブビュー中は、液晶モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
  - 輝点が発生する
- レンズを取り外すと、ライブビュー撮影は終了します。
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

  カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください（□105）。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 静止画ライブビュー時に動画撮影ボタンを押しても動画撮影はできません。ライブビューセレクターを🎥に合わせて動画ライブビューに切り換えてください（□57）。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的にライブビューを終了する30 秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□48）。
  - カスタムメニュー c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□285）の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。［**液晶モニターのパワーオフ時間**］を［**制限なし**］に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
  - カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 画像再生時はカウントダウンを表示しませんが、カウントダウン時間でライブビューを自動的に終了します。

ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー撮影時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-S以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

HDMI接続時の撮影について

- HDMI 対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。HDMI出力時の静止画ライブビュー撮影画面の表示は、右のようになります。
- HDMI接続時の露出プレビュー中（□53）は、info ボタンを押すたびにヒストグラムの表示・非表示が切り替わります。

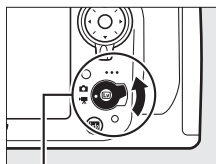
関連ページ

- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→ f2［**中央ボタンの機能**］（□305）
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する→ ［**フリッカー低減**］（□327）

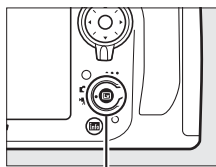
動画ライブビュー撮影と再生

動画ライブビューで撮影する

液晶モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

1 ライブビューセレクターを 🎥（動画ライブビュー）に合わせる

ライブビュー
セレクター

2 Lvボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、液晶モニターに被写体が表示されます。
- 動画ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を液晶モニターで確認できます。

Lvボタン

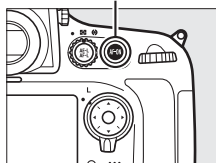
3 ライブビュー撮影時のAFモードを設定する

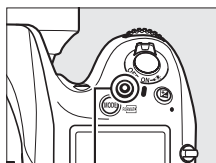
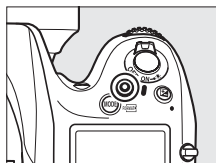
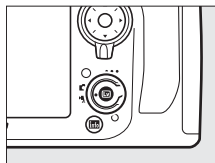
- ライブビュー撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」（□45）をご覧ください。

4 ライブビュー撮影時のAFエリアモードを設定する

- ライブビュー撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」（□46）をご覧ください。

5 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

- 動画撮影を開始する前に、「静止画ライブビュー撮影」の手順3と4（□43）と同じ手順で被写体にピントを合わせます。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

6 動画撮影ボタンを押して、撮影を始める

- 内蔵マイク（□3）で音声を記録します（モノラル録音）。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- オートフォーカスでの撮影時は、AF-ONボタンを押してピントを合わせます。
- 録画中は録画中マークが液晶モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も液晶モニターで確認できます。
- 露出を固定（AEロック）するには、AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押し続けます（□126）。
- 動画撮影中は±3段の範囲で露出補正ができます（□128）。

7 もう一度動画撮影ボタンを押して、撮影を終了する

8 Lvボタンを押してライブビューを終了する

インデックスマーキングについて

カスタムメニューg2［**プレビューボタンの機能**］（□320）が［**インデックスマーキング**］の場合、動画撮影中にプレビューボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます（□71）。インデックスマークは一つの動画に最大20個まで付けられます。

プレビューボタン

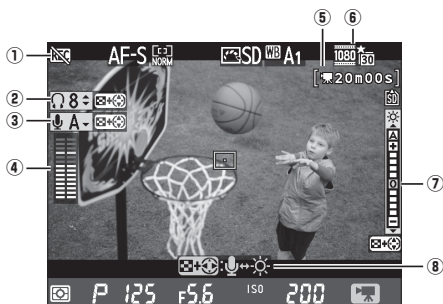
インデックスマーク

静止画撮影情報の表示

カスタムメニューg1［**Fnボタンの機能**］（□320）、g2［**プレビューボタンの機能**］（□320）またはg3［**AE/AFロックボタンの機能**］（□321）で［**静止画撮影情報の表示**］がいずれかのボタンに割り当てられている場合、そのボタンを押すと動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報を表示できます。もう一度ボタンを押すと動画の撮影情報表示に戻ります。

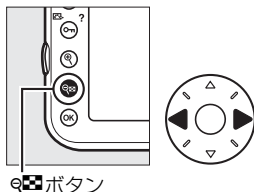
動画の撮影情報

静止画の撮影情報

動画ライブビュー中の情報表示

① 動画記録禁止マーク	動画が撮影できない状態のとき表示します。	📖64
② ヘッドホン音量設定	市販のヘッドホン接続時に表示されます。動画撮影時のヘッドホン出力の音量を調整できます。	📖61
③ マイク感度設定	動画撮影時のマイク感度を調整できます。	📖61
④ 音声レベルインジケーター	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。別売のステレオマイクロホンME-1または市販のマイクロホンを接続している場合、インジケーターの下にLとRが表示されます。	📖61
⑤ 動画記録残り時間	動画撮影時に、メモリーカードに記録できる残り時間を表示します。	📖58
⑥ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	📖67
⑦ 明るさインジケーター	液晶モニターの明るさを調整できます。	📖61
⑧ 操作ガイド	動画ライブビュー表示時に操作できる機能を表示します。	📖61

マイク感度、ヘッドホン音量、液晶モニターの明るさの調整方法

1 調整する機能を選ぶ

- 動画ライブビュー時に🔍ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、調整する機能が切り替わります。
- 選んだ機能の表示が黄色に変わります。

2 設定を調整する

- 🔍ボタンを押したまま▲または▼を押して値を調整します。
- 動画撮影中はマイク感度およびヘッドホンの音量を変更できません。
- 液晶モニターの明るさを調節しても（📖50）、撮影した画像には反映されません。

別売ステレオマイクロホンについて

別売ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの振動ノイズが録音されるのを低減できます（📖396）。

ヘッドホンについて

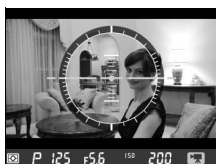
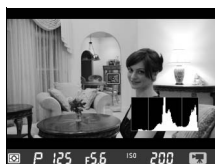
- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから再生されます。
- マイク感度を最大にして撮影した動画を再生すると、大音量で再生される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

動画ライブビュー時の表示切り換え

動画ライブビュー中は、info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

情報表示

情報表示なし

格子線表示

水準器表示（🕮336）

ヒストグラム

動画ライブビュー中の静止画撮影について

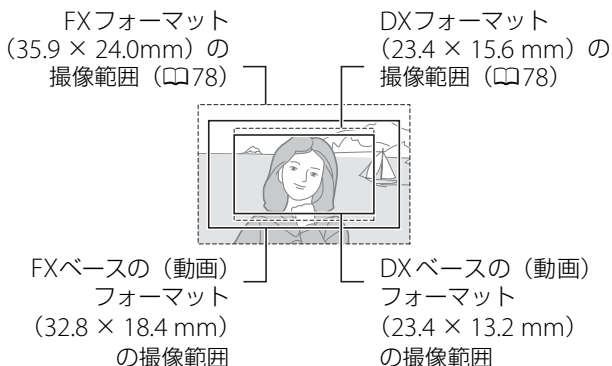
- 動画ライブビュー中にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、動画と同じ撮像範囲（アスペクト比（縦横比）16：9）の静止画（🕮63）を撮影します。動画撮影中の場合、動画撮影は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 動画ライブビュー中に静止画撮影を行う場合、露出補正（🕮128）は、通常と同じ±5段まで設定できますが、液晶モニターで確認できるのは±3段までになります。
- 動画ライブビュー中の静止画撮影の露出は液晶モニターでは確認できません。露出モードP、S、Aでの撮影をおすすめします。露出モードMで撮影する場合は、静止画ライブビュー（🕮43）で適正露出に合わせたあと、ライブビューセレクターを動画に切り換えて撮像範囲を確認してから撮影してください。

リモートコードについて

動画撮影時に別売のリモートコード（🕮395）を使用する場合は、カスタムメニューg4［**シャッターボタンの機能**］を［**動画撮影**］に設定すると、リモートコードのシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

動画ライブビュー時の撮像範囲

動画ライブビューで撮影する動画や静止画のアスペクト比（縦横比）は、16：9になります。

- DXレンズを装着して撮影メニュー［**撮像範囲**］（□77）の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定するか、［**撮像範囲設定**］を［**DX (24×16) 1.5×**］にして撮影する場合、動画ライブビューでの撮像範囲はDXベースの（動画）フォーマットになります（□が表示されます）。
- その他の撮像範囲に設定して撮影する場合は、動画ライブビューでの撮像範囲はFXベースの（動画）フォーマットになります。

動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズと画質モードについて

動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです（画質モードは、撮影メニュー［**画質モード**］（□83）で設定した内容になります）。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度300dpiの場合）※
FXベースの（動画）フォーマット	**L**（6720×3776ピクセル）	約56.9× 32.0 cm
	M（5040×2832ピクセル）	約42.7× 24.0 cm
	S（3360×1888ピクセル）	約28.4× 16.0 cm
DXベースの（動画）フォーマット	**L**（4800×2704ピクセル）	約40.6× 22.9 cm
	M（3600×2024ピクセル）	約30.5× 17.1 cm
	S（2400×1352ピクセル）	約20.3× 11.4 cm

※ ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

動画撮影について

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間に満たないで撮影が自動的に終了する場合があります（□442）。
- 動画ライブビュー時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- （動画記録禁止）マーク（□60）が表示されているときは、動画撮影できません。
- １つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画ライブビュー時は測光モードがマルチパターン測光に固定されます。
- 動画撮影を開始する前に［**ピクチャーコントロール**］（□159）または［**色空間**］（□268）を設定すると、設定した内容で動画撮影できます。
- 動画ライブビュー時は、内蔵フラッシュと別売のスピードライト（□385）は発光しません。
- 露出モードP、Sで画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度動画ライブビューを開始するか、露出モードをAにして、絞りの調整を行ってください。
- 各露出モードで動画ライブビュー時に設定できる機能は、次の通りです。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度	露出補正
P、S	—	—	—	○
A	○	—	—	○
M	○	○	○	—

- 動画撮影中に **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます（□142）。

マニュアル露出での動画撮影について

露出モードMで動画撮影する場合、シャッタースピードとISO感度を次の範囲で設定できます。

- ISO感度：100 ～ Hi 2.0
- シャッタースピード：1/25 ～ 1/8000秒（動画のフレームレート（□67）によって、低速側の制限が異なります。）

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合、画面の上部や下部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 次のような場合は、動画撮影は自動的に終了します。
  - 最長記録時間に達した場合
  - メモリーカードの残量がなくなった場合
  - レンズを取り外した場合
- 長時間ライブビューで撮影すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、カメラは自動的に動画撮影を終了することがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連写（連続撮影）を行った直後など

  カメラが熱くなってライブビューまたは動画撮影を開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューおよび動画撮影を一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、レンズの動作音が録音されることがあります。
  - オートフォーカス作動中
  - 絞り値を変更した場合
  - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）をONにした場合

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30 秒前から、液晶モニターの左上にカウントダウンを表示します（□48）。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、液晶モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

HDMI接続時の撮影について

- HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。
- 動画撮影中の HDMI 対応機器の表示は右のようになります。カメラの液晶モニターでは、音声レベルインジケーター、水準器、ヒストグラムが非表示になります。
- 動画撮影中は、infoボタンを使って画面の表示を切り換えることはできません。

関連ページ

- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意→「ライブビュー撮影時のオートフォーカスについてのご注意」（□55）
- レンズのフォーカスリングを使って（マニュアルフォーカスで）ピントを合わせる→「マニュアルフォーカスで撮影するときのピント合わせ」（□52）
- 動画の画像サイズや画質、マイク感度、記録先のスロットを設定する→［**動画の設定**］（□67）
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする→ f2［**中央ボタンの機能**］（□305）
- 動画ライブビュー時の**Fn**ボタン、プレビューボタン、AE-L/AF-L AE/AFロックボタン、シャッターボタンの機能を設定する→ g1［**Fnボタンの機能**］（□320）、g2［**プレビューボタンの機能**］（□320）、g3［**AE/AFロックボタンの機能**］（□321）、g4［**シャッターボタンの機能**］（□322）
- AE-L/AF-L AE/AF ロックボタンを押し続けなくても AE ロック状態を維持できるようにする→ g3［**AE/AFロックボタンの機能**］（□321）
- シャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影を開始、終了できるようにする→ g4［**シャッターボタンの機能**］（□322）
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する→［**フリッカー低減**］（□327）

動画の設定

撮影メニューの［**動画の設定**］では、動画を記録するときの［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］、［**録音設定**］、［**動画記録先**］を設定できます。

■画像サイズ/フレームレート、動画の画質

［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）/フレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を高画質と標準から選べます。

	画像サイズ（ピクセル）/ フレームレート※1	最大ビットレート（★高画質/標準）	最長記録時間
1080 30	**1920×1080　30fps**※2	24Mbps/12Mbps	29分59秒
1080 25	**1920×1080　25fps**※2	24Mbps/12Mbps	
1080 24	**1920×1080　24fps**※2	24Mbps/12Mbps	
720 60	**1280× 720　60fps**※2	24Mbps/12Mbps	
720 50	**1280× 720　50fps**※2	24Mbps/12Mbps	
720 30	**1280× 720　30fps**	12Mbps/8Mbps	
720 25	**1280× 720　25fps**	12Mbps/8Mbps	

※1 60fps：59.94コマ/秒、50fps：50コマ/秒、30fps：29.97コマ/秒、25fps：25コマ/秒、24fps：23.976コマ/秒

※2［**動画の画質**］が［**★高画質**］の場合、最長記録時間は20分になります。

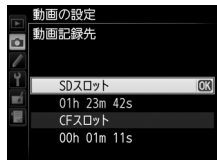
■録音設定

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホンME-1（🕮61）の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート（A）	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。［1］～［20］の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。

■動画記録先

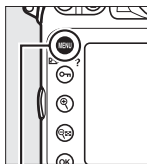
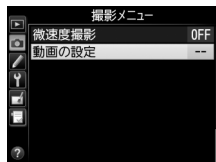
メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

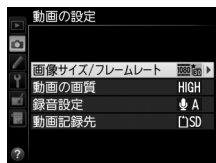
- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだ動画記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。
- 動画ライブビュー時に撮影した静止画（🕮62）は、撮影メニューの［**主スロットの選択**］（🕮88）で選んだスロットに記録されます。

音声が記録されていない動画の表示について

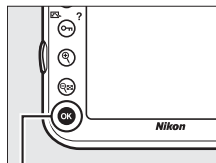
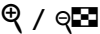
撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に🔇（音声なしマーク）が表示されます。

動画の設定の変更方法

1 撮影メニューの［動画の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**動画の設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 動画の設定項目を選ぶ

- ［**画像サイズ/フレームレート**］、［**動画の画質**］、［**録音設定**］、［**動画記録先**］のうちいずれかを選んで▶を押すと、設定画面が表示されます。

3 設定したい項目を選ぶ

- ⓞボタンを押して設定します。

ⓞボタン

動画の再生

1コマ表示モード（□215）で🎥マークが表示されている画像が動画です。マルチセレクターの**中央**ボタンを押して動画を再生します。

▮▮動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に**中央**ボタンを押すと、動画再生を再開します。
巻き戻しする/早送りする		• 動画の再生中に◀を押すと巻き戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • ◀を押し続けると、最初のコマに移動し、▶を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには ⏮ アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。

コマ戻しする/コマ送りする		• 一時停止中に ◀ または ▶ を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀ または ▶ を押し続けると、連続でコマ戻し/コマ送りします。
インデックスマークに移動する		動画撮影時に設定したインデックスマークに移動するには、メインコマンドダイヤルを回します。メインコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。
先頭フレームに移動する/最終フレームに移動する		動画にインデックスマークがない場合にメインコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。30秒以上の動画の場合、最終フレームでメインコマンドダイヤルを回すと30秒前に移動します。
音量を調節する	⊕ / ⊖	⊕ボタンを押すと音量が大きくなり、⊖ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	OK	一時停止中にOKボタンを押すと、[動画編集]画面を表示します（□72）。
再生終了	▲ / ▶	▲または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□253）。

インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画（□59）の場合、1コマ表示画面に■マークが表示されます。

動画の編集

撮影した動画を編集できます。

始点/終点の設定	選択した範囲を残します。
選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す

1 編集したい動画を表示する

- ▶ボタンを押して液晶モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀または▶で編集したい動画を選びます。

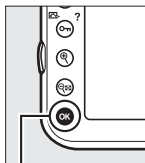
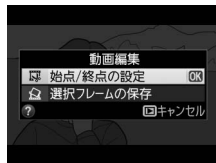
▶ボタン

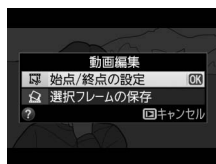
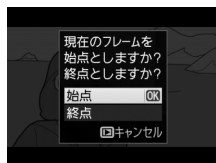
2 編集したい部分で動画を一時停止する

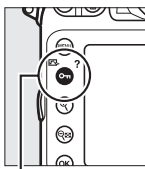
- **中央**ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中に▼を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- メインコマンドダイヤルを回すと、動画撮影時に設定したインデックスマークに移動します。

プログレスバー

3 OKボタンを押す

- OKボタンを押すと、[動画編集] 画面が表示されます。

OKボタン

4 [始点/終点の設定] を選ぶ

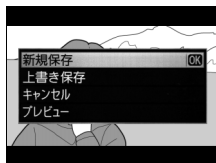
- [**始点/終点の設定**] を選んでOKボタンを押します。

- 右の画面が表示されるので、現在の位置を始点とするか終点とするかを選んでOKボタンを押すと、始点/終点の設定画面が表示されます。

5 始点または終点を調整する

- ◀または▶を押して、始点または終点の位置を調整します。
- O-n (/?) ボタンを押すと、(始点) または (終点) を切り換えられます。

O-n (/?) ボタン

- 動画撮影時にインデックスマークを設定した場合 (59) は、メインコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。

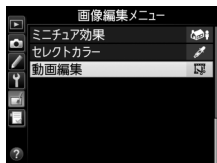
6 ▲を押して始点と終点を決定する

7 動画ファイルを作成する

- ［**新規保存**］を選んで㊉ボタンを押すと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。
- ［**上書き保存**］を選んで㊉ボタンを押すと、編集前の動画を上書きして動画を保存します。
- ［**キャンセル**］を選んで㊉ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。
- ［**プレビュー**］を選んで㊉ボタンを押すと、設定した始点から終点の範囲の動画が再生されます。
- 編集した動画には、１コマ表示時に🎞が表示されます。

動画編集時のご注意

- メモリーカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- ［**始点/終点の設定**］では、2秒未満の動画は編集できません。手順6で始点と終点を決めるときに、動画ファイルを作成できない位置では、再生時間の表示が赤色に変わり、手順7に進めません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

画像編集メニュー［動画編集］

動画編集は、メニュー操作でも行えます（□340）。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

1 編集したい部分で動画を一時停止する

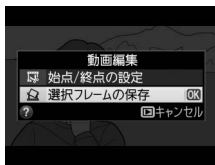
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの▼を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで、再生中の位置の目安を確認できます。

2 ㉇ボタンを押す

㉇ボタン

- ㉇ボタンを押すと、［動画編集］画面が表示されます。

3 ［選択フレームの保存］を選ぶ

- ［**選択フレームの保存**］を選んで、㉇ボタンを押します。

4 切り出すフレームを決める

- ▲を押して、切り出すフレームを決定します。

5 JPEG画像を作成する

- ［**はい**］を選んで㊙ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。
- 作成したJPEG画像には、1コマ表示時に▣が表示されます。

［選択フレームの保存］で作成した画像について

- 画質モード［**FINE**］（□83）のJPEG画像を作成します。
- 動画から作成したJPEG画像に対して、画像編集することはできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

画像の記録

撮像範囲を変更する

D800は、撮像範囲が［**FX (36×24) 1.0×**］（FXフォーマット）の撮像素子（35.9 × 24.0 mm）を搭載しているため、35mm判カメラに準じた撮影画面サイズ（画角）で撮影できます。DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］（DXフォーマット）に切り換え、DXレンズの画角で撮影できます。

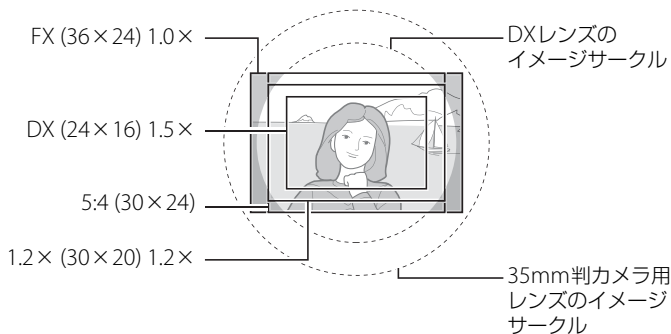
DX自動切り換え

DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］（DXフォーマット）に切り換えるように設定できます。

する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX (24×16) 1.5×**］に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

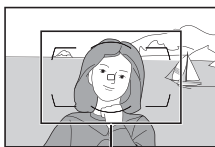
■ 撮像範囲設定

撮像範囲を設定できます（□80）。

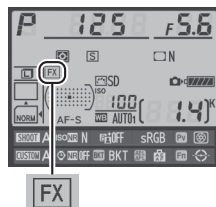
FX **FX (36 × 24) 1.0×（FX フォーマット）**	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマット（35.9 × 24.0 mm）で画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
1.2x **1.2× (30 × 20) 1.2×**	30.0 × 19.9 mmで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。
DX **DX (24 × 16) 1.5×（DX フォーマット）**	DXフォーマット（23.4 × 15.6 mm）で画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
5:4 **5:4 (30 × 24)**	アスペクト比（縦横比）が5：4（30.0 × 24.0 mm）の画像を記録します。

「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して［**DX自動切り換え**］を［**しない**］に設定して［**撮像範囲設定**］を［**FX (36 × 24) 1.0×**］や［**1.2× (30 × 20) 1.2×**］、［**5:4 (30 × 24)**］にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

ファインダーの表示について

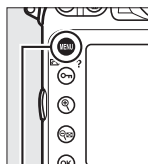
撮像範囲が［**1.2× (30×20) 1.2×**］、［**DX (24×16) 1.5×**］、［**5:4 (30×24)**］のときは、下図のように表示します。カスタムメニュー a5［**フォーカスポイント照明**］（□277）を［**しない**］に設定すると、記録されない部分が薄暗く表示されます。

1.2× (30×20) 1.2×　　DX (24×16) 1.5×　　5:4 (30×24)

撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます（□10）。

撮像範囲は、撮影メニューの［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］で設定するか、**Fn**ボタンとコマンドダイヤルで設定します。

撮影メニューの［撮像範囲］で設定する場合

1 撮影メニューの［撮像範囲］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**撮像範囲**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［撮像範囲］画面が表示されます。

2 ［撮像範囲設定］を選ぶ

- ［**撮像範囲設定**］を選んで▶を押すと、［撮像範囲設定］画面が表示されます。

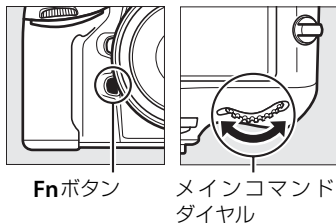
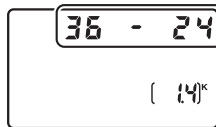
3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、Ⓞボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます（□79）。

■ Fnボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］（□307）の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［撮像範囲選択］に設定する

- **Fn**ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、撮像範囲の選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます（□79）。
- **Fn**ボタンを押すと、表示パネルやファインダー内表示、インフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。

撮像範囲	表示
FX (36 × 24) 1.0×（FXフォーマット）	36 - 24
1.2× (30 × 20) 1.2×	30 - 20
DX (24 × 16) 1.5×（DXフォーマット）	24 - 16
5:4 (30 × 24)	30 - 24

撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の［**DX自動切り換え**］を［**する**］（□77）に設定してDXレンズを装着している場合、**Fn**ボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズに設定した場合でも、［**撮像範囲**］の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

関連ページ

- 「動画ライブビュー時の撮像範囲」（□63）
- プレビューボタンで撮像範囲を切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（□311）
- AE-L AF-L AE/AFロックボタンで撮像範囲を切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□444）

画質モードを変更する

画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

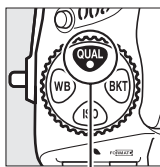
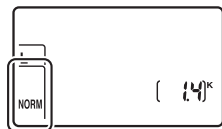
画質モード		ファイル形式	内容
RAW		NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、パソコン上で変更できます。
TIFF（RGB）		TIFF（RGB）	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。
FINE	**高**↑	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
NORMAL	**画質**		画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
BASIC	↓**低**		画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
RAW＋FINE		NEF ＋ JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW＋NORMAL			RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW＋BASIC			RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□444）

■ 画質モードの設定方法

QUALボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、表示パネルに表示されます。

QUALボタン　メインコマンドダイヤル

表示パネル

RAW画像について

画質モードでRAWを選んだ場合、画像サイズは設定できません。RAWで保存した画像を付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2などで表示すると、画像サイズは **L**と同じになります（□86）。現像には画像編集メニューの［**RAW現像**］（□353）、または付属のソフトウェアViewNX 2や別売のCapture NX 2（□395）を使います。ViewNX 2は付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってインストールできます。

［画質モード］について

画質モードは撮影メニュー（□262）でも設定できます。

RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用している場合や、メモリーカードを2枚使用していても［**副スロットの機能**］（□88）が［**順次記録**］または［**バックアップ記録**］の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- ［**副スロットの機能**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］に設定してメモリーカードを2 枚使用している場合、［**主スロットの選択**］（□88）で選んだ主スロットにRAW画像が、もう一方のスロット（副スロット）にJPEG画像が記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除しても、RAW画像は削除されません。

■ JPEG画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**JPEG圧縮**］を選んで、画質モードがJPEG（FINE）、JPEG（NORMAL）、JPEG（BASIC）の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**RAW記録**］で［**記録方式**］を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON **ロスレス圧縮RAW**	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は［**非圧縮RAW**］と同等の画質になります。
ON **圧縮RAW**	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は［**非圧縮RAW**］とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、［**ロスレス圧縮RAW**］や［**圧縮RAW**］に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**RAW記録**］で［**記録ビットモード**］を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit **12ビット記録**	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit **14ビット記録**	RAW画像を14ビットで記録します。［**12ビット記録**］の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは［**12ビット記録**］よりも大きくなります。

画像サイズを変更する

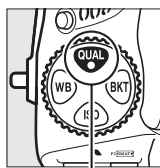
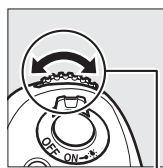
画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を、［**L**］、［**M**］、［**S**］から設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（0077）。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ（出力解像度300dpiの場合）※
FX (36 × 24) 1.0×	**L**（7360×4912ピクセル）	約62.3× 41.6 cm
	M（5520×3680ピクセル）	約46.7× 31.2 cm
	S（3680×2456ピクセル）	約31.2× 20.8 cm
1.2× (30 × 20) 1.2×	**L**（6144×4080ピクセル）	約52.0× 34.5 cm
	M（4608×3056ピクセル）	約39.0× 25.9 cm
	S（3072×2040ピクセル）	約26.0× 17.3 cm
DX (24 × 16) 1.5×	**L**（4800×3200ピクセル）	約40.6× 27.1 cm
	M（3600×2400ピクセル）	約30.5× 20.3 cm
	S（2400×1600ピクセル）	約20.3× 13.5 cm
5:4 (30 × 24)	**L**（6144×4912ピクセル）	約52.0× 41.6 cm
	M（4608×3680ピクセル）	約39.0× 31.2 cm
	S（3072×2456ピクセル）	約26.0× 20.8 cm

※ ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cmで計算しています。

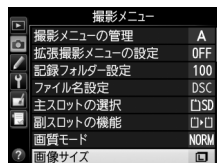
■ 画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 画像サイズは、表示パネルに表示されます。

QUALボタン

サブコマンドダイヤル

表示パネル

[画像サイズ] について

画像サイズは撮影メニュー（□262）でも設定できます。

2枚のメモリーカードに記録する（主スロットの選択、副スロットの機能）

このカメラは、SDカードとCFカードを同時に使うことができます。このとき、優先的に使うスロット（主スロット）を選んだり、もう一方のスロット（副スロット）の機能を設定できます。

■ 優先的に使うスロットを決める

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**主スロットの選択**］を選んで、撮影時や再生時に優先的に使うスロットを設定します。

SDスロット	SDカードを優先的に使うときに選びます。
CFスロット	CFカードを優先的に使うときに選びます。

■ 副スロットの機能

MENUボタンを押して、撮影メニュー［**副スロットの機能**］を選んで、副スロットへの記録方法を設定します。

順次記録	主スロットから優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先を副スロットに変更します。
バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像を主スロット、副スロットに記録します。
RAW+JPEG分割記録	• ［**画質モード**］が［**RAW + FINE**］、［**RAW + NORMAL**］、または［**RAW + BASIC**］の場合、主スロットにRAW画像、副スロットにJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。

［バックアップ記録］と［RAW+JPEG分割記録］について

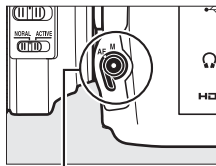
- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

動画を記録するスロットについて

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**動画記録先**］で、記録するスロットを設定できます（□68）。

フォーカス

ピントを自動で合わせて撮影する（AF: オートフォーカス）

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセレクター

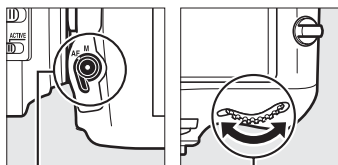
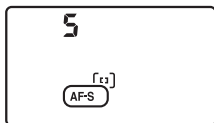
AFモードを変更する

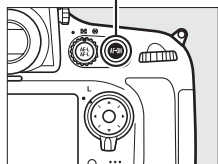
オートフォーカスでのピントの合わせ方を選びます。

AF-S	**シングルAFサーボ**	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです（□276）。
AF-C	**コンティニュアスAFサーボ**	ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（□90）に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです（□275）。

AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AF モードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。

AF-ONボタンについて

AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときに、シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

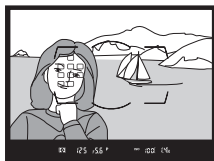
関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → a1［**AF-Cモード時の優先**］（□275）
- AF-Sをレリーズ優先モードにする → a2［**AF-Sモード時の優先**］（□276）
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → a4［**半押しAFレンズ駆動**］（□277）
- ライブビュー/動画撮影時のAFモードを設定する →「AFモードを変更する」（□45）

AFエリアモードを変更する

オートフォーカスでピントを合わせるフォーカスポイントをカメラがどのように選択するかを設定します。

<table>
<tr><th>AFエリアモード</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>シングル
ポイントAF</td><td>フォーカスポイントを自分で選べます（🕮94）。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。</td></tr>
<tr><td>ダイナミック
AF・9点</td><td rowspan="3">AFモードのAF-C（🕮89）との組み合わせで、撮影者が選択した1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
• ダイナミックAF・9点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。
• ダイナミックAF・21点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。
• ダイナミックAF・51点：被写体の動きが速く、選択したフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。</td></tr>
<tr><td>ダイナミック
AF・21点</td></tr>
<tr><td>ダイナミック
AF・51点</td></tr>
<tr><td>3D-
トラッキング</td><td>AFモードのAF-C（🕮89）との組み合わせで、51点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。
• カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。</td></tr>
</table>

オートエリアAF	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。 • AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを約1秒間表示します。**AF-C**のときは、ピントが合ったフォーカスポイント全てを一瞬表示してから、主に使用するフォーカスポイント1点を表示します。

3D-トラッキングについて

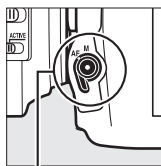
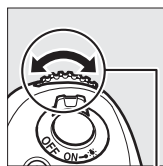
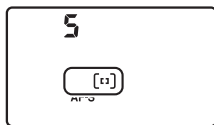
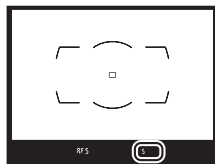
3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選択したフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AF エリアモードは、表示パネル、ファインダー内表示に表示されます。

AFモードボタン

サブコマンドダイヤル

表示パネル

ファインダー内表示

AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示
シングルポイントAF	S	S
ダイナミックAF・9点※	d 9	d 9
ダイナミックAF・21点※	d21	d21
ダイナミックAF・51点※	d51	d51
3D-トラッキング	3d	3d
オートエリアAF	Auto	Auto

※実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

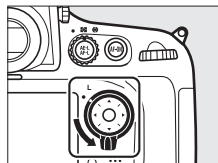
関連ページ

- AFロックオンを解除する → a3［**AFロックオン**］（□276）
- ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモードを設定する →「AFエリアモードを変更する」（□46）

フォーカスポイントを自分で選ぶ

このカメラには、51カ所のフォーカスポイント（自動でピント合わせを行う領域）があります。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して•に合わせ、ロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。

フォーカスポイントロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- **中央**ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選択されます。

- フォーカスポイントロックレバーを**L**の位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。

オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に選択するため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

関連ページ

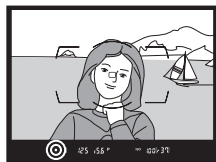
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する → a5［**フォーカスポイント照明**］（277）
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする → a6［**フォーカスポイント循環選択**］（277）
- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を変える → a7［**AF点数切り換え**］（278）
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押したときの機能を変更する → f2［**中央ボタンの機能**］（305）

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□98）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

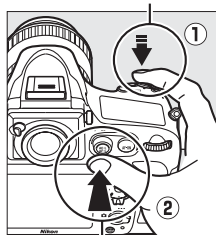
フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□91）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする**

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

2 **ピントを固定する**

AFモード（□89）がAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押すと（②）、ピントが固定されます。AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

- AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押している間、ファインダー内には**AE-L**マークが点灯します。

AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったまままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1［**半押しAEロック**］を［**する**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます（□283）。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのまままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- AE-L/AF-L AE/AFロックボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押したまままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

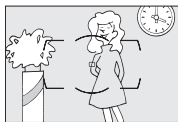
AF-ONボタンを使ったフォーカスロックについて

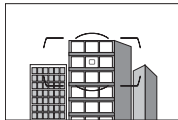
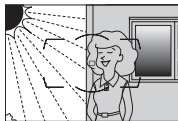
- シャッターボタンの代わりに **AF-ON** ボタンを押してピントを合わせることもできます（□90）。
- ファインダー撮影時にカスタムメニューa4［**半押しAFレンズ駆動**］（□277）が［**しない**］に設定されている場合は、**AF-ON**ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON**ボタンでピントを合わせた後で**AF-ON**ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持し、AFモードのカスタム設定（カスタムメニューa1［**AF-Cモード時の優先**］（□275）またはa2［**AF-Sモード時の優先**］（□276））にかかわらず、常にシャッターをきることができます（ただし、ファインダー内にはピント表示（●）は点灯しません）。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度**AF-ON**ボタンを押してください。

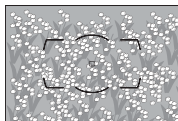
関連ページ

AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押したときの機能を変更する → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（🕮99）でピントを合わせるか、フォーカスロック（🕮96）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）

フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
（オリの中の動物など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓やブラインドなど）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

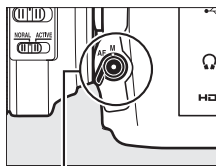
背景に対して被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

ピントを手動で合わせる（MF: マニュアルフォーカス）

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AF-Sレンズを使用している場合:** レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。
- **AFレンズを使用している場合：**
  カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。

フォーカスモードセレクター

- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：**
  カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。

✔ AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

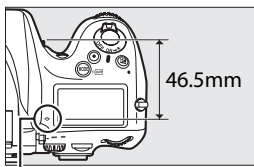
AFレンズでマニュアルフォーカスをする場合は、必ずカメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、カメラやレンズの故障の原因になります。

フォーカスエイドによるピント合わせ

開放F値がF5.6以上明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がF5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは51カ所から選べます。

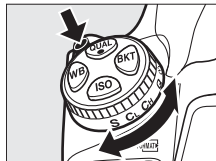
- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□38）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□98）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。

距離基準マークについて

距離基準マーク ⊖ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント：□4）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

距離基準マーク ⊖

レリーズモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

レリーズモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、カスタムメニューd2［**低速連続撮影速度**］（◻287）で設定した速度で連続撮影します（◻102）。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、◻102に記載されている速度で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、カスタムメニューd1［**電子音設定**］（◻286）の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。
⏲ セルフタイマー撮影	シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが作動し、約10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です（◻104）。
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（◻106）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

連続撮影速度について

このカメラは、撮像範囲（□77）の設定や電源の種類（別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12を装着したときなど）で連続撮影速度が変わります。次の表は、AFモードが**AF-C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

電源	CH	CL※1
本体のみ（EN-EL15）	最大約5コマ/秒※2	約1〜5コマ/秒
本体のみ（パワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5b）	最大約6コマ/秒※3	約1〜5コマ/秒
MB-D12装着時（EN-EL15）	最大約5コマ/秒※2	約1〜5コマ/秒
MB-D12装着時（EN-EL18）	最大約6コマ/秒※3	約1〜5コマ/秒
MB-D12装着時（単3形電池）※4	最大約6コマ/秒※3	約1〜5コマ/秒

※1 撮像範囲が［**FX (36×24)1.0×**］または［**5:4 (30×24)**］の場合は、カスタムメニューd2［**低速連続撮影速度**］（□287）で［**5コマ/秒**］に設定しても、実際の連続撮影速度は約4コマ/秒になります。

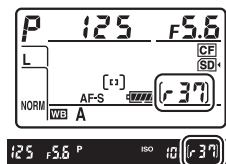
※2 **CH**時の連続撮影速度は、撮像範囲が［**FX (36×24)1.0×**］または［**5:4 (30×24)**］の場合は、最大4コマ/秒になります。［**1.2×(30×20) 1.2×**］または［**DX (24×16)1.5×**］の場合は、最大5コマ/秒になります。

※3 **CH**時の連続撮影速度は、撮像範囲が［**FX (36×24)1.0×**］または［**5:4 (30×24)**］の場合は、最大4コマ/秒になります。［**1.2×(30×20) 1.2×**］の場合は、最大5コマ/秒になります。［**DX (24×16)1.5×**］の場合は、最大6コマ/秒になります。

※4 電池の特性上、電池の消耗時と低温時には連続撮影速度が遅くなることがあります。

- 次の場合は連続撮影速度が遅くなることがあります。
  - シャッタースピードが低速の場合
  - VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正スイッチをONにしたとき
  - 感度自動制御を［**する**］にして感度が自動制御されているとき（□109）
  - バッテリー残量が少ないとき

連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低37コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

連続撮影についてのご注意

- 内蔵フラッシュが上がっているとき（□177）は、連続撮影できません。
- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

関連ページ

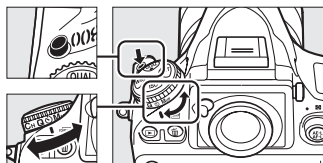
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する → d3［**連続撮影コマ数**］（□287）
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」（□444）

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。

1 三脚などでカメラを固定する

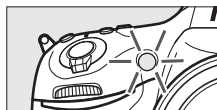
2 レリーズモードダイヤルを⏱（セルフタイマー撮影）に合わせる

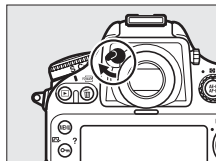
- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、⏱に合わせます。

レリーズモード
ダイヤル

3 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。

4 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

シャッタースピードがbulbにセットされている場合について

露出モードがMで、シャッタースピードがbulbにセットされていても、長時間露出（バルブ）撮影（◻122）はできません。セルフタイマー撮影時には、一定のシャッタースピードでシャッターがきれます。

セルフタイマー撮影時のフラッシュについて

- フラッシュを使って撮影したいときは、撮影を開始する前にフラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内の⚡（レディーライト）が点灯するまでお待ちください（◻177）。セルフタイマーの作動中にフラッシュを上げると、撮影は中止されます。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、カスタムメニューc3［**セルフタイマー**］の［**撮影コマ数**］（◻284）を1コマ以上に設定していても、連続撮影はできません。

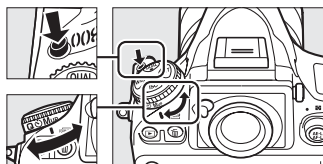
関連ページ

- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する → ✎ c3［**セルフタイマー**］（◻284）
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する → ✎ d1［**電子音設定**］（◻286）

ミラーアップして撮影する

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

1 レリーズモードダイヤルを MUP（ミラーアップ撮影）に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、MUPに合わせます。

レリーズモードダイヤル

2 構図と露出を決めて、シャッターボタンを全押しする

- 半押ししてピントを合わせた後、シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。

3 撮影する

- もう一度シャッターボタンを全押しすると、撮影できます。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。

ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ミラーアップ撮影時には、別売のリモートコード（□395）を使うと効果的です。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。

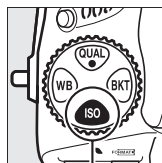
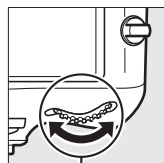
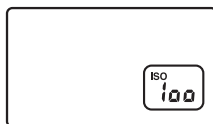
ISO感度

ISO感度を変更する

ISO感度は、フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。ISO感度はISO 100～6400の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 6400から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。

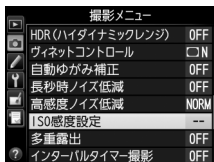
■ ISO感度の設定方法

ISOボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ISO感度は、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。

ISOボタン

メインコマンドダイヤル

表示パネル

ファインダー内表示

[ISO感度]について

ISO感度は撮影メニュー(□262)の[**ISO感度設定**]でも設定できます。ただし、動画ライブビュー時は、ISO感度は撮影メニューで設定できません。動画ライブビュー時に露出モードMでISO感度を設定する場合は、**ISO**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してください(□107)。

高感度(Hi 0.3～Hi 2)に設定した場合

ISO感度を[**Hi 0.3**]に設定すると、ISO 6400に対して約0.3段分増感します(ISO 8000相当)。[**Hi 2**]では約2段分の増感になります(ISO 25600相当)。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ(ざらつき、むら、すじ)が発生しやすくなります。

低感度(Lo 0.3～Lo 1)に設定した場合

ISO感度を[**Lo 0.3**]に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します(ISO 80相当)。[**Lo 1**]では約1段分の減感になります(ISO 50相当)。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では[**100**]以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する → b1[**ISO感度設定ステップ幅**](□280)
- 表示パネルにISO感度を表示したり、コマンドダイヤルを回すだけでISO感度を変更できるようにする → d7[**ISO感度表示と簡易設定**](□289)
- 高感度撮影時のノイズを低減する → [**高感度ノイズ低減**](□271)

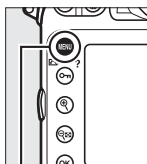
ISO

感度自動制御機能を使う

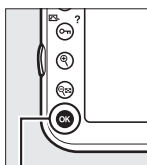
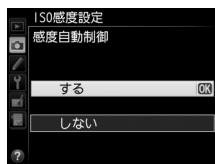
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

■ 感度自動制御の設定方法

1 撮影メニューの［ISO感度設定］で［感度自動制御］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選んで㊙ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

㊙ボタン

ISO

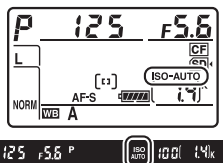
3 感度の制御方法を設定する

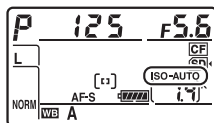
- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。

制御上限感度	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
低速限界設定	露出モード P または A で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～1秒から設定できます。また、［**オート**］に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が高速側に補正され、ブレを軽減できます。 • ［**オート**］を選んで▶を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界の補正を高速側または低速側に調整できます。 • ISO 感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- ⓞボタンを押して設定します。

ISO

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。**ISO-AUTO**表示が点灯している場合は、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO-AUTO**表示が点滅し、制御されたISO感度がファインダー内表示に表示されます。

感度自動制御の設定について

ISO ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、［**感度自動制御**］を**ISO-AUTO**［**する**］または**ISO**［**しない**］に設定できます（□109）。

感度自動制御についてのご注意

- ISO 感度が高くなると、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。
- ［**ISO感度**］で設定したISO感度よりも、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が低い場合、［**制御上限感度**］で設定したISO感度が優先されます。
- フラッシュ撮影時は、［**低速限界設定**］で設定したシャッタースピードよりも、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（□294）で設定したシャッタースピードが優先されます。
- 非CPUレンズ使用時は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 内蔵フラッシュ撮影時または別売スピードライト（□385）の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

測光・露出

被写体の測光方法を変更する（測光モード）

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

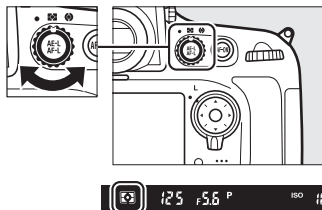
マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光※	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b5［**中央部重点測光範囲**］（□282）で変更できますが、非CPUレンズ使用時は、b5の設定を［**画面全体の平均**］にすると画面全体の平均になり、それ以外にするとφ12mm相当になります。
スポット測光※	フォーカスポイントに重なるφ4mm 相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード（□91）がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。

※非CPUレンズ使用時は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□209）で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。

■ 測光モードの設定方法

測光モードダイヤルを回す

- 測光モードは、ファインダー内表示で確認できます。

測光モードダイヤル

マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

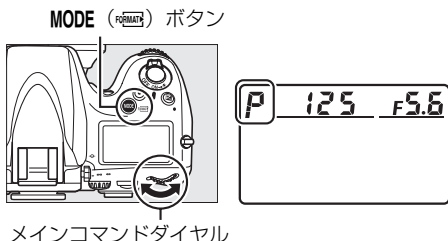
- **CPUレンズ**
  - **「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」：** GまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
  - **「RGBマルチパターン測光Ⅲ」：** GまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。
- **非CPUレンズ**
  - セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□209）でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」という測光方式になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

関連ページ

- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → b5［**中央部重点測光範囲**］（□282）
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → b6［**基準露出レベルの調節**］（□282）

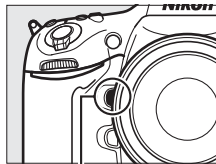
シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

MODE（FORMAT）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。

- 表示パネルの露出モードのアイコンが切り替わります。

使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリング（□377）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードがPまたはSのときに非CPUレンズ（□379）を装着すると、露出モードを自動的にAに切り換えて制御します。このとき、表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内表示にAが点灯します。

被写界深度のプレビュー

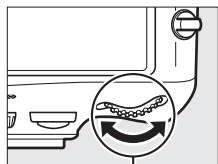
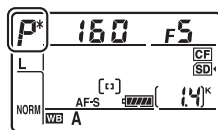
プレビューボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム（□386）対応スピードライト（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600など）使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe4［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください（□303）。

P（プログラムオート）

シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

プログラムシフトについて

露出モードPでは、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク✱が点灯します。

メインコマンドダイヤル

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク✱が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

関連ページ

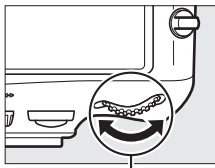
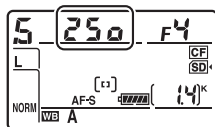
- 「露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図」（□417）
- 「半押しタイマーについて」（□40）

S（シャッター優先オート）

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

速いシャッタースピードのとき：
1/1600 秒

遅いシャッタースピードのとき：
1/6秒

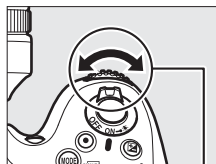
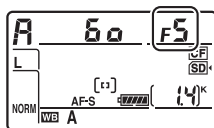
半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピードを設定する

メインコマンドダイヤル

- シャッタースピードは1/8000（8000）〜30秒（30''）、x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（□124）。

A（絞り優先オート）

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込むことによって、手前から奥まで鮮明な写真を撮影したり、絞りを開くことによって、背景をぼかして草花や人物を浮かび上がらせて撮影するなど、被写界深度（□115）を優先した撮影に適しています。また、フラッシュ撮影時には、絞り値を変えることにより調光範囲の変更もできます（□182）。

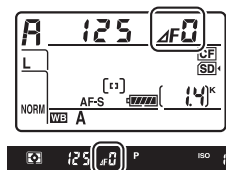
絞りを絞り込んだとき
絞り値：F36

絞りを開いたとき
絞り値：F2.8

半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルで好みの絞り値を設定する

サブコマンドダイヤル

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます（□124）。

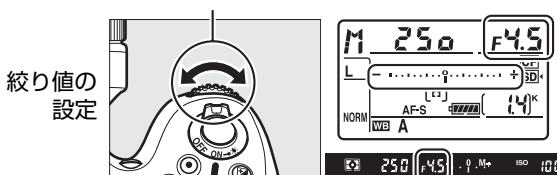
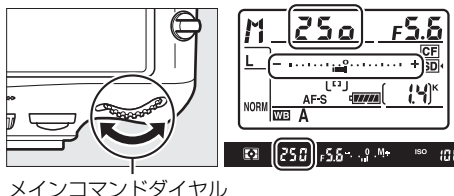
非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□209）でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**ΔF**、開放絞りは**ΔF0**）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

M（マニュアル）

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ）撮影（□122）する場合には、この露出モードを使います。

半押しタイマーがオンのときに、露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30"）およびbulb、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（□124）。

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］（□280）の設定によって変化します）。

	［露出設定ステップ幅］が［1/3段］のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
表示パネル			
ファインダー内表示			

露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合、露出インジケーターが点滅して警告します。このとき、露出モードPではシャッタースピード表示と絞り値表示が、Sでは絞り値表示が、Aではシャッタースピード表示が点滅します。

関連ページ

インジケーター表示の＋/－方向を変更する
→ f12［**インジケーター表示の＋/－方向**］（□318）

長時間露出で撮影する（バルブ撮影）

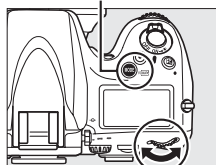
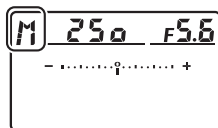
シャッタースピードをbulbにセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影ができます。

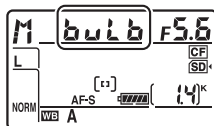
- 花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚や別売のリモートコード（◻395）が必要です。

シャッタースピード：35秒
絞り値：F25

1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 MODE（FORMAT）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させる

MODE（FORMAT）ボタン

メインコマンドダイヤル

3 半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回し、シャッタースピードをbulbにする

- シャッタースピードをbulbに設定すると、露出インジケーターは表示されません。

4 ピントを合わせて、シャッターボタンを全押しする

- 長時間露出撮影をしたい時間まで、シャッターボタンを押し続けてください。

5 シャッターボタンを放して撮影を終了する

- シャッターボタンを放すと、長時間露出が終了します。

長時間露出について

- ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（□105）。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（□271）を［**する**］にしておくことで低減できます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15または別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bをお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。

- **P**では設定できません。

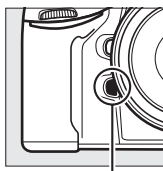
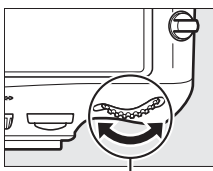
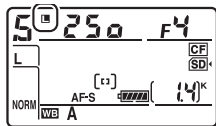
▌シャッタースピードと絞り値のロック方法

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］（□307）の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［シャッタースピードと絞り値のロック］に設定する（□310）

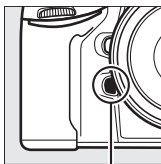
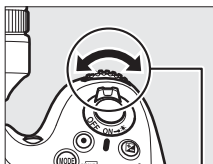
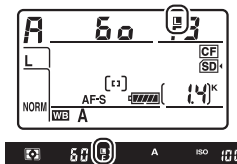
- **Fn**ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、シャッタースピードと絞り値のロック機能が割り当てられます。

2 シャッタースピードまたは絞り値をロックする

シャッタースピードのロック：

- 露出モード**S**または**M**で、**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルとファインダー内表示に**L**（シャッタースピードロック）マークを表示させます。

Fnボタン　メインコマンドダイヤル

- シャッタースピードのロックを解除する場合は、**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、**L**マークを消します。

絞り値のロック：

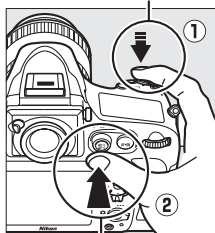
- 露出モードAまたはMで、**Fn**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、表示パネルとファインダー内表示にL（絞り値のロック）マークを表示させます。

Fnボタン　サブコマンドダイヤル

- 絞り値のロックを解除する場合は、**Fn**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、Lマークを消します。

> **関連ページ**
> - プレビューボタンでシャッタースピードと絞り値のロックを切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（□311）
> - AE/AFロックボタンでシャッタースピードと絞り値のロックを切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）
> - 常にシャッタースピードと絞り値をロックする → f7［**シャッタースピードと絞り値のロック**］（□313）

露出を固定して撮影する（AEロック）

AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光に設定してください（□113）。マルチパターン測光では充分な効果が得られないため、おすすめできません。

1 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押して、露出を固定する

- AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時はフォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

2 AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（□113）は、選択しているフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（□116）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

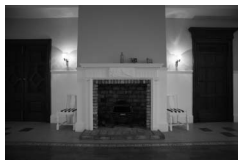
- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AEロックを解除すれば変わります）。

関連ページ

- シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする → c1［**半押しAEロック**］（□283）
- AE-L AF-L AE/AFロックボタンに別の機能を割り当てる → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）

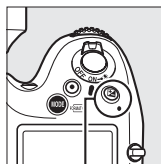
画像の明るさを意図的に変更する（露出補正）

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モードを中央部重点測光またはスポット測光に設定すると効果的です（🕮113）。

－1段補正

露出補正なし

＋1段補正

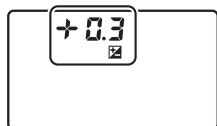
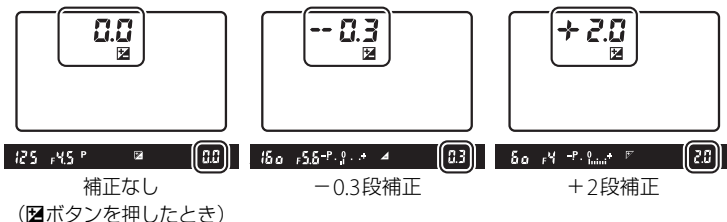
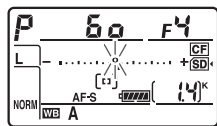
■ 露出補正の設定方法

☒ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

☒ボタン

メインコマンドダイヤル

- 露出補正値は、表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。

- ±ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。

補正なし（±ボタンを押したとき）　－0.3段補正　＋2段補正

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク±と露出補正インジケーターが表示され、露出モードがP、S、またはAの場合は［0］が点滅します。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を 0.0 にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

露出モードMでの露出補正について

露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

フラッシュ使用時の露出補正

フラッシュ使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とフラッシュの発光量の両方に補正が行われます。

関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → b3［**露出・調光補正ステップ幅**］（280）
- ±ボタンを使わずに露出補正する → b4［**露出補正簡易設定**］（281）
- 露出補正値を変えながら撮影する→「AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」（130）

露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する（オートブラケティング撮影）

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。

補正なし

－1段補正

＋1段補正

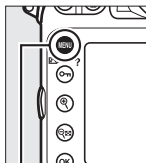
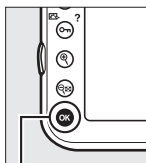
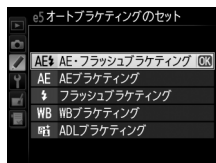
AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

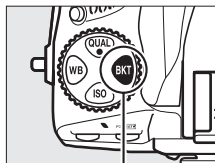
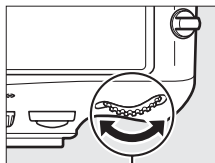
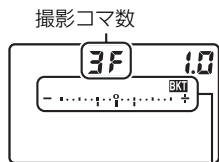
［**AE・フラッシュブラケティング**］では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは［**AEブラケティング**］を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは［**フラッシュブラケティング**］を選びます。フラッシュブラケティングは、i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（□181、387）。

1 カスタムメニュー e5［オートブラケティングのセット］で［AE・フラッシュブラケティング］を選ぶ

MENUボタン

Ⓞボタン

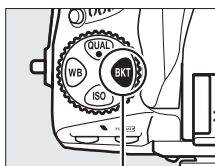
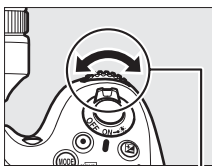
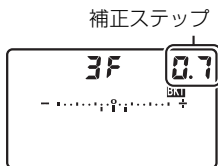
- MENUボタンを押して、カスタムメニュー e5［**オートブラケティングのセット**］で［**AE・フラッシュブラケティング**］を選んでⓄボタンを押します。
- ［**AEブラケティング**］、［**フラッシュブラケティング**］を選んだ場合も操作は同じです。

2 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

BKTボタン

メインコマンドダイヤル

表示パネル

オートブラケティングインジケーター

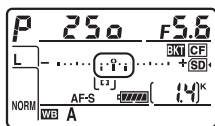
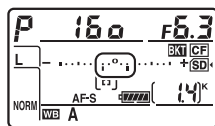
- 0F以外に設定すると、表示パネルにBKTマークとオートブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**マークが表示されます。

3 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）から選ぶことができます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	オートブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3		0	0
+3F 0.3		3	0/＋0.3/＋0.7
−3F 0.3		3	0/－0.7/－0.3
+2F 0.3		2	0/＋0.3
−2F 0.3		2	0/－0.3
3F 0.3		3	0/－0.3/＋0.3
5F 0.3		5	0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7
7F 0.3		7	0/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F 0.3		9	0/－1.3/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 表示パネルには、オートブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。

撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正（◻128）を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。
  ±4段を超えるAEブラケティング撮影を行うときに便利です。

関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → b2［**露出設定ステップ幅**］（◻280）
- オートブラケティングの撮影順を変更する → e7［**BKTの順序**］（◻305）
- **BKT**ボタンの機能を変える → f8［**BKTボタンの機能**］（◻313）

▌AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（□189）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- レリーズモード（□101）を**CL**または**CH**にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止し、シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（□104）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］（□284）の［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、□131の手順2で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブラケティング

AEブラケティングでは、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2

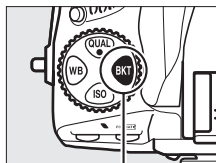
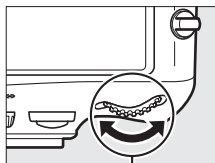
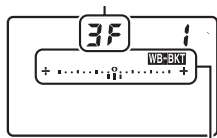
※1 撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］（□109）が［**する**］の場合、まずISO感度を変化させ、ISO感度が制御範囲を超えた場合は、シャッタースピードや絞り値を変化させます。

※2 カスタムメニュー e6［**BKT変化要素（Mモード）**］により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます（□304）。

■ WBブラケティングの撮影方法

ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。ホワイトバランスについての説明は、□141をご覧ください。

1 カスタムメニュー e5［オートブラケティングのセット］で［WBブラケティング］を選ぶ

2 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、表示パネルにWB-BKTマークとWBブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**マークが表示されます。

WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

3 補正ステップを設定する

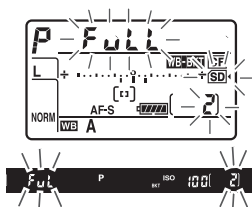
- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（0145）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	WB ブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F 1		0	1段	0
b3F 1		3	B方向1段	B1/0/B2
A3F 1		3	A方向1段	A1/A2/0
b2F 1		2	B方向1段	0/B1
A2F 1		2	A方向1段	0/A1
3F 1		3	各方向1段	0/A1/B1
5F 1		5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F 1		7	各方向1段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F 1		9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

4 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整にしていた場合は、微調整にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルにFuLLが、ファインダー内表示にFuLが右図のように点滅し、シャッターがきれません（表示パネルの残量のないメモリーカードのアイコンも点滅します）。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。

■ WBブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数をOFにしてください（WB-BKTマークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（□189）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

WBブラケティング撮影について

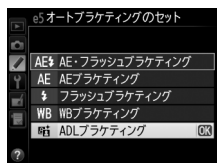
- WBブラケティングでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（□145）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（□104）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3［**セルフタイマー**］の［**撮影コマ数**］（□284）で設定した撮影コマ数にかかわらず、□135の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

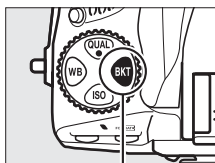
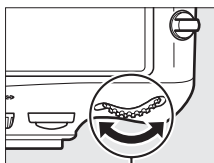
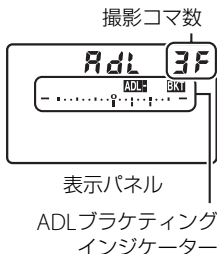
関連ページ

「ミレッド（MIRED）について」（□146）

ADLブラケティングの撮影方法

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。アクティブD-ライティングについての説明は、□170をご覧ください。

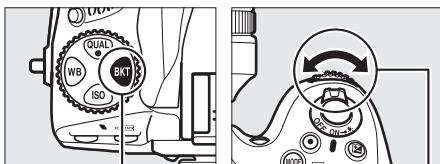
1 カスタムメニューe5［オートブラケティングのセット］で［ADLブラケティング］を選ぶ

2 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。

- 0F以外に設定すると、表示パネルにADL BKTマークとADLブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**マークが表示されます。
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	［**しない**］→（手順3で設定するアクティブD-ライティングの度合い）の順に撮影
3コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］の順に撮影
4コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］の順に撮影
5コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］→［**より強め**］の順に撮影

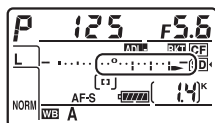
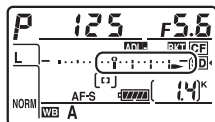
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順4に進んでください。

3 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。

- アクティブD-ライティングの度合いは、表示パネルのADLブラケティングインジケーターで確認できます。

アクティブD-ライティングの度合い	表示パネル
A　オート	
L　弱め	
N　標準	
H　強め	
H+　より強め	

4 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 表示パネルには、ADLブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケティングインジケーター上から消えます。

ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を0Fにしてください（ADL BKTマークが消灯します）。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（□189）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

ADLブラケティング撮影について

- レリーズモード（□101）を**CL**または**CH**にセットして連続撮影する場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（□104）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］（□284）の［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、□138の手順2で設定した撮影コマ数が全て記録されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

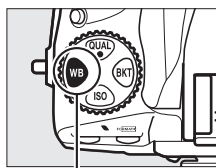
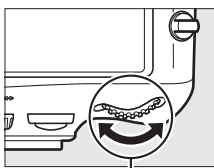
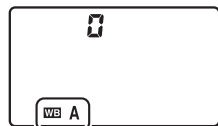
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
AUTO オート	約3500～8000K※	**AUTO**（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、内蔵フラッシュまたは別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO1 標準		
AUTO2 電球色を残す		
電球	約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯	—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
晴天	約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
フラッシュ	約5400K※	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
K 色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます（0147)。
PRE プリセットマニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます（0150)。

※微調整が0の場合の値です。

ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスは、表示パネルに表示されます。

WBボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

[ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは撮影メニュー（0262）でも設定できます。

AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、撮影メニューで［**AUTO1 標準**］と［**AUTO2 電球色を残す**］から選べます。［**AUTO2 電球色を残す**］を選ぶと、電球色の光源下で撮影した際に暖かみのある画像の仕上がりになります。

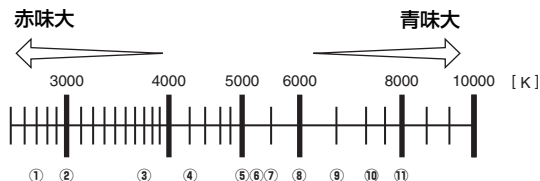
（蛍光灯）について

（蛍光灯）の場合は、撮影メニュー（□262）で選んだ種類の蛍光灯になります。

スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

No.	光源	No.	光源
①	ナトリウム灯混合光（約2700K）	⑥	晴天（約5200K）
②	電球（約3000K） 電球色蛍光灯（約3000K）	⑦	フラッシュ（約5400K）
		⑧	曇天（約6000K）
③	温白色蛍光灯（約3700K）	⑨	昼光色蛍光灯（約6500K）
④	白色蛍光灯（約4200K）	⑩	高色温度の水銀灯（約7200K）
⑤	昼白色蛍光灯（約5000K）	⑪	晴天日陰（約8000K）

関連ページ

- ホワイトバランスを変えながら撮影する

→ e5［**オートブラケティングのセット**］（□303）
→「WBブラケティングの撮影方法」（□135）

WB

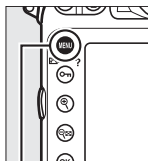
ホワイトバランスを微調整する

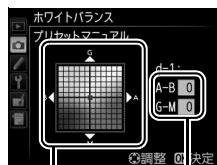
ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

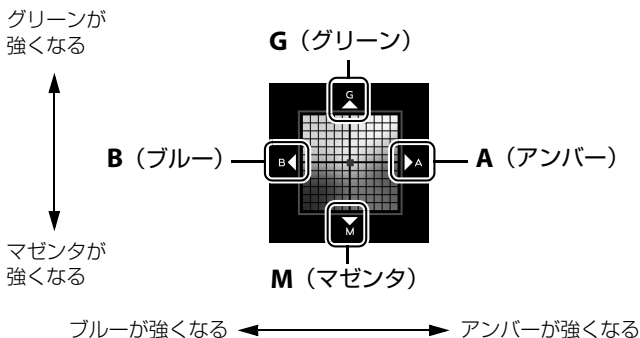
■ 撮影メニューの［ホワイトバランス］で設定する場合

1 設定したいホワイトバランスを選ぶ

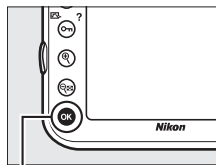
MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で設定したいホワイトバランスを選びます。
- ［**色温度設定**］以外のホワイトバランスを選んでマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**オート**］の場合は、［**AUTO1 標準**］または［**AUTO2 電球色を残す**］を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**蛍光灯**］の場合は、該当する蛍光灯の種類を選んで▶を押すと、微調整画面が表示されます。
- ［**プリセットマニュアル**］の場合の微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」（📖155）をご覧ください。

2 微調整値を設定する

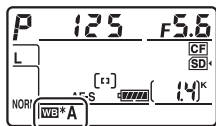
- マルチセレクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、各方向6段まで微調整できます。設定した座標上の色に画像を補正します。

座標　設定段数

- 座標とホワイトバランスの効果の関係は次の図のようになります。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整ができます。

3 微調整値を決定する

- ㊋ボタンを押して微調整値を決定すると、撮影メニューに戻ります。

㊋ボタン

- ホワイトバランスを微調整すると、表示パネルにアスタリスク（✱）が表示されます。

WB

ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを電球（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

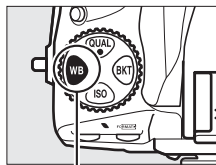
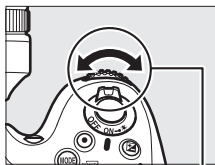
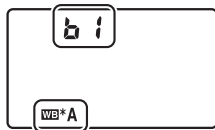
ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万（10^6）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差 （M：ミレッド）
4000K－3000K＝1000 K ：83 M
7000K－6000K＝1000 K ：24 M

ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスの微調整値は、表示パネルに表示されます。

WBボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

- **WB**ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます（□145）。
- 各方向6段まで微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを微調整できます。
- 微調整値を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク（✱）が表示されます。
- **WB**ボタンの操作では、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。撮影メニューで微調整してください（□144）。

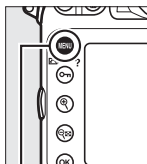
色温度を指定してホワイトバランスを設定する（色温度設定）

ホワイトバランスを K（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。

■ 撮影メニューの［ホワイトバランス］で設定する場合

A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度（□145）を設定できます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［色温度設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**色温度設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

- ◀または▶を押して色温度を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定します。

A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度

3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

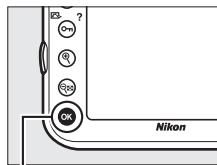
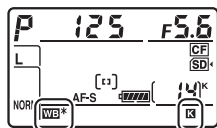
- ◀または▶を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、▲または▼を押して数値を設定します。

G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度

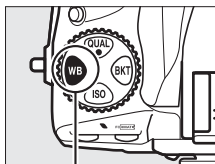
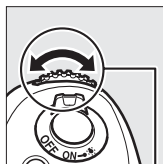
4 色温度を決定する

- Ⓞボタンを押して色温度を決定すると、撮影メニューに戻ります。

Ⓞボタン

- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク（✱）が表示されます。

▌ボタン操作で色温度を設定する場合

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセレクターの▲▼◀▶を押す

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります（ミレッド単位、🕮146）。

WBボタン　サブコマンドダイヤル

- **WB**ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。▲または▼を押すと選んだ桁の数値を設定できます（10ケルビン単位）。

- A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は表示パネルに表示されます。

表示パネル

WB

> **✔ 色温度設定についてのご注意**
> - 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ 蛍光灯アイコン（蛍光灯）、⚡（フラッシュ）に設定してください。
> - ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

基準となる白を測定して ホワイトバランスを設定する （プリセットマニュアル）

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記のAUTO（オート）や電球アイコン（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大4種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□151）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□154）。

WB

すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

使用するプリセットマニュアルデータの保存場所は、撮影メニュー（「A」～「D」）（□263）ごとに設定できます。ただし、各保存場所にあるプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）の内容は、全ての撮影メニューで共用しています。したがって他の撮影メニューで使用されているプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、その撮影メニューのホワイトバランスも変更されることになります。他の撮影メニューで使用しているプリセットマニュアルデータの内容を変更しようとすると、液晶モニターに警告メッセージが表示されます。

■ プリセットマニュアルデータの新規取得

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードがMの場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（□121）。

1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる

WBボタン　メインコマンドダイヤル　表示パネル

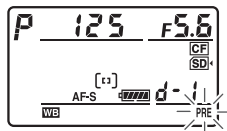
2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

WBボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-4の中から選びます。

WBボタン　サブコマンドダイヤル　表示パネル

WB

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルに**PRE**が、ファインダー内表示にPrEの文字が、それぞれ約6秒間点滅します。

表示パネル

ファインダー内表示

4 PRE（PrE）の点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

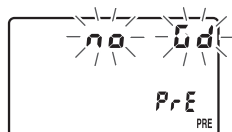
- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルにGoodの文字が、ファインダー内表示にGdの文字が、それぞれ約6秒間点滅し、プリセットマニュアル取得モードを終了します。

表示パネル

ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に no Gd の文字が、それぞれ約6秒間点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。

表示パネル

ファインダー内表示

プリセットマニュアル取得モードの時間制限について

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（□283）で設定した時間が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータ取得時の制限について

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

- ライブビュー撮影時（□43、57）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□172）
- 多重露出撮影時（□192）
- カスタムメニュー g4［**シャッターボタンの機能**］が［**動画撮影**］のとき（□322）

ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定（□156）されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネルとファインダー内表示で PrE が点滅します）。

プリセットマニュアルデータについて

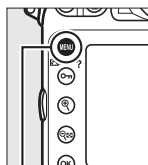
- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1 ～ d-4 は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 撮影メニューから［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んで OK ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

WB

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選択したプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

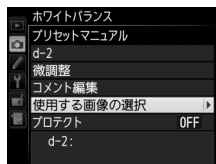
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

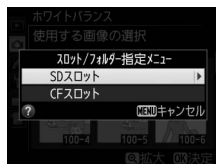
2 コピー先を選ぶ

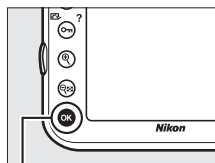
- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-4の中からコピー先を選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。

3 ［使用する画像の選択］を選ぶ

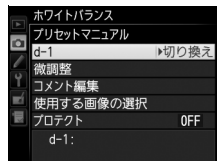
- ［**使用する画像の選択**］を選んで▶を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。

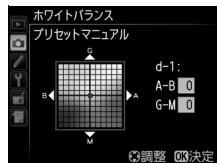
WB

4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 選択した画像は、🔍ボタンを押している間、拡大して確認できます。
- Q⊠ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□217）。

5 ホワイトバランスデータをコピーする

- Ⓞボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選択した画像に画像コメント（□332）がある場合、画像コメントもコピーされます。

Ⓞボタン

設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセレクターの▲を押してプリセットマニュアルデータ（d-1～d-4）を選び、▶を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。

プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で［**微調整**］を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます（□144）。

■ プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

選択したプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力します。

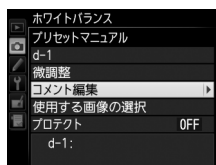
1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。

3 ［コメント編集］を選ぶ

- ［**コメント編集**］を選んで▶を押します。

4 コメントを入力する

- 最大36文字入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（🕮166）。

WB

プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

選択したプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。

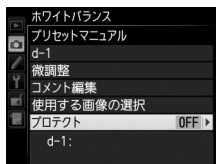
1 撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選ぶ

- ［**プリセットマニュアル**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 プリセットマニュアルデータを選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して、プリセットマニュアルデータを選びます。
- **中央**ボタンを押すと設定画面が表示されます。

3 ［プロテクト］を選ぶ

- ［**プロテクト**］を選んで▶を押します。

4 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選んで㊋ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。
- プリセットマニュアルデータのプロテクトを解除するには、もう一度［**プロテクト**］を選んでから［**しない**］を選びます。

㊋ボタン

画像処理

画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する（ピクチャーコントロール）

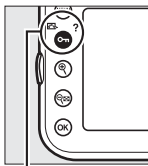
「ピクチャーコントロール（Picture Control）システム」とは、対応するカメラまたはソフトウェアで調整した画像調整の設定を相互に利用できるニコン独自の画作りシステムです。

ピクチャーコントロールを選ぶ

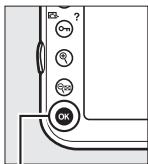
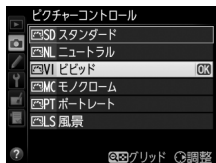
このカメラには、被写体や撮影シーンに合わせて選ぶことのできる「ピクチャーコントロール」が搭載されています。

SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 • ほとんどの撮影状況に適しています。
NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 • 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 • 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。

1 O-n（/?）ボタンを押す

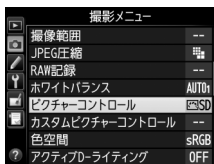
- ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。

O-n（/?）ボタン

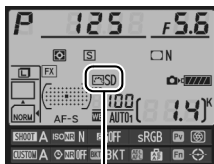
2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

- OKボタンを押して設定します。

OKボタン

［ピクチャーコントロール］と［カスタムピクチャーコントロール］について

- ［**ピクチャーコントロール**］では、ピクチャーコントロールを撮影目的や好みに合わせて調整できます。
- 撮影メニューで［**カスタムピクチャーコントロール**］を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり（□165）、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用する（□168）ことができます。

［ピクチャーコントロール］について

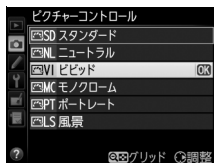
ピクチャーコントロールは撮影メニュー（□262）でも設定できます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

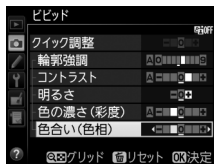
使用しているピクチャーコントロールは、infoボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。

ピクチャーコントロールマーク

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（🕮165）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

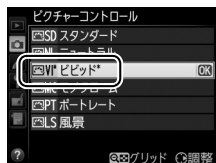
1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面（🕮160）で、マルチセレクターの▶を押します。

2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▲または▼で調整する項目（🕮162）を選んで、◀または▶で値を設定します。
- ［**クイック調整**］を選ぶと、各項目のレベルを自動的に調整します。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する

- ㊙ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンと項目名の末尾にアスタリスク（✱）が表示されます。

■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［−2］～［+2］までの調整ができます。 • −側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、+側にするとそれぞれのピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。たとえば［**ビビッド**］を選んで+側にクイック調整すると、色の鮮やかさを強調します。
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整します。［0］（輪郭強調しない）～［9］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • 数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
	コントラスト	画像のコントラストを調整します。［−3］～［+3］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • −側にすると軟調な画像になり、+側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは−側が、霞んだ遠景の撮影などには+側が適しています。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。［−1］～［+1］までの調整ができます。 • −側にすると暗くなり、+側にすると明るくなります。
	色の濃さ（彩度）※2	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整します。［−3］～［+3］までの手動調整と、自動で調整する［A］（オート）があります。 • −側にすると鮮やかさが抑えられ、+側にするとより鮮やかになります。
	色合い（色相）※2	画像の色合いを調整します。［−3］～［+3］までの調整ができます。 • 肌色を基準にした場合、−側にすると赤みが増し、+側にすると黄色みが増します。
	フィルター効果※3	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［OFF］、［Y］、［O］、［R］、［G］から選べます（□164）。
	調色※3	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［B&W］、［Sepia］、［Cyanotype］、［Red］、［Yellow］、［Green］、［Blue Green］、［Blue］、［Purple Blue］、［Red Purple］から選べます（□164）。

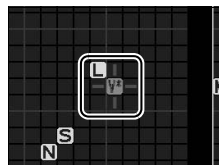
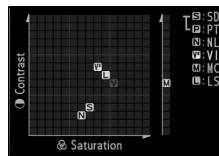
※1 ［**ニュートラル**］と［**モノクローム**］はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□165）の場合も、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

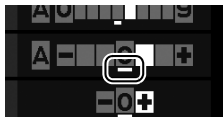
※2［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときは、表示されません。
※3［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示されます。

［輪郭強調］、［コントラスト］、［色の濃さ（彩度）］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

ピクチャーコントロール調整時のグリッド表示

- ピクチャーコントロール調整中にボタンを押している間、調整しているピクチャーコントロールのコントラストと彩度が座標で表示され、他のピクチャーコントロールとの関係がわかります。ボタンを放すと、調整画面に戻ります。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ（彩度）**］に［A］（オート）が設定されたピクチャーコントロールは、グリッド表示時はアイコンが緑色で表示されます。また、各軸に平行な上下または左右の線が表示されます。

ピクチャーコントロール調整時のアンダーバーについて

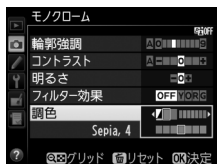
ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示されるアンダーバーは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。

[モノクローム]の[フィルター効果]について

［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。［**フィルター効果**］で得られる効果は、市販の白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

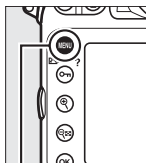
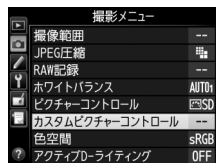
[モノクローム]の[調色]について

［**調色**］の項目（［**B&W**］以外）を選んでマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀または▶を押して選んでください。

カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選ぶ

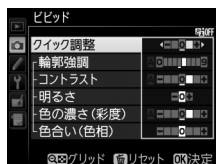
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**カスタムピクチャーコントロール**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

2 ［編集と登録］を選ぶ

- ［**編集と登録**］を選んで▶を押すと、［編集・登録対象を選択］画面が表示されます。

3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで▶を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は㊵ボタンを押します。［登録先の選択］画面が表示されます（手順5へ）。

4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は［**ピクチャーコントロール**］と同じです。
- OKボタンを押すと［登録先の選択］画面が表示されます。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

5 登録先を選択する

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。

6 名前を入力する

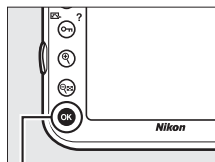
- 初期状態では、「（元になったピクチャーコントロール名）-XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。

キーボードエリア

名前エリア

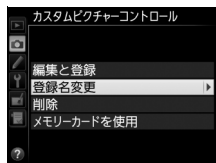
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**中央**ボタンを押します。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、Q⊠ボタンを押しながら◀または▶を押します。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 登録名を1文字削除するには、Q⊠ボタンを押しながら◀または▶を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑（FORMAT）ボタンを押します。

7 登録名の編集を終了する

- ㊍ボタンを押します。

㊍ボタン

- 登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。

登録名変更について

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**登録名変更**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。

登録したカスタムピクチャーコントロールを削除するには

［**カスタムピクチャーコントロール**］で［**削除**］を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール

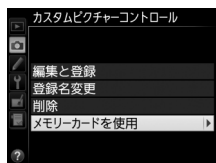
カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

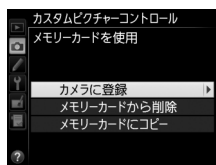
メモリーカードを使ってピクチャーコントロールを対応ソフトウェアと共用する

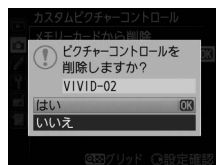
付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2のピクチャーコントロールユーティリティー（Picture Control Utility）で作成したカスタムピクチャーコントロールを、メモリーカードからカメラに読み込んで登録したり、カメラで作成したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーすることができます。また、メモリーカード上の不要なカスタムピクチャーコントロールを削除することもできます。

1 ［カスタムピクチャーコントロール］画面で［メモリーカードを使用］を選ぶ

- ［**メモリーカードを使用**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［メモリーカードを使用］画面が表示されます。

2 ［カメラに登録］、［メモリーカードから削除］または［メモリーカードにコピー］を選ぶ

［**カメラに登録**］：

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。

［**メモリーカードから削除**］：

- メモリーカードにあるカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。右のような確認画面が表示されるので、［**はい**］を選んでⓚボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

［**メモリーカードにコピー**］：

- カメラにあるカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1 ～ 99）を選んでⓚボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

メモリーカードへのコピー /メモリーカードからの削除について

- カメラに搭載されているピクチャーコントロール（スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景）は、コピーや削除ができません。
- メモリーカードを2枚使用している場合、撮影メニューの［**主スロットの選択**］（□88）で選んだ主スロットのカードが対象になります。
- メモリーカードに保存できるカスタムピクチャーコントロールは、99個までです。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ［**アクティブD-ライティング**］を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□113）。

アクティブD-ライティング
［**しない**］

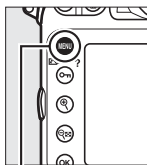
アクティブD-ライティング
［**A オート**］

撮影メニュー［アクティブD-ライティング］と画像編集メニュー［D-ライティング］の違い

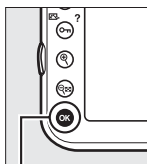
［**アクティブD-ライティング**］を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、［**D-ライティング**］は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

アクティブD-ライティングの設定方法

1 撮影メニューの［アクティブD-ライティング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- ［**A オート**］、［**H+ より強め**］、［**H 強め**］、［**N 標準**］、［**L 弱め**］、［**しない**］に設定できます。
- ［**Aオート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。

OKボタン

アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- アクティブD-ライティングを設定していても、ISO感度がHi 0.3以上の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 動画撮影時は、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 露出モードが M のときは、［**Aオート**］に設定していても［**N標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する →「ADLブラケティングの撮影方法」（□138）

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□113）。

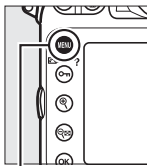
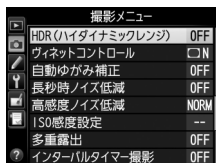
露出暗めで撮影した画像

＋

露出明るめで撮影した画像

HDRモードで合成された画像

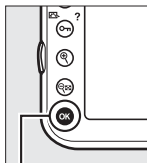
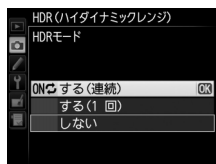
1 撮影メニューの［HDR（ハイダイナミックレンジ)］を選ぶ

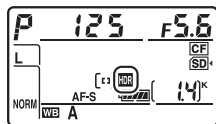
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**HDR（ハイダイナミックレンジ)**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

2 ［HDRモード］を設定する

- ［**HDRモード**］を選んで▶を押します。

- ▲または▼を押してHDRモードを設定し、㊮ボタンを押します。

㊮ボタン

ON する（連続）	HDRモードで続けて撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度［**HDRモード**］を選んで［**しない**］を選択してください。
する（1回）	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、表示パネルにHDRマークが点灯します。

3 ［露出差］を設定する

- ［**露出差**］を選んで▶を押します。

- ▲または▼を押して露出差を設定し、㊊ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選択してください。

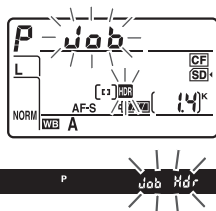
- ［**オート**］に設定すると、シーンに適した露出差が選択されます。

4 ［スムージング］を設定する

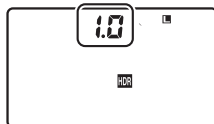
- ［**スムージング**］を選んで▶を押します。

- ▲または▼を押してスムージング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、㊊ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がよりなめらかに合成されます。

5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルにJob HDRが、ファインダー内表示にJob Hdrが点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- ［**する（連続）**］の場合、［**HDRモード**］で［**しない**］を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが［**する**（1回）］の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、HDRマークが消灯します。

BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードと露出差を設定する

カスタムメニューf8［**BKTボタンの機能**］（313）を［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**HDRモード**］と手順3の［**露出差**］を設定できます。

- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのHDRアイコンが［**しない**］（アイコンなし）、HDR［**する（1回）**］、HDR L［**する（連続）**］に切り替わります。
- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出差の表示が切り替わります。

HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、正しく合成されない場合があります。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。［**スムージング**］の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときに［**露出差**］を［**オート**］に設定すると、露出差は［**2 EV**］相当の度合いに固定されます。
- 内蔵フラッシュと別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード（□101）が**CL**または**CH**の場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、bulbに設定できません。

HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません：

- 動画撮影（□57）
- オートブラケティング撮影（□130）
- 多重露出撮影（□192）
- 微速度撮影（□204）

HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを［**する（連続）**］に設定してからインターバルタイマー撮影（□197）を設定すると、設定されたインターバルでHDR撮影ができます。この場合、［**インターバルタイマー撮影**］で設定されたインターバルで撮影されます。
- HDRモードが［**する（1回）**］の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。
- HDRモードを途中で解除した場合は、インターバルタイマー撮影も解除されます。

撮影メニューの管理

HDRモードは、撮影メニュー（「A」～「D」）（□263）ごとに設定できますが、多重露出撮影中（□192）またはインターバルタイマー撮影中（□197）にHDRモードを［**する（連続）**］または［**する（1回）**］に設定した撮影メニューに切り換えた場合、HDRモードが解除されます。また、HDRモードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］のときに、RAWを含む画質モードが選ばれている撮影メニューに切り換えた場合も、HDRモードが解除されます。

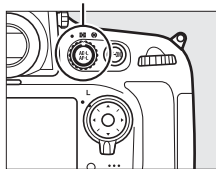
フラッシュ撮影

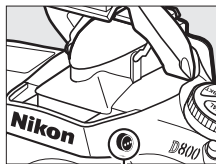
内蔵フラッシュを使って撮影する

このカメラは24mm（DXフォーマット時：16mm）レンズの画角をカバーする、ガイドナンバー約12（ISO 100・m、20℃）のフラッシュを内蔵しています。暗いところではもちろん、逆光時や被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。

1 測光モードを設定する（□113）

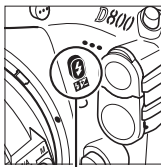
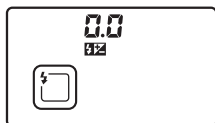
- マルチパターン測光または中央部重点測光に設定すると、i-TTL-BL調光になり、スポット測光に設定すると、スタンダードi-TTL調光になります（□181）。

測光モードダイヤル

2 内蔵フラッシュを上げる

- フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げると、フラッシュの充電を開始します。
- 充電が完了して撮影ができる状態になると、ファインダー内表示に⚡（レディーライト）が点灯します。

フラッシュロック解除ボタン

3 フラッシュモードを設定する

- ⚡（⚡±）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回し、表示パネルに設定したいフラッシュモード（□179）のアイコンを表示させます。

⚡（⚡±）ボタン

メインコマンドダイヤル

表示パネル

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

- 内蔵フラッシュ使用時に設定できるシャッタースピードと絞り値については、「内蔵フラッシュ使用時のシャッタースピードと絞り値」（□180）をご覧ください。

5 撮影する

- 撮影前にプレビューボタンを押すと、モデリング発光してライティング状態を確認できます（□303）。

内蔵フラッシュを収納する

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、使用しないときは常に収納してください。

設定できるフラッシュモード

モード	内容
先幕シンクロモード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250～1/60秒（別売のスピードライトを装着して、オートFPハイスピードシンクロ（🕮295）を行う場合は、1/8000～1/60秒）に自動的にセットします。
赤目軽減モード	フラッシュが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはPまたはAに設定してください。 夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
スローシンクロモード	露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらフラッシュを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。 • シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
後幕シンクロモード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にフラッシュが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。 • 露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされ、右のように表示されます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。 SLOW REAR

内蔵フラッシュ使用時のシャッタースピードと絞り値

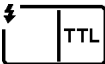
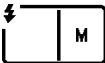
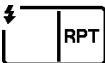
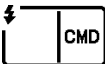
内蔵フラッシュ使用時に設定できるシャッタースピードと絞り値は次のとおりです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード※1	設定可能な絞り値	📖
P	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※2	カメラが自動的に設定	116
S	1/250～30秒		117
A	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※2	任意の絞り値※3	118
M	1/250～30秒、bulb		120

※1 カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（📖294）を［**1/320秒（オートFP）**］に設定すると、内蔵フラッシュ使用時でも高速側のシャッタースピードが1/320秒までフラッシュ同調します（📖295）。また、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］を［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定して別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト（📖387）を装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。

※2 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。AまたはM時の絞り値の設定は内蔵フラッシュの調光範囲（📖182）を考慮して行ってください。

内蔵フラッシュについて

カメラの内蔵フラッシュを使って、次のようなフラッシュ撮影を行えます（カスタムメニュー e3［**内蔵フラッシュ発光**］が初期設定の［**TTLモード**］のとき□296）。

i-TTL-BL 調光	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによる測光情報をもとに被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 • GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。 • 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□209）。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

※ 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、内蔵フラッシュ使用時の発光方式が、次のように表示されます。内蔵フラッシュの発光方式は、カスタムメニュー e3［**内蔵フラッシュ発光**］で設定できます（□296）。

	通常発光	**FP発光（□295）**
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光	TTL	—
マニュアル発光	M	—
リピーティング発光	RPT	—
コマンダーモード	CMD	CMD FP

フラッシュ撮影時のご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から0.6m以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が24mm（DXフォーマット時16mm）から300mmのレンズです。詳しくは □380 をご覧ください。
- フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードをCLまたはCHに設定しても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲は、100～6400です。ISO感度を100よりも低感度に設定したり、6400よりも高感度に設定した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならないことがあります。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値							調光範囲（m）
100	200	400	800	1600	3200	6400	
1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	約0.7～8.5
2	2.8	4	5.6	8	11	16	約0.6～6
2.8	4	5.6	8	11	16	22	約0.6～4.2
4	5.6	8	11	16	22	32	約0.6～3
5.6	8	11	16	22	32	–	約0.6～2.1
8	11	16	22	32	–	–	約0.6～1.5
11	16	22	32	–	–	–	約0.6～1.1
16	22	32	–	–	–	–	約0.6～0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 露出モードが*P*の場合、内蔵フラッシュ使用時に下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）						
100	200	400	800	1600	3200	6400
2.8	3.5	4	5	5.6	7.1	8

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

関連ページ

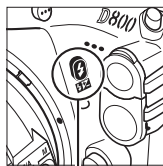
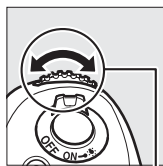
- 「オートFPハイスピードシンクロについて」（◻295）
- フラッシュの調光量を固定して撮影する →「調光量を固定して撮影する（FV ロック）」（◻186）
- 内蔵フラッシュの同調速度を変更する → e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（◻294）
- フラッシュ時のシャッタースピードを制限する → e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（◻296）
- 内蔵フラッシュの発光方式を変更する → e3［**内蔵フラッシュ発光**］（◻296）
- 内蔵フラッシュをコマンダーモードで使用する → e3［**内蔵フラッシュ発光**］（◻296）
- 別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する →「使用できるスピードライト」（◻385）

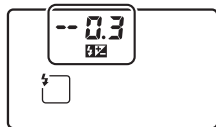
調光量を補正して撮影する（調光補正）

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

■ 調光補正の設定方法

⚡（⚡±）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光補正値は、表示パネルに表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで－3段～＋1段の範囲で設定できます。

⚡（⚡±）ボタン

サブコマンドダイヤル

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡±（調光補正）マークが表示されます。
- ⚡（⚡±）ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFF にしても、補正量の設定は解除されません。
- 調光補正と露出補正（□128）を同時に設定すると、両方の補正値が加算された発光量になります。

125 F5.6 P 0.0

補正なし（⚡（⚡±）ボタンを押したとき）

125 F5.6 P 0.3

－0.3段補正

125 F5.6 P 1.0

＋1段補正

別売スピードライトの調光補正について

- 別売のスピードライト SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600 使用時は、スピードライト側でも調光補正ができます。
- カメラ側とスピードライト側で同時に調光補正を行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- 調光補正のステップ幅を変更する → b3［**露出・調光補正ステップ幅**］（280）
- 調光補正値を変えながら撮影する →「AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」（130）

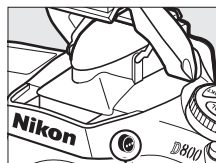
調光量を固定して撮影する（FV ロック）

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］（□307）の［Fnボタン押し時の動作］を［FV-L］に設定する

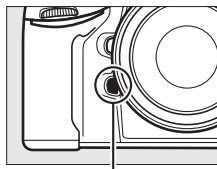
2 内蔵フラッシュを上げる

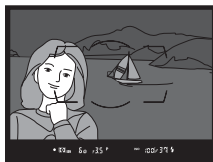
- フラッシュロック解除ボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がり、フラッシュの充電が開始します。

フラッシュロック解除ボタン

3 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

4 モニター発光を行う

- ファインダー内表示にが点灯していることを確認し、**Fn**ボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。

- FVロックが行われ、ファインダー内表示に（FVロック）マークが表示されます。

5 構図を変更する

6 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 FVロックを解除する

- もう一度**Fn**ボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示の が消灯します。

内蔵フラッシュのFV ロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはカスタムメニュー e3［**内蔵フラッシュ発光**］（296）が［**TTL モード**］に設定されている場合のみ機能します。

別売スピードライトのFVロックについて

別売のスピードライト（□387）の発光モードが**TTL**、「モニター発光あり」の**AA**または**A**のいずれかに設定されている場合も、FVロックを行うことができます（別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください）。カスタムメニュー e3［**内蔵フラッシュ発光**］（□296）を［**コマンダーモード**］にして撮影する場合は、主灯（マスターフラッシュ）または補助灯（リモート）グループのうち、少なくとも1グループの発光モードを［**TTL**］または［**AA**］に設定してください。

別売スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

別売スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央 φ6mm 相当
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光（マスタースピードライト）	

関連ページ

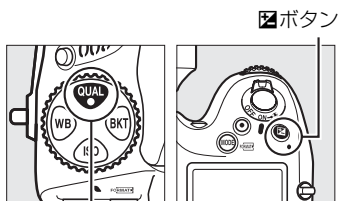
- プレビューボタンを押してFVロックをする → f5［**プレビューボタンの機能**］（□311）
- AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押してFVロックをする → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）

撮影の便利な機能

基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）

ツーボタンリセットにより、簡単にカメラの設定を初期状態に戻すことができます。

QUALボタンと⊠ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。

⊠ボタン

QUALボタン

■ 撮影メニュー項目※1

撮影メニュー項目	初期設定
画質モード	NORMAL
画像サイズ	サイズL
ホワイトバランス	AUTO1 標準
ホワイトバランス微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロールの調整値	解除※2
HDR（ハイダイナミックレンジ）	解除※3
ISO感度	100
感度自動制御	しない
多重露出	解除※4
インターバルタイマー撮影	解除※5

※1 現在選択されている撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出とインターバルタイマー撮影は、全ての撮影メニューで共通です）。

※2 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※3 HDRモードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。露出差とスムージングは初期設定には戻りません。

※4 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。コマ数と自動ゲイン補正は初期設定には戻りません。

※5 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始時刻、撮影間隔、撮影回数×コマ数は初期設定には戻りません。

その他の撮影関連の機能

機能	初期設定
フォーカスポイント※1	中央
露出モード	P
プログラムシフト	解除
露出補正	解除（0.0）
AE-L（ホールド）	解除
コマンドロック（絞り）	解除
コマンドロック（シャッタースピード）	解除
AFモード	AF-S
ファインダー撮影時のAFエリアモード	シングルポイントAF

機能	初期設定
ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモード	ノーマルエリアAF
オートブラケティング	解除※2
フラッシュモード	先幕シンクロ
調光補正	解除（0.0）
FVロック	解除
露出ディレーモード※3	しない
プラスRAW記録	解除

※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、［A オート］になります。

※3 現在選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます。

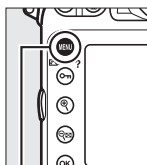
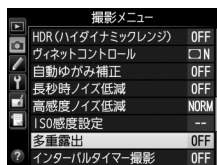
「初期設定一覧」（□410）

1つの画像に重ねて写し込む（多重露出撮影）

多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

■ 多重露出の撮影方法

1 撮影メニューの［多重露出］を選ぶ

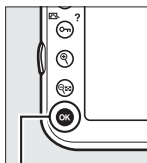
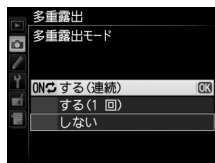
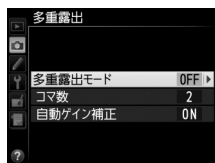
- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**多重露出**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

撮影間隔が長くなる場合について

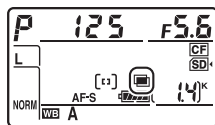
- 多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態に入ります。撮影を中断する前に撮影した画像は記録されます。
- 撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（□283）を長めに設定することをおすすめします。カメラが待機状態に入るまでの時間が、c2で設定した時間に30秒を加えたものに延長されます。

2 ［多重露出モード］を設定する

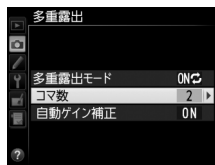
- ［**多重露出モード**］を選んで、▶を押します。

- ▲または▼を押して多重露出モードを設定し、Ⓞボタンを押します。

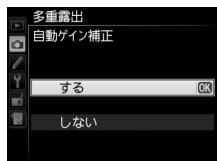
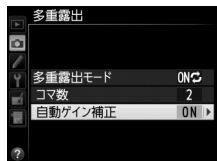
Ⓞボタン

ON **する（連続）**	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［**多重露出モード**］を選んで［**しない**］を選択してください。
する（1回）	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに▣マークが点灯します。

3 ［コマ数］（露光回数）を設定する

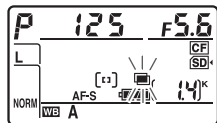
- ［**コマ数**］を選んで、▶を押します。

- ▲または▼を押して露光回数を設定し、Ⓞボタンを押します。

4 ［自動ゲイン補正］を設定する

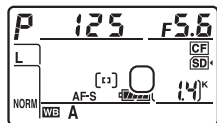
- ［**自動ゲイン補正**］を選んで、▶を押します。

- 自動ゲイン補正の設定後、Ⓚボタンを押します。

する	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは［**しない**］にすることをおすすめします。 • 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

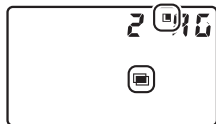
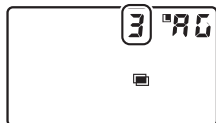
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、▣マークが点滅します。

6 2回目以降の撮影をする

- ［**する（連続）**］の場合、［**多重露出モード**］で［**しない**］を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。

- 多重露出モードが［**する（1回）**］の場合、設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、▣マークが消灯します。

BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニューf8［**BKTボタンの機能**］（🕮313）を［**多重露出**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**多重露出モード**］と手順3の［**コマ数**］を設定できます。

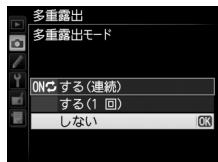
- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの多重露出アイコンが［**しない**］（アイコンなし）、▣［**する（1回）**］、▣L［**する（連続）**］に切り替わります。

- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのコマ数が切り替わります。

多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で液晶モニターを点灯した場合、液晶モニターが消灯してから操作のないまま30秒が経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビュー撮影ができません。
- 多重露出モードを［**する（連続）**］または［**する（1回）**］に設定していても、ライブビュー表示にすると［**しない**］になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- レリーズモード（🕮101）を**CL**または**CH**に設定して撮影する場合、多重露出モードが［**する（1回）**］のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。［**する（連続）**］のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時（🕮104）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3［**セルフタイマー**］（🕮284）の［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。

■ 多重露出撮影を中断するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を中断するには、多重露出モードを［**しない**］に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**自動ゲイン補正**］を［**する**］にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は中断されます。

- ツーボタンリセット（🕮189）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（🕮197）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、［**インターバルタイマー撮影**］で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、［**多重露出**］で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を解除します。多重露出が［**する（1回）**］の場合は、多重露出も解除されます。多重露出を途中で解除した場合は、インターバルタイマー撮影も解除されます。

多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

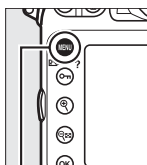
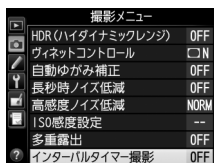
設定した間隔で撮影する
（インターバルタイマー撮影）

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、レリーズモードを**S**、**CL**、**CH**、または**Q**に設定して撮影してください。

■ インターバルタイマー撮影の開始

1 撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、撮影メニューの［**インターバルタイマー撮影**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。［インターバルタイマー撮影］画面が表示されます。

2 ［開始トリガー］（開始方法）を設定する

- **すぐに撮影する場合、**［**即時スタート**］を選んで▶を押します（手順4へ）。
- **開始時間を決めて撮影する場合、**［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します（手順3へ）。

✔ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの［**地域と日時**］（□25）で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー EN-EL15、または別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bをお使いください。

3 ［開始時刻］を設定する

- ◀または▶を押して時、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- ［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合、この画面は表示されません。

4 ［撮影間隔］（インターバル）を設定する

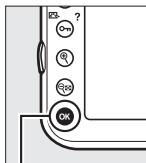
- ◀または▶を押して時間、分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

5 ［撮影回数×コマ数］を設定する

- ◀または▶を押して撮影回数と1回のコマ数を1桁ずつ選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。

6 インターバルタイマー撮影を開始する

㊋ボタン

- ［**開始**］を選んで㊋ボタンを押します。［**開始トリガー**］で［**即時スタート**］を選んだ場合は、約3秒後に撮影を開始します。［**開始時刻設定**］を選んだ場合は、設定した時刻に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。
- 設定のみを行いたいときは、［**終了**］を選んで㊋ボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。

インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 設定した［**開始時刻**］が現在時刻後1分以内の場合や、シャッタースピードが**bulb**（バルブ）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□201）。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（□105）。

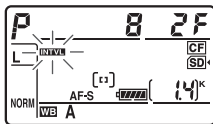
オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時に AE・フラッシュブラケティング、AE ブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時に WB ブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに INTVL マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。

- 撮影メニューから［**インターバルタイマー撮影**］を選ぶと、液晶モニターのインターバル設定画面に撮影動作、開始時刻、撮影間隔、残りの撮影回数と撮影コマ数が表示されます。ただし、［**撮影動作**］（次ページ参照）以外の設定変更はできません。

インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に液晶モニターを消灯して、撮影に入ります。

■ インターバルタイマー撮影の一時停止と再開

次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。

- 撮影待機中に㊊ボタンを押したとき
- ［**撮影動作**］で［**一時停止**］を選んで、㊊ボタンを押したとき
- 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します。）
- レリーズモードを🕒またはMUPに切り換えたとき

インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

1 ［開始トリガー］（□197）を設定する

- ［**開始トリガー**］を選んですぐに撮影する場合は［**即時スタート**］を、開始時刻を設定する場合は［**開始時刻設定**］を選んで▶を押します。
- ［**開始時刻設定**］を選んだときは、開始時刻を設定します。

2 インターバルタイマー撮影を再開する

㊊ボタン

- ［**再開**］を選んで㊊ボタンを押すと撮影を再開します。
- 撮影途中の回で停止状態になった場合、その回の残りのコマはキャンセルされます。再開した場合は、次の回の1コマ目から撮影されます。

インターバルタイマー撮影の終了

次の場合はインターバルタイマー撮影が終了します。

- ［**撮影動作**］で［**終了**］を選び、㊙ボタンを押したとき
- ツーボタンリセット（□189）を行ったとき
- ［**撮影メニューの管理**］（□263）で撮影メニューをリセットしたとき
- オートブラケティング（□130）を設定、または解除したとき
- HDR（ハイダイナミックレンジ）モードを解除したとき（□172）
- 多重露出を解除したとき（□192）
- バッテリーの残量がなくなったとき

インターバルタイマー撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

撮影のキャンセル

撮影開始予定時刻を8秒過ぎても次の状態にある場合は、その回の撮影をキャンセルし、次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

- 前の回のコマを撮影中
- 連続撮影可能コマ数が0のとき
- メモリーカードに空きがないとき
- AFモードが**AF-S**で、被写体にピントが合わないとき（撮影ごとにピントを合わせます。）

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。
- **CH**の場合は□102に記載されている連続撮影速度で、**S**または**CL**ではカスタムメニューd2［**低速連続撮影速度**］（□287）で設定された速度で、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数を撮影します。
- **Q**の場合、撮影時の動作音を抑えて撮影します。

インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- 長時間露出（バルブ）撮影（□122）
- 微速度撮影（□204）
- カスタムメニュー g4［**シャッターボタンの機能**］の［**動画撮影**］（□322）

撮影メニューの切り換えとリセットについて

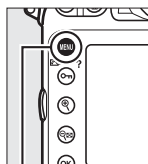
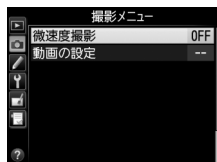
インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての撮影メニュー（「A」～「D」）（□263）で共通です。このため、撮影メニューの［**撮影メニューの管理**］で撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、［**撮影メニューの管理**］で撮影メニューをリセットすると、全ての撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回/1コマ、撮影動作：終了）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。

微速度撮影する

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。撮影メニュー［**動画の設定**］（◻67）の内容で動画が記録されます。

■ 微速度撮影の開始

1 撮影メニューの［微速度撮影］を選ぶ

- **MENU**ボタンを押して、撮影メニューの［**微速度撮影**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。［微速度撮影］画面が表示されます。

MENUボタン

2 ［微速度撮影］画面で▶を押す

- ▶を押すと、手順3に進みます。
- 設定を変えずに、初期設定（撮影間隔：5秒、撮影時間：25分）で微速度撮影を行う場合は、手順5に進んでください。

微速度撮影を開始する前に

- 動画ライブビューで実際に記録される範囲を確認してください（◻57）。
- ファインダー撮影時の明るさで撮影するため、ファインダーを見ながら試し撮りをすることをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5b、または充分に充電されたバッテリー EN-EL15をお使いください。

3 [撮影間隔]（インターバル）を設定する

- ◀または▶を押して分、秒を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

4 [撮影時間] を設定する

- ◀または▶を押して時間、分を選び、▲または▼を押して数値を設定後、▶を押します。
- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

5 微速度撮影を開始する

OKボタン

- [**開始**] を選んでOKボタンを押します。約3秒後に撮影を開始します。
- 手順4で 設定した撮影時間内に手順3で設定した撮影間隔で撮影を繰り返します。撮影中はメモリーカードアクセスランプが点灯します。
- 設定のみを行いたいときは、[**終了**] を選んでOKボタンを押すと、撮影メニューに戻ります。

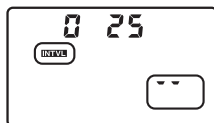
微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順4で設定する撮影時間を手順3で設定する撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数÷［**動画の設定**］の［**画像サイズ/フレームレート**］で選んだフレームレートで計算できます（例えば、［**動画の設定**］の［**画像サイズ/フレームレート**］が［**1920×1080 24fps**］のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

微速度撮影についてのご注意

- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません：
  - 設定した［**撮影時間**］が［**撮影間隔**］より短い場合
  - ［**撮影時間**］または［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合
  - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- AFモードが**AF-S**で、被写体にピントが合わないときは（撮影ごとにピントを合わせます。）、その回の撮影をキャンセルし、次の回から撮影を再開します。
- 微速度撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。MENUボタンを押すと［**微速度撮影**］画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスをAUTO（オート）以外に設定すると色みを固定することができます（🕮141）。
- 微速度撮影で明るさの変化を記録したいときは、露出モードMで露出を固定して撮影してください（🕮120）。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（🕮105）。
- 微速度撮影中は、カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］（🕮283）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

微速度撮影の待機状態について

- 微速度撮影の待機状態では、表示パネルに INTVL マークが点滅し、微速度撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。
- 待機状態でMENUボタンを押すと、液晶モニターの微速度撮影画面に撮影動作、撮影間隔と撮影時間が表示されます。ただし、［**撮影動作**］（次ページ参照）以外の設定変更はできません。

撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、▶ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□259）を［**する**］にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間液晶モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

微速度撮影動画の記録先について

微速度撮影で撮影した動画は、撮影メニューの［**動画の設定**］の［**動画記録先**］（□68）で選んだスロットに記録されます。

微速度撮影の終了

- 次の場合は微速度撮影が終了し、終了時点までの動画がメモリーカードに記録されます。
  - ［微速度撮影］画面の［**撮影動作**］で［**終了**］が選ばれているときにⓄボタンを押したとき
  - 微速度撮影の待機状態や撮影直後の画像確認時にⓄボタンを押したとき
  - カメラの電源をOFFにしたとき
  - バッテリーの残量がなくなったとき
  - レンズを取り外したとき
  - USBケーブルまたはHDMIケーブルを接続したとき
  - 空いているスロットにメモリーカードを入れたとき
  - シャッターボタンを全押ししたとき（微速度撮影を終了し、静止画を撮影します。）
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します（微速度撮影終了時の電子音は鳴りません）。
  - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
  - メモリーカードを取り出したとき
- 微速度撮影終了後は通常の撮影待機状態に戻ります。

微速度撮影の制限について

微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません：

- ライブビュー撮影（□43、57）
- 長時間露出（バルブ）撮影（□122）
- オートブラケティング撮影（□130）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）（□172）
- 多重露出撮影（□192）
- インターバルタイマー撮影（□197）

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
- Ⓢに設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする → d1［**電子音設定**］（□286）

非CPUレンズを使う
（レンズ情報手動設定）

レンズの情報をカメラに登録することにより、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できます。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトのオートパワーズーム（🕮387）
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光※

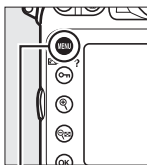
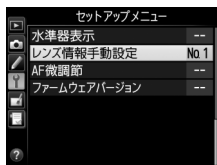
    ※ レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください。
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - 中央部重点測光
  - スポット測光
  - i-TTL調光

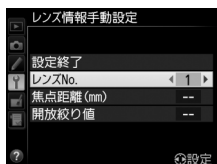
ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

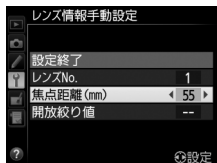
- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

▌レンズ情報の登録方法

1 セットアップメニューの［レンズ情報手動設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

2 ［レンズNo.］を選ぶ

- ◀または▶を押して、登録したいレンズNo.（1～9）を選びます。

3 ［焦点距離（mm）］を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの焦点距離（6～4000）を選びます。

4 ［開放絞り値］を選ぶ

- ◀または▶を押して、レンズの開放絞り値（F1.2～F22）を選びます。

5 設定を終了する

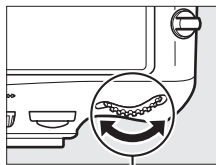
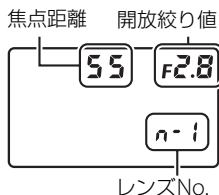
- ［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押します。
- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

Ⓞボタン

■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f4［Fnボタンの機能］の［コマンドダイヤル併用時の動作］を［手動設定済みレンズの選択］に設定する（□310）

- **Fn**ボタンとコマンドダイヤルの組み合わせに対して、レンズの選択機能が割り当てられます。

2 Fnボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

- レンズNo.は表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回します。

ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

関連ページ

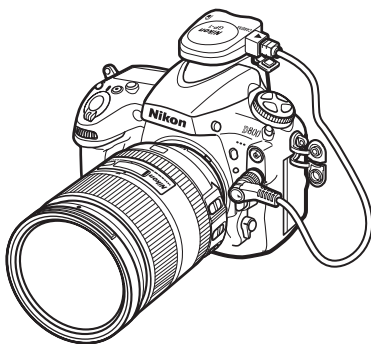
- プレビューボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f5［**プレビューボタンの機能**］（□311）
- AE-L AF-L AE/AFロックボタンで手動設定済みレンズ情報を切り換える → f6［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）

GPSデータを画像に記録する

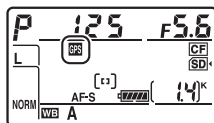
このカメラは、10ピンターミナル（□3）に接続したGPS機器により、GPSデータを画像に記録することができます。GPS機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報にGPSデータのページ（□225）が追加されます。GPSデータを記録するには、次の2つの方法があります。

- **別売のGPSユニットGP-1と接続する**
  GP-1を接続すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。
- **他社製のGPS機器と接続する**（□396）
  別売のGPS変換コードMC-35を介して、市販の対応GPS機器（□396）と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、撮影方位を記録できます。

■ 別売のGPSユニットGP-1と接続する

別売のGPSユニットGP-1は、ニコンデジタルカメラ専用のGPS機器です。カメラとGP-1の接続方法については、GP-1の使用説明書をご覧ください。

GPS機器との通信について

GPS機器との通信状態は、表示パネルのGPS通信マーク GPS で確認できます。

- GPS（点灯）：GPS機器との通信中です。
- GPS（点滅）：GPS機器が取得している情報が確定していないため、GPSデータは記録されません。GPS が点灯するまでお待ちください。
- GPS（消灯）：GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、GPS が消灯します。この状態で撮影した画像データにはGPSデータは記録されません。

❚❚ GPS機器接続時のカメラの設定について

MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**GPS**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、GPS機器と接続時の半押しタイマー、取得したGPSデータの表示、GPSによる日時合わせを設定できます。

- ［**半押しタイマー**］では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

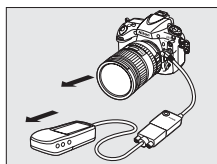
有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］（🕮283）で設定された時間でオフになります。 • カメラの電池の消耗を少なくすることができます。 • GP-1との接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラがGPSデータを取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。
無効	GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフになりません。

- ［**情報表示**］では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

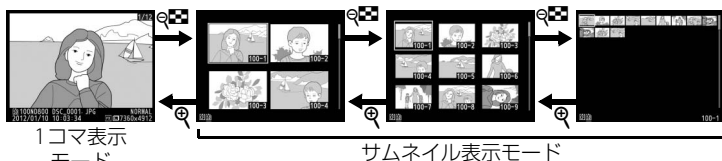
緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	撮影方位を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示。 UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- ［**GPSによる日時合わせ**］が［**する**］の場合、GPS機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GPS機器を使用して日時を合わせないときは、［**しない**］を選んでください。

撮影方位について

- 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- GP-1を接続した場合、撮影方位は記録されません。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。

画像の再生

画像を再生する

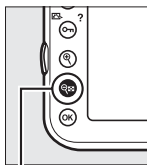
1コマ表示モード　　サムネイル表示モード

1コマ表示モード

- ▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。
- マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ▲または▼を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（□218）。

▶ボタン

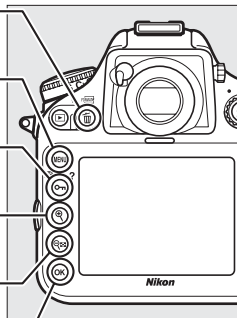
サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに⊖ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

- 表示される画像の数は、⊖ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、⊕ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの ▲▼◀▶ またはななめを押して画像を選びます。
- **中央**ボタンを押すたびに、1コマ表示とサムネイル表示が切り替わります。

⊖ボタン

▶

画像再生時のボタン操作

- 🗑（FORMAT）：画像を削除する（□230）
- MENU：メニューに移る（□253）
- O‑n（?/?）：画像を保護する（□229）
- ⊕：画像を拡大する（□227）
- ⊖▦：サムネイル表示モードで画像を一覧表示する（□215）
- Ⓞボタンで使える再生機能：
  - **静止画の場合**：画像編集メニューを表示する（□340）
  - **動画の場合**：動画編集メニューを表示する（□72）

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□260）を［**する**］に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。

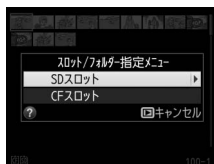
撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］（□259）で［**する**］が設定されているときは、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に液晶モニターに表示します。

- レリーズモードが**CH**や**CL**のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□260）を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

メモリーカードスロットの切り換えについて

72コマ表示時に🔍ボタンを押すと、右のような［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示されます。

- スロットを選んでマルチセレクターの▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで㊍ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。

撮影に戻るには

シャッターボタンを半押しするか▶ボタンを押すと、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

再生時のマルチセレクターの操作について

サムネイル表示中や右のような画像選択画面では、マルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押して画像を選べます。

関連ページ

- 液晶モニターの表示時間を変更する → c4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□285）
- マルチセレクターの**中央**ボタンの機能を変更する → f2［**中央ボタンの機能**］（□305）
- 画像のコマ送りやメニュー操作をコマンドダイヤルで行えるようにする → f9［**コマンドダイヤルの設定**］の［**再生/メニュー画面で使用**］（□316）

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。

標準表示

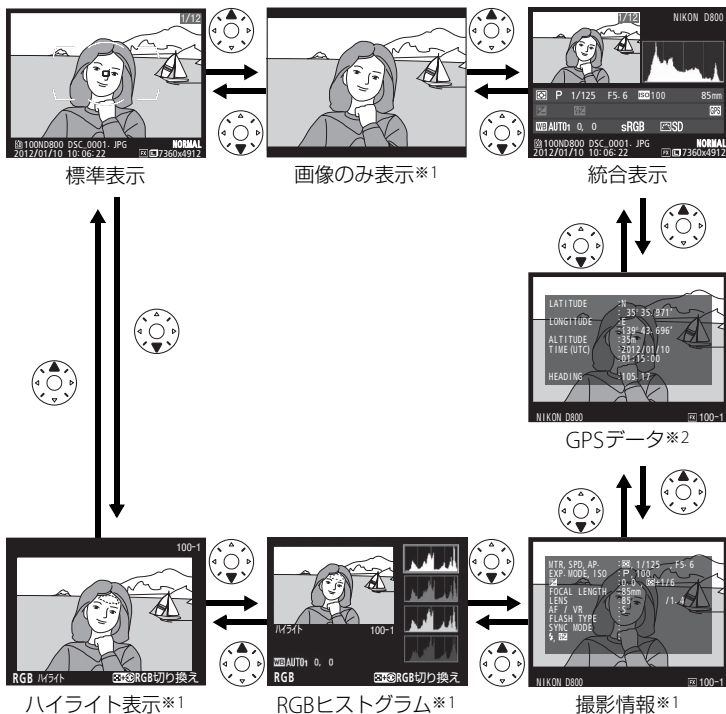
画像のみ表示※1

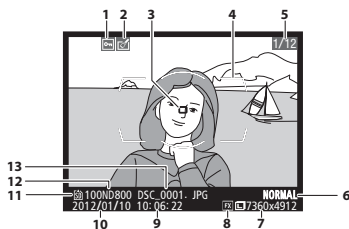
統合表示

GPSデータ※2

ハイライト表示※1

RGBヒストグラム※1

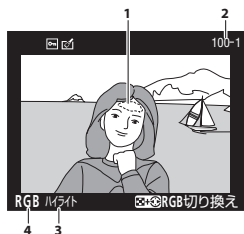
撮影情報※1

※1　再生メニューの［**再生画面設定**］（□255）で設定している場合のみ表示します。
※2　GPS（□212）を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

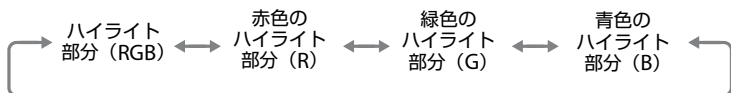
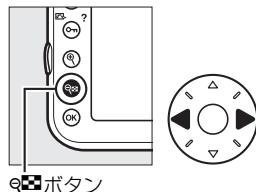
■ 標準表示

1	プロテクト設定の有無 229
2	画像編集の有無............................340
3	フォーカスポイント※1、2 94
4	AFエリアフレーム※1 33
5	コマ番号/ フォルダー内全画像数
6	画質モード.................................... 83
7	画像サイズ.................................... 86
8	撮像範囲※3 77
9	撮影時刻.. 25
10	撮影日付.. 25
11	スロット.. 28
12	フォルダー名...............................264
13	ファイル名...................................267

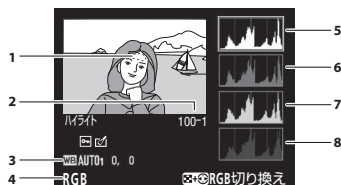
※1 再生メニューの［**再生画面設定**］（□255）で［**フォーカスポイント**］を設定している場合のみ表示します。

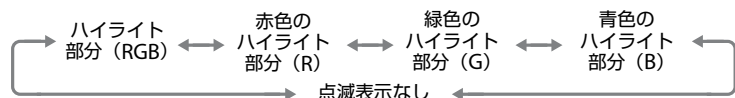
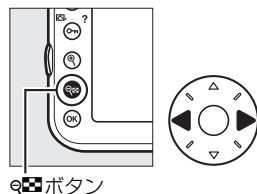
※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。
- **ファインダー撮影時のAFモードがAF-Sの場合、**最初にロックしたフォーカスポイントを赤く表示します。
- **ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cで、AFエリアモード（□91）がシングルポイントAF、ダイナミックAFまたは3D-トラッキングの場合、**ピントが合ったときはフォーカスポイントを赤く表示し、ピントが合っていないときは表示しません。
- **ファインダー撮影時のAFモードがAF-CでAFエリアモードがオートエリアAFの場合、**フォーカスポイントを表示しません。

※3 FX フォーマット（□77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき□63）、黄色で表示します。

ハイライト表示

1	画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します※1
2	フォルダー番号-コマ番号※2 264
3	ハイライト表示
4	ハイライト部分が点滅表示している色※1

※1 ボタンを押しながらマルチセレクターの ◀ または ▶ を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

※2 FX フォーマット（□77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき□63）、黄色で表示します。

RGBヒストグラム

1	画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※1 ... 220
2	フォルダー番号-コマ番号※2 264
3	ホワイトバランス ...... 141 ホワイトバランス色温度 ...... 147 ホワイトバランス微調整 ...... 144 プリセットマニュアル 150
4	ハイライト部分が点滅表示している色※1
5	RGBのヒストグラム
6	赤色（R）のヒストグラム
7	緑色（G）のヒストグラム
8	青色（B）のヒストグラム

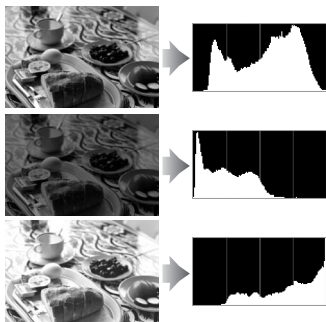
※1 ボタンを押しながらマルチセレクターの◀または▶を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。

※2 FX フォーマット（□77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき□63）、黄色で表示します。

拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で🔍ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍ボタンを押すと画像を縮小表示します。

ヒストグラムについて

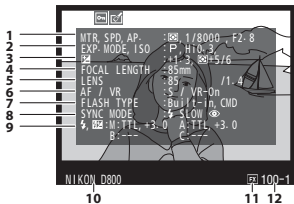
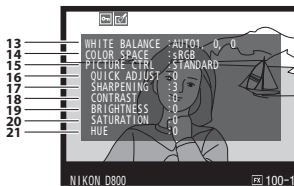
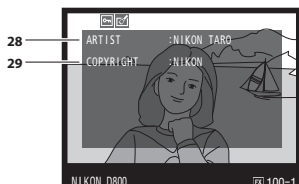
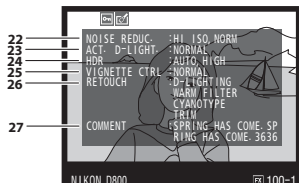
ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。

露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。
屋外などで周りが明るすぎて液晶モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

D800のヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- D800のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

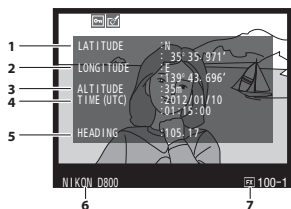
撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。

1	測光モード……113 シャッタースピード……117、120 絞り値……118、120
2	露出モード……115 ISO感度※1……107
3	露出補正値……128 基準露出レベルの調節値※2……282
4	焦点距離……209、383
5	レンズ情報……209
6	フォーカスモード……89 レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※3
7	フラッシュの種類……177、385 コマンダーモードの有無……298
8	フラッシュモード……179
9	フラッシュ発光方式……296 調光補正値……184
10	カメラ名
11	撮像範囲※4……77
12	フォルダー番号-コマ番号※4……264

13	ホワイトバランス……141 ホワイトバランス色温度……147 ホワイトバランス微調整……144 プリセットマニュアル……150
14	色空間……268
15	ピクチャーコントロール……159
16	クイック調整※5……162 元になったピクチャーコントロール※6……159
17	輪郭強調……162
18	コントラスト……162
19	明るさ……162
20	色の濃さ（彩度）※7……162 フィルター効果※8……162
21	色合い（色相）※7……162 調色※8……162

22	高感度ノイズ低減........................271 長秒時ノイズ低減........................271
23	アクティブD-ライティング........170
24	HDRの露出差..............................174 HDRのスムージング 174
25	ヴィネットコントロール.............. 269
26	画像編集メニュー（□340）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
27	画像コメント...............................332

28	撮影者名.......................................333
29	著作権者名..................................333

セットアップメニューの［**著作権情報**］（□333）を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

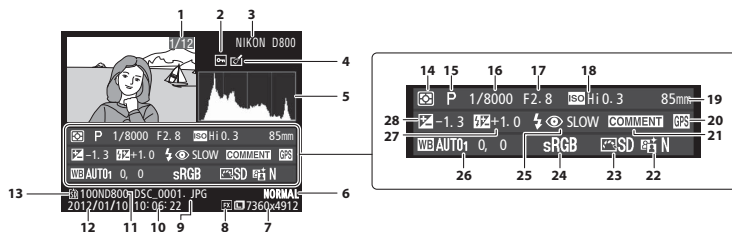
※1　感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2　カスタムメニュー b6［**基準露出レベルの調節**］（□282）を0以外に設定している場合のみ表示します。
※3　VRレンズ装着時のみ表示します。
※4　FX フォーマット（□77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき□63）、黄色で表示します。
※5　［**スタンダード**］、［**ビビッド**］、［**ポートレート**］、［**風景**］のとき表示します。
※6　［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、カスタムピクチャーコントロールのとき表示します。
※7　［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールの場合、表示しません。
※8　［**モノクローム**］や［**モノクローム**］を元にしたカスタムピクチャーコントロールのときのみ表示します。

GPSデータ※1

1	緯度
2	経度
3	標高
4	UTC（協定世界時）
5	撮影方位※2
6	カメラ名
7	撮像範囲※3 77

※1 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

※2 電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

※3 FX フォーマット（□77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき□63）、黄色で表示します。

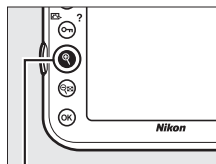
■ 統合表示

1	コマ番号/フォルダー内全画像数	
2	プロテクト設定の有無	229
3	カメラ名	
4	画像編集の有無	340
5	画像のヒストグラムを表示します（🕮222）。	
6	画質モード	83
7	画像サイズ	86
8	撮像範囲※1	77
9	ファイル名	267
10	撮影時刻	25
11	フォルダー名	264
12	撮影日付	25
13	スロット	88
14	測光モード	113
15	露出モード	115
16	シャッタースピード	117、120
17	絞り値	118、120
18	ISO感度※2	107
19	焦点距離	209、383
20	GPSデータの有無	212
21	画像コメントの有無	332
22	アクティブD-ライティングの強度	171
23	ピクチャーコントロール	159
24	色空間	268
25	フラッシュモード	179
26	ホワイトバランス	141
	ホワイトバランス色温度	147
	ホワイトバランス微調整	144
	プリセットマニュアル	150
27	調光補正値	184
	コマンダーモードの有無	298
28	露出補正値	128

※1 FX フォーマット（🕮77）以外で撮影した画像の場合（動画ライブビュー時は DX ベースのフォーマットのとき🕮63）、黄色で表示します。

※2 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

画像を拡大表示する

ボタン

1コマ表示モードのときに ボタンを押すと、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約46倍、**M** では約34倍、**S**では約22倍です（撮像範囲が［**FX (36×24) 1.0×**］の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。

■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる		ボタンを押すごとに拡大率が上がります。	
拡大率を下げる		ボタンを押すごとに拡大率が下がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えます。
画面をスクロール（移動）させる		画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
人物の顔へ移動させる		拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すと、認識した顔に順次移動します。	

前後の画像を見る		メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。
画像を保護する	O⊓（/?）	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（□229）。
撮影に戻る	/▶	シャッターボタンを半押しするか、▶ボタンを押すと、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニューが表示されます（□253）。

画像を保護する（プロテクト）

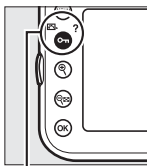
大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：□31、324）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。

- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 O-n（?/?）ボタンを押す

- O-nアイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、O-n（?/?）ボタンを押します。

O-n（?/?）ボタン

> **プロテクトの一括解除について**
> 画像の再生中に、O-n（?/?）ボタンと🗑（FORMAT）ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像を削除する

メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

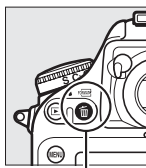
表示中の画像を削除する

🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、削除する画像を選択します。

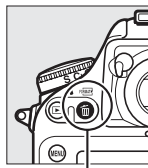
2 🗑（FORMAT）ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。

🗑（FORMAT）ボタン

1コマ表示モード

サムネイル表示モード

3 もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。

🗑（FORMAT）ボタン

関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶［**削除後の次再生画像**］（□260）

複数の画像をまとめて削除する

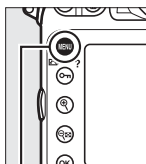
再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
ALL　全画像削除	［**再生フォルダー設定**］（□254）で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • メモリーカードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

選択画像削除

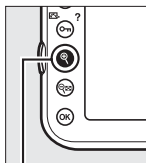
1　再生メニューの［削除］で［選択画像削除］を選ぶ

MENUボタン

• MENUボタンを押して再生メニューの［**削除**］で［**選択画像削除**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、削除画像の選択画面が表示されます。

2　削除する画像を選ぶ

• マルチセレクターで画像を選びます。

• ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

• ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□217）。

ボタン

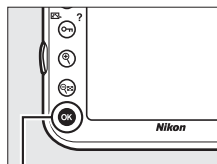
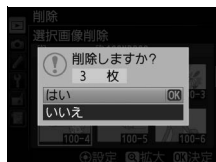
3 設定する

- **中央**ボタンを押すと、🗑が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、🗑が消えます。
- 削除する画像全てに設定してください。

4 設定を完了する

- ㊙ボタンを押して、設定を終了します。

㊙ボタン

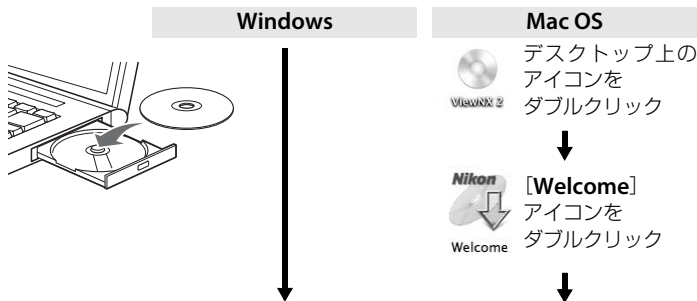
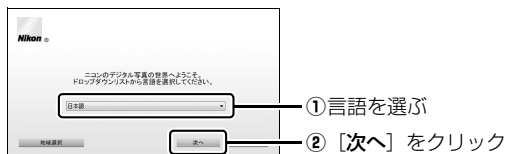
- 確認画面で［**はい**］を選んで㊙ボタンを押すと、選択した画像が全て削除されます。

パソコン、プリンター、テレビとの接続

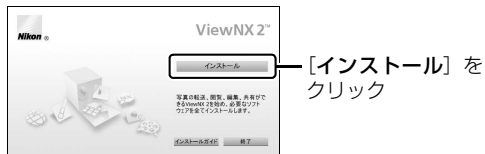
画像をパソコンに転送する

このカメラでは、付属のUSBケーブルUC-E14をカメラに接続して、撮影した画像をパソコンに転送できます。ここでは、転送時に必要な操作について説明します。

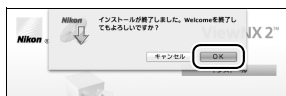
付属のソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、付属のViewNX 2 CD-ROMを使って、お使いのパソコンにViewNX 2ソフトウェアをインストールします。ViewNX 2をインストールすると、画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。インストールを始める前に、お使いのパソコンの環境が🕮236の動作環境に合っているか確認してください。

1　パソコンを起動し、ViewNX 2 CD-ROMをCD-ROMドライブに入れる

2　言語を選択する

3　インストールを開始する

• 画面の指示に従ってインストールしてください。

インストールガイドについて

手順3の画面で［**インストールガイド**］をクリックすると、ViewNX 2のインストール方法のヘルプを表示します。

4 インストールを終了する

Windows	Mac OS
［**はい**］をクリック	［**OK**］をクリック

- 次のソフトウェアがインストールされます。
  - ViewNX 2
  - Apple QuickTime（Windowsのみ）

5 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す

Windowsをお使いの場合

ViewNX 2 をインストールした後、［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**Link to Nikon**］の順にクリックすると、当社のホームページにアクセスできます（インターネットに接続できる環境が必要です）。

ViewNX 2の動作環境について

Windows	
プロセッサー（CPU）	• 静止画、動画（MotionJPEG圧縮方式）：Intel Celeron/Pentium4/Coreシリーズ1.6GHz以上 • 動画（H.264 圧縮方式）： - 再生時：Pentium D 3.0GHz以上 - 編集時：Core 2 Duo 2.6GHz以上 • 1280 × 720 ピクセル以上でフレームレート 30 fps 以上、または 1920 × 1080 ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5 以上を推奨
OS	Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate（Service Pack 1）、Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate（Service Pack 2）、Windows XP Home Edition/Professional（Service Pack 3） • すべてプリインストールされているモデルに対応 • 64bit版Windows 7およびWindows Vista上で使用する場合、32bitアプリケーションとして動作します。 • Windows XPは32bit 版のみ対応します。
メモリー（RAM）	• Windows 7、Windows Vista：1GB以上実装（2GB以上実装を推奨） • Windows XP：512MB以上実装（2GB以上実装を推奨）
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が500MB以上（1GB以上推奨）
モニター	解像度：1024×768 ピクセル（XGA）以上（1280×1024 ピクセル（SXGA）以上推奨） 表示色数：24ビットカラー以上

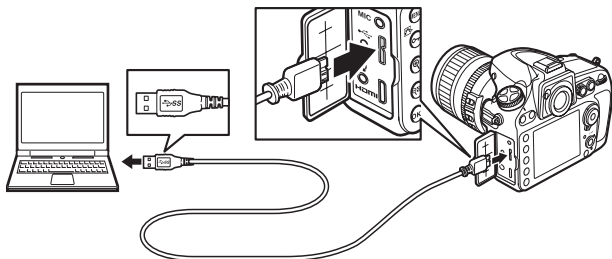
Mac OS	
プロセッサー（CPU）	• 静止画、動画（MotionJPEG 圧縮方式）：PowerPC G4 1GHz 以上/G5、Intel Coreシリーズ/Xeonシリーズ • 動画（H.264 圧縮方式）： - 再生時：PowerPC G5 Dual 2GHzまたはCore Duo 2GHz 以上 - 編集時：Core 2 Duo 2.6GHz 以上 • 1280×720 ピクセル以上でフレームレート 30 fps 以上、または1920×1080 ピクセル以上で動画再生をする場合：Intel Core i5 以上を推奨 • QuickTime H.264 hardware acceleration に対応したグラフィックプロセッサを推奨
OS	Mac OS X （Version 10.5.8、10.6.8、10.7.2）
メモリー（RAM）	512MB以上実装(2GB以上実装を推奨)
ハードディスク	OS起動ディスクの空き容量が500MB以上（1GB以上推奨）
モニター	解像度：1024×768 ピクセル（XGA）以上（1280×1024 ピクセル（SXGA）以上推奨） 表示色数：1670万色以上

USB接続でパソコンに画像を転送する

付属のUSBケーブルUC-E14を使ってカメラとパソコンを接続します。カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1 カメラの電源をOFFにする

2 パソコンを起動する

3 カメラとパソコンを接続する

4 カメラの電源をONにする

5 Nikon Transfer 2を起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

Windows 7をお使いの場合

下の画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

1［**画像とビデオのインポート**］で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ

- ［**画像とビデオのインポート**］の［**プログラムの変更**］をクリックすると表示される画面で、［**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2使用**］を選んで、［**OK**］をクリックします。

2［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックする

6 画像をパソコンに取り込む

［**転送開始**］

- ［**転送開始**］をクリックすると、記録されているすべての画像がパソコンに取り込まれます（ViewNX 2の初期設定）。
- Nikon Transfer 2の使い方については、ViewNX 2のヘルプ をご覧ください。ヘルプは、Nikon Transfer 2またはViewNX 2を起動し、メニューバーの［**ヘルプ**］メニューから［**ViewNX 2ヘルプ**］を選んで表示してください。

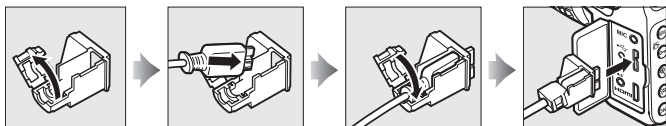
7 転送が終わったら、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜く

- 転送が終わると、Nikon Transfer 2は自動的に終了します。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンを接続するときは、充分に充電されたバッテリー EN-EL15、または別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bを組み合わせてお使いになることをおすすめします。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

USBケーブルクリップについて

付属のUSBケーブルクリップを取り付けると、カメラからUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

ワイヤレストランスミッター WT-4を使ってパソコンに画像を転送する

別売のワイヤレストランスミッターWT-4（□393）をカメラと接続して使うことにより、パソコンやFTPサーバーとの通信を無線で行えます。また、WT-4にイーサネットケーブルを接続することにより、有線でも同様の操作が可能です。

■ 別売のWT-4接続時に使える機能

画像送信	メモリーカードに記録した画像や、撮影直後の画像をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
サムネイルセレクトモード	撮影した画像をパソコン画面で確認しながら、必要な画像だけを選んでパソコンに保存できます。
PCモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存できます。
プリンター接続	メモリーカード内のJPEG画像を送信して、パソコンに接続しているプリンターでプリントできます。

- WT-4の使用方法などについては、WT-4の使用説明書をご覧ください。
- WT-4のファームウェアや付属のソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

WT-4使用時の画像編集メニューの制限について

画像送信モードでWT-4を使用するときは、画像再生時に㊍ボタンを押す操作で選択画像を転送できます（WT-4を接続していないときは、転送設定のみを行います）。このため、［**編集前後の画像表示**］（□366）など、画像再生時に㊍ボタンを押して操作する画像編集メニュー（□342）は使えなくなります。［**編集前後の画像表示**］を使うには、セットアップメニュー（□323）の［**ワイヤレストランスミッター**］の［**接続モード**］を［**画像送信**］以外に設定してください。

画像転送中の動画の記録・再生について

WT-4をこのカメラに接続して、画像転送状態のときは、動画の記録および再生はできません（画像転送状態とは、画像を転送中、または、転送予定の画像が残っている状態のことです）。

動画の転送について

WT-4をお使いの場合、動画は画像送信モードでパソコンに転送できます（［**送信設定**］が［**撮影後自動送信**］または［**フォルダー送信**］の場合を除く）。サムネイルセレクトモードでは、動画を転送できません。

サムネイルセレクトモードについて

このカメラをサムネイルセレクトモードで使用する場合、パソコンからカメラの設定を変更することはできません。

別売のCamera Control Pro 2について

別売のCamera Control Pro 2（□395）で、パソコンからカメラをコントロールして静止画や動画を撮影できます。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が［**PC**］になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マーク**PC**が表示されます。

画像をプリンターで印刷する

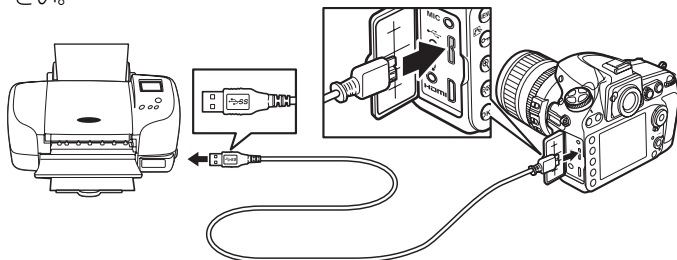
PictBridge（ピクトブリッジ：0441）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルUC-E14で直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

付属のUSBケーブルUC-E14を使ってカメラとプリンターを接続します。

1　カメラの電源をOFFにしてからプリンターの電源をONにする

2　カメラとプリンターを接続する

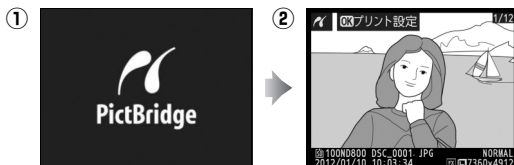
- USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、撮影メニューの［**色空間**］を［**sRGB**］に設定して撮影してください（0268）。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

3 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀または▶を押してプリントしたい画像を選びます。

- 1コマ表示中に🔍ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します（□227）。▶ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- **中央**ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。もう一度**中央**ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 6コマ表示中に🔍ボタンを押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□217）。
- ▲または▼を押すと、画像情報（□218）が表示されます。

2 プリント設定画面を表示する

- ㊃ボタンを押すとプリント設定画面が表示されます。

㊃ボタン

3 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

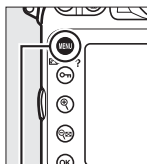
用紙設定	▼または▲を押して、プリントする用紙のサイズまたは［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）を選んでOKボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	▼または▲を押して、プリントする枚数（1～99枚）を設定してOKボタンを押します。
フチ設定	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（フチありプリント）または［**なし**］（フチなしプリント）を選んでOKボタンを押します。
日付プリント	▼または▲を押して、［**プリンターの設定**］（プリンターの設定を優先）、［**あり**］（日付を印刷する）または［**なし**］（日付を印刷しない）を選んでOKボタンを押します。
範囲指定	［**する**］を選んで、マルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示されます。黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。 • Q⊞ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なり、Qボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なります。 • マルチセレクターを操作すると、プリント範囲が移動します。 • OKボタンを押すと、プリント範囲が決定します。

4 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んで、OKボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OKボタンを押してください。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（□241）、次の手順でプリントしてください。

1 **「カメラとプリンターを接続する」の手順3（□242）の画面でMENUボタンを押す**

MENUボタン

2 **プリント方法を選んでマルチセレクターの▶を押す**

プリント画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。
DPOFプリント	再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］（□247）で、事前に設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数は、手順3の画面に反映されます。
INDEXプリント	メモリーカードの中のJPEG画像（□83）を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • インデックスプリントできるのは 256 コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

3 プリントする画像と枚数を設定する

（/?）ボタン

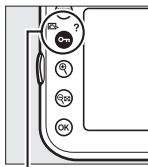
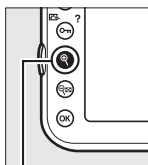
［プリント画像選択］または［DPOFプリント］の場合：

- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、（/?）ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。
- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（217）。

ボタン

- ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、ボタンを押します。

［INDEXプリント］の場合：

- ［INDEXプリント］画面が表示されたら、ボタンを押します。

4 プリント設定の項目を設定する

- ▼または▲を押して設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。
- 「1コマだけプリントする」の手順3（□243）と同様に、［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］を設定してください。
- ［**INDEXプリント**］の場合、用紙サイズによっては、プリントできないことがあります（警告画面が表示されます）。

5 プリントを開始する

- ［**プリント実行**］を選んでⓄボタンを押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを中断したいときは、もう一度Ⓞボタンを押してください。

Ⓞボタン

ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（□83）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの［**RAW現像**］（□353）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- ［**フチ設定**］と［**範囲指定**］は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選べません。なお、［**範囲指定**］で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

［**用紙設定**］、［**フチ設定**］、［**日付プリント**］の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に［**プリンターの設定**］を選んでください。

関連ページ

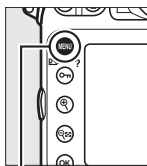
プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」（□431）をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（□241）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

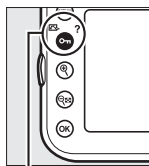
1 再生メニューの［プリント指定（DPOF）］で［設定］を選ぶ

MENUボタン

- MENUボタンを押して、再生メニューの［**プリント指定（DPOF）**］で［**設定**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

2 プリントする画像と枚数を設定する

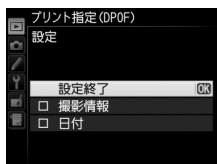
- マルチセレクターを操作してプリントする画像を選び、O-n（⊡/?）ボタンを押しながら▲または▼を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

O-n（⊡/?）ボタン

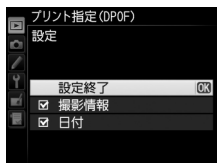
- 設定した画像には、⎙アイコンとプリント枚数が表示されます。
- 枚数を0にすると⎙アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ⊖ボタンを押すと、［スロット/ フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□217）。

- ㊉ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。
- 画像と枚数を設定したら、㊋ボタンを押します。

㊉ボタン

3 プリント指定の項目を設定する

- 撮影情報や日付を画像に写し込まない場合は、そのまま［**設定終了**］を選んで㊋ボタンを押してください。
- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、［**撮影情報**］または［**日付**］を選んで▶を押して☐に✔を入れてください。

4 プリント指定を終了する

- ［**設定終了**］を選んで、㊋ボタンを押します。

㊋ボタン

☑ プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、［**プリント指定（DPOF）**］の［**撮影情報**］、［**日付**］の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの［**日付プリント**］を［**あり**］にしてください。
- メモリーカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（□83）は、プリント指定ができません。
- プリント指定を行ったメモリーカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**プリント指定（DPOF）**］で設定した内容を全て解除します。

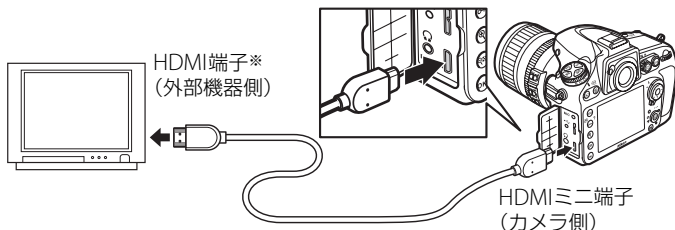
画像をテレビで見る

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続することができます。接続には市販のHDMIミニ端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。

1 **カメラの電源をOFFにする**

- HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

2 **カメラとハイビジョンテレビを接続する**

※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

3 **テレビの入力をHDMI入力に切り換える**

4 **カメラの電源をONにして、▶ボタンを押す**

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニューの［**HDMI**］（□323）で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。

出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- ［**出力解像度**］が［**オート**］の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。
- 動画ライブビュー、動画の撮影または再生時には、［**出力解像度**］の設定にかかわらず、常に［**オート**］の動作になります。

詳細設定

出力レンジ	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える［**オート**］をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選択してください。 • **リミテッドレンジ**：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • **フルレンジ**：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます（いずれも上下左右とも）。
ライブビュー時の情報表示	HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。［**しない**］の場合は、撮影情報が表示されません。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。このカメラでは市販のHDMIミニ端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます。

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bをお使いになることをおすすめします。

スライドショー

再生メニューの［**スライドショー**］（□260）では、撮影した画像を1コマずつ連続再生できます。

動画の音声について

- 動画撮影時に別売のステレオマイクロホン ME-1（□61）を使ってステレオ録音した音声は、HDMIケーブルでカメラとHDMIテレビをつなぐと、ステレオ再生されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。
- HDMI 対応機器接続時には、動画再生時の音声は、カメラに接続したヘッドホンから再生できません。

HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影と動画撮影について

- HDMI ケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながらライブビュー撮影や動画撮影を行えます（□55、66）。
- 動画ライブビュー中または動画の撮影時や再生時は、撮影メニュー［**動画の設定**］の［**画像サイズ/フレームレート**］（□67）の設定に合わせてHDMI出力を行います。ただし、HDMI対応機器によっては、［**動画の設定**］の内容ではHDMI出力できないことがあります。その場合は、セットアップメニュー［**HDMI**］の［**出力解像度**］を［**1080i （インターレース)**］（□250）に設定してください。

メニューガイド

▶ 再生メニュー：
再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	🕮
削除	231
再生フォルダー設定	254
非表示設定	254
再生画面設定	255
画像コピー	256

メニュー項目	🕮
撮影直後の画像確認	259
削除後の次再生画像	260
縦位置自動回転	260
スライドショー	260
プリント指定（DPOF）	247

関連ページ

「再生メニューの初期設定」（🕮410）

再生フォルダー設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像はメモリーカード内のフォルダーに保存されます。
画像の再生（□215）時に表示するフォルダーを設定します。

ND800	D800で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

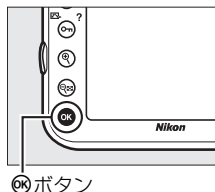
2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセレクターを操作して画像を選び、**中央**ボタンを押して設定します。設定すると▧が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、▧が消えます。

- 非表示にする画像全てに設定してください。
- ⊕ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。⊕ボタンを放すと元に戻ります。
- ⊖ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示されます（□217）。

3　設定を完了する

- ⓚボタンを押して、設定を終了します。

ⓚボタン

非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

設定した非表示設定を一括で解除したいときは

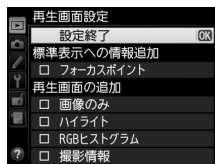
［非表示設定］画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**非表示設定**］で設定した内容を全て解除します。

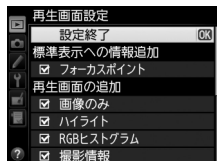
再生画面設定

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

標準表示画面（□219）で、選択したフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を表示するかどうかも設定できます。

1　項目を選ぶ

- 画像情報に表示したい項目を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。
- もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ□になります。

2 ［設定終了］を選ぶ

- ［**設定終了**］を選んで㊉ボタンを押すと、設定が完了します。

画像コピー

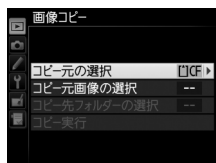
MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

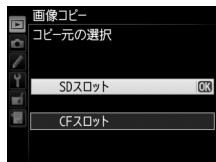
メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

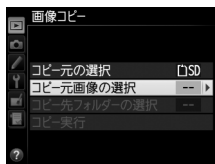
コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選択します。
コピー先フォルダーの選択	［**コピー元の選択**］で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選択します。
コピー実行	コピーを実行します。

■ 画像のコピー方法

1 ［コピー元の選択］を選ぶ

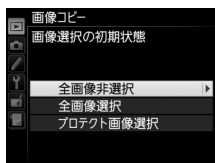
- ［**コピー元の選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［コピー元の選択］画面が表示されます。

2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで㊉ボタンを押すと、［画像コピー］画面に戻ります。

3 ［コピー元画像の選択］を選ぶ

- ［**コピー元画像の選択**］を選んで▶を押すと、［コピー元画像の選択］画面が表示されます。

4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで▶を押すと、［画像選択の初期状態］画面が表示されます。

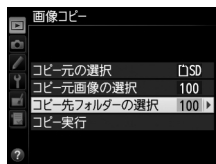
5 画像の選択方式を選ぶ

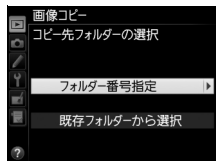
- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。

全画像非選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選んで**中央**ボタンを押すと、✔が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、✔が消えます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✔を入れてから㊋ボタンを押すと、［画像コピー］画面に戻ります。

7 ［コピー先フォルダーの選択］を選ぶ

- ［**コピー先フォルダーの選択**］を選んで▶を押すと、［コピー先フォルダーの選択］画面が表示されます。

8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

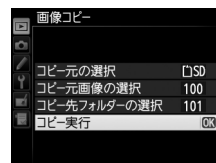
- コピー先フォルダーの選択方法を選んで▶を押します。

フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します（□264）。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選択します。	

9 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選択して㊙ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して［画像コピー］画面に戻ります。

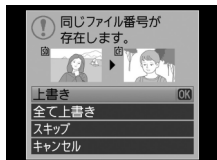
10 ［コピー実行］を選ぶ

- ［**コピー実行**］を選んで㊙ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。

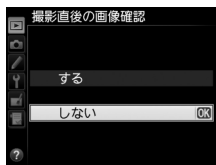
㊙ボタン

11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [**はい**] を選んで㊉ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度㊉ボタンを押してコピーを完了します。

✔ 画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、[**上書き**] または [**全て上書き**] を選択すると、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。[**スキップ**] を選択すると、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。[**キャンセル**] を選択すると、コピーを中止します。
- プロテクト設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- [**プリント指定 (DPOF)**] (🕮244) で設定した情報は、コピー先の画像には引き継がれません。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[**しない**] を選択した場合に撮影画像を表示確認するには、▶ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
直前コマ送り方向に従う	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

縦位置自動回転についてのご注意

- ［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、セットアップメニューの［**縦横位置情報の記録**］（□329）を［**しない**］にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

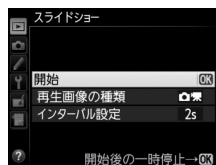
スライドショー

MENUボタン ➜ ▶再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］（□254）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、［**非表示設定**］（□254）されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を［**静止画と動画**］、［**静止画のみ**］、［**動画のみ**］から選べます。
インターバル設定	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

▮▮ スライドショーを再生する

［**開始**］を選んで㊵ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

1コマ進む/戻る	◀ ▶	マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	▲ ▼	▲または▼を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます（□218）。
一時停止する/再開する	㊵	スライドショーが一時停止します。もう一度㊵ボタンを押すと再開します。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（□215）またはサムネイル表示モード（□215）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。［**再開**］を選んで㊵ボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んで㊵ボタンを押すと、スライドショーが終了します。

撮影メニュー：撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、撮影メニューが表示されます。

撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
撮影メニューの管理	263
拡張撮影メニューの設定	264
記録フォルダー設定	264
ファイル名設定	267
主スロットの選択	88
副スロットの機能	88
画質モード	83
画像サイズ	86
撮像範囲	77
JPEG圧縮	85
RAW記録	85
ホワイトバランス	141
ピクチャーコントロール	159
カスタムピクチャーコントロール	165
色空間	268
アクティブD-ライティング	170
HDR（ハイダイナミックレンジ）	172
ヴィネットコントロール	269
自動ゆがみ補正	270
長秒時ノイズ低減	271
高感度ノイズ低減	271
ISO感度設定	107
多重露出	192
インターバルタイマー撮影	197
微速度撮影	204
動画の設定	67

関連ページ

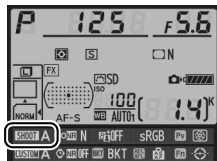
「撮影メニューの初期設定」（🕮411）

撮影メニューの管理

カメラは、撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの撮影メニューで設定した内容は、他の撮影メニューには反映されません。ただし、ピクチャーコントロールの調整値（クイック調整および手動調整）、［**拡張撮影メニューの設定**］、［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］、［**微速度撮影**］での設定は、全ての撮影メニューで共通になります。

［**撮影メニューの管理**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

撮影メニュー設定表示について

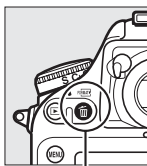
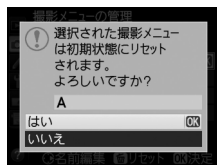
インフォ画面には、SHOOTと撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

関連ページ

露出モード、シャッタースピード、絞り値も撮影メニューに記憶する
→ 📷［**拡張撮影メニューの設定**］（📖264）

名前編集

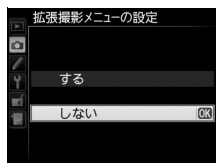
撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい撮影メニューを選んでマルチセレクターの▶を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6 をご覧ください（📖166）。

■ 撮影メニューのリセット

撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい撮影メニューを選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、選んだ撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します（□411）。

🗑（FORMAT）ボタン

拡張撮影メニューの設定

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

［**する**］を選ぶと、撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モードS、Mのみ）、絞り値（露出モードA、Mのみ）を記憶できます。

- ［**撮影メニューの管理**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値の設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- ［**しない**］を選ぶと、［**する**］を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値に戻ります。

記録フォルダー設定

MENUボタン ➜ 📷撮影メニュー

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。新規作成の場合は［**フォルダー番号指定**］でフォルダー番号を設定します。既存フォルダーから選択する場合は［**既存フォルダーから選択**］を選びます。

■ フォルダー番号指定

記録するフォルダー番号を指定します。フォルダーが存在しない場合は新しく作成します。

1 ［フォルダー番号指定］を選ぶ

- ［**フォルダー番号指定**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［フォルダー番号指定］画面が表示されます。
- ［フォルダー番号指定］画面の右上には、主スロット（□88）が下線で強調されて表示されます（新規作成する場合、フォルダーは主スロットに作成されます）。

2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- ◀または▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

- ▲または▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- ㊐ボタンを押すと、新規フォルダーを作成して撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存されます。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（□、□、□）が表示されます。
  □または□を選んで㊐ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定して撮影メニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、MENUボタンを押すと撮影メニューに戻ります。

フォルダーマークについて

［フォルダー番号指定］画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは□、その他のフォルダーのときは□のフォルダーマークが表示されます。□が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選択します。

1 ［既存フォルダーから選択］を選ぶ

- ［**既存フォルダーから選択**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［既存フォルダーから選択］画面が表示されます。

2 フォルダーを選ぶ

- ▲または▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- Ⓞボタンを押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、そのうちのファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。［**ファイル名設定**］では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（0166）。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - TIF：TIFF (RGB)の場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - MOV：動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 撮影メニューの［**色空間**］で［**Adobe RGB**］（0268）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

色空間

記録する画像の色空間を指定します。［**sRGB**］色空間は画像調整を行わずに再生やプリントをする場合に適しています。［**Adobe RGB**］色空間は、［**sRGB**］に比べて色域が広いため、商業印刷に適しています。

色空間について

- カラーマネージメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、sRGB色空間をおすすめします。
- Adobe RGB色空間で記録したJPEG画像は、DCFオプション色空間に対応しています。DCFオプション色空間に対応しているアプリケーションやプリンターの場合、自動的に正しい色空間が設定されます。DCFオプション色空間に対応していないアプリケーションやプリンターの場合は、Adobe RGB色空間に設定してください。詳細については、アプリケーションやプリンターの説明書をご覧ください。
- Adobe RGB色空間で記録したTIFF画像には、ICCプロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshopなどのカラーマネージメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間が設定されます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンターなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、sRGB色空間をおすすめします。Adobe RGB色空間で記録すると、彩度が低下する場合があります。

ViewNX 2またはCapture NX 2をお使いの場合

付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2をお使いいただくと、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。

ヴィネットコントロール

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ・Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（DXレンズ、PCレンズを除く）。

H **強め**	効果が強い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
N **標準**	
L **弱め**	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

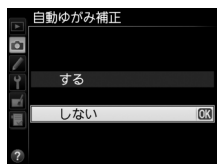
ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
  - DXレンズを装着して撮影メニュー［**撮像範囲**］（77）の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定している場合または［**撮像範囲設定**］を［**DX（24×16）1.5×**］に設定している場合
  - 撮影メニューの［**多重露出**］（192）を設定しているとき
  - 動画撮影時
- TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。初期設定は［**標準**］ですが、試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン → 撮影メニュー

［**する**］にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- ［**自動ゆがみ補正**］は、Gタイプ・Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

- ［**する**］の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定するか、［**撮像範囲設定**］を［**DX（24×16）1.5×**］に設定してください（□78）。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

関連ページ

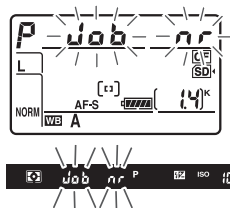
撮影した画像のゆがみを補正する → ［**ゆがみ補正**］（□359）

長秒時ノイズ低減

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（ざらつき、むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示にJob nrが点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、約2倍になります。

長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。
- 動画撮影時は、長秒時ノイズ低減の効果は適用されません。

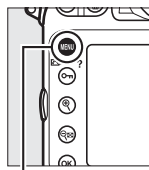
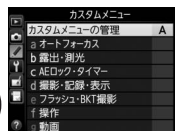
高感度ノイズ低減

MENUボタン ➜ 撮影メニュー

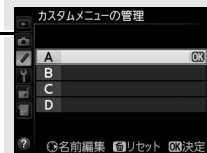
感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき、むら、すじ）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。 ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
標準	
弱め	
しない	ISO感度が1600以上の高感度になったときのみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］よりもさらに弱くなります。

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

MENUボタンを押して、タブの アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>

カスタムメニュー
カスタムメニューの管理 A
a オートフォーカス
b 露出・測光
c AEロック・タイマー
d 撮影・記録・表示
e フラッシュ・BKT撮影
f 操作
g 動画

カスタムメニューの管理（□274）

<第2階層>

カスタムメニューの項目は次の通りです。※

メニュー項目		📖
カスタムメニューの管理		274
a	**オートフォーカス**	
a1	AF-Cモード時の優先	275
a2	AF-Sモード時の優先	276
a3	AFロックオン	276
a4	半押しAFレンズ駆動	277
a5	フォーカスポイント照明	277
a6	フォーカスポイント循環選択	277
a7	AF点数切り換え	278
a8	内蔵AF補助光の照射設定	279
b	**露出・測光**	
b1	ISO感度設定ステップ幅	280
b2	露出設定ステップ幅	280
b3	露出・調光補正ステップ幅	280
b4	露出補正簡易設定	281
b5	中央部重点測光範囲	282
b6	基準露出レベルの調節	282
c	**AEロック・タイマー**	
c1	半押しAEロック	283
c2	半押しタイマー	283
c3	セルフタイマー	284
c4	液晶モニターのパワーオフ時間	285
d	**撮影・記録・表示**	
d1	電子音設定	286
d2	低速連続撮影速度	287
d3	連続撮影コマ数	287
d4	露出ディレーモード	288
d5	連番モード	288
d6	格子線の表示	289
d7	ISO感度表示と簡易設定	289
d8	インフォ画面のガイド表示	290
d9	インフォ画面の表示設定	290
d10	イルミネーター点灯	291
d11	MB-D12電池設定	291
d12	電池の使用順序	292
e	**フラッシュ・BKT撮影**	
e1	フラッシュ撮影同調速度	294
e2	フラッシュ時シャッタースピード制限	296
e3	内蔵フラッシュ発光	296
e4	モデリング発光	303
e5	オートブラケティングのセット	303
e6	BKT変化要素（Mモード）	304
e7	BKTの順序	305
f	**操作**	
f1	☀スイッチの機能	305
f2	中央ボタンの機能	305
f3	マルチセレクターの半押し起動	306
f4	**Fn**ボタンの機能	307
f5	プレビューボタンの機能	311
f6	AE/AFロックボタンの機能	312
f7	シャッタースピードと絞り値のロック	313
f8	**BKT**ボタンの機能	313
f9	コマンドダイヤルの設定	314
f10	ボタンのホールド設定	317
f11	カードなし時レリーズ	317
f12	インジケーター表示の＋/－方向	318
f13	MB-D12のAF-ONボタン機能	319
g	**動画**	
g1	Fnボタンの機能	320
g2	プレビューボタンの機能	320
g3	AE/AFロックボタンの機能	321
g4	シャッターボタンの機能	322

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（✱）を表示します。

関連ページ
「カスタムメニューの初期設定」（□413）

カスタムメニューの管理

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

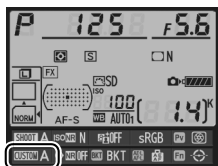
カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

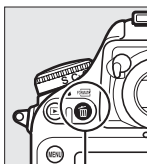
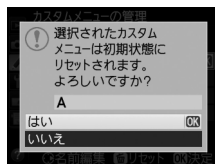
［**カスタムメニューの管理**］で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

名前編集

カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセレクターの▶を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□166）。

カスタムメニュー設定表示について

インフォ画面には、CUSTOMとカスタムメニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んで㊙ボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します（□413）。

🗑（FORMAT）ボタン

a：オートフォーカス

a1：AF-Cモード時の優先

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき（□89）にシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
レリーズ/フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-C**のときは、［**AF-Cモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2：AF-Sモード時の優先

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のとき（□89）にシャッターボタンを押したときの動作を設定できます。

レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-S**のときは、［**AF-Sモード時の優先**］の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3：AFロックオン

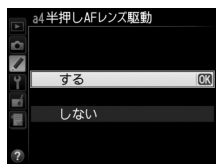
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき（□89）に、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作について設定できます。

AF 5（強め）	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 • 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、［**5（強め）**］、［**4**］、［**3（標準）**］、［**2**］、［**1（弱め）**］になります。
AF 4	
AF 3（標準）	
AF 2	
AF 1（弱め）	
しない	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。

a4：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

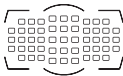
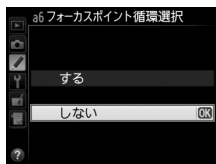
シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。［**しない**］を選んだ場合は、AF-ONボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。

a5：フォーカスポイント照明

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

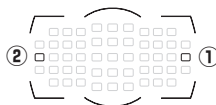
ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート	被写体が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。また、撮像範囲外の記録されない部分をうす暗く表示します（□79）。

a6：フォーカスポイント循環選択

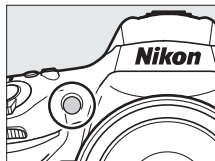
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

［**する**］を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント（①）を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向（右図の場合は▶）に押すと、反対側の端のフォーカスポイント（②）に移動します。

a7：AF点数切り換え

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

a8：内蔵AF補助光の照射設定 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射します。
暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。

する	ファインダー撮影時に、オートフォーカスでのピント合わせの際に、次の条件が全て満たされた場合に、自動的にAF補助光を照射します。 • 被写体が暗い場合 • AFモードが**AF-S**の場合（□89） • オートエリアAF以外のAFエリアモード（□91）で、中央のフォーカスポイントを選択したとき、またはオートエリアAFのとき
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

AF補助光について

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24mmから200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

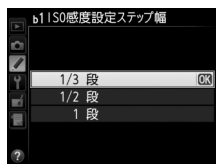
関連ページ

「AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意」（□382）

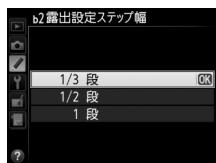
b：露出・測光

b1：ISO感度設定ステップ幅

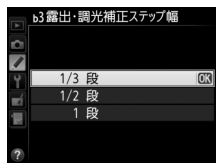
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます（□107）。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2：露出設定ステップ幅

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。

b3：露出・調光補正ステップ幅

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を［**する（自動リセット）**］または［**する**］に設定すると、露出インジケーターの「0」が点滅します。

する（自動リセット）	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 • 電源をOFFにしても、半押しタイマーがきれても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b4［露出補正簡易設定］とf9［メインとサブの入れ換え］の併用について

［**露出補正簡易設定**］とカスタムメニュー f9［**コマンドダイヤルの設定**］（□314）の［**メインとサブの入れ換え**］との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。

		カスタムメニュー f9→メインとサブの入れ換え	
		しない	**する**
露出モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

b4［露出補正簡易設定］とd7［ISO感度表示と簡易設定］の［感度表示と簡易設定をする］について

b4［**露出補正簡易設定**］の［**する（自動リセット）**］と［**する**］は、d7［**ISO感度表示と簡易設定**］の［**感度表示と簡易設定をする**］（□289）とは併用できません。メッセージが表示され、先に設定していた内容が［**しない**］にリセットされます。

b5：中央部重点測光範囲

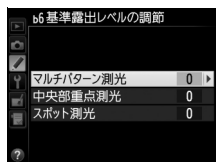
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、［**画面全体の平均**］に設定すると画面全体の平均になり、それ以外に設定すると［**φ12mm**］相当になります。

b6：基準露出レベルの調節

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

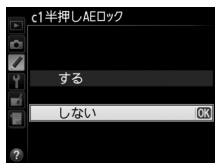
適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニューb6の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニューb6［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニューb6の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c：AEロック・タイマー

c1：半押しAEロック

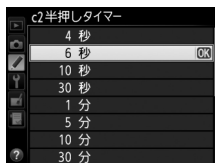
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2：半押しタイマー

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c3：セルフタイマー

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時（□104）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。	c3 セルフタイマー 時間 2s 2 秒 5s 5 秒 10s 10 秒 OK 20s 20 秒
撮影コマ数	マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。	c3 セルフタイマー 撮影コマ数 1 1~9 OK決定
連続撮影間隔	［**撮影コマ数**］を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。	c3 セルフタイマー 連続撮影間隔 0.5s 0. 5 秒 OK 1s 1 秒 2s 2 秒 3s 3 秒

c4：液晶モニターのパワーオフ時間

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- ［**画像の再生**］、［**メニュー表示**］、［**インフォ画面表示**］、［**撮影直後の画像確認**］、［**ライブビュー表示**］で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、［**画像の再生**］と［**インフォ画面表示**］の場合は10秒、［**メニュー表示**］は1分、［**撮影直後の画像確認**］は4秒、［**ライブビュー表示**］は10分です。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d1：電子音設定

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

電子音の音の高さや音量を設定できます。

音量

電子音の音量を設定できます。

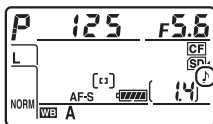
- ［**電子音なし**］を選ぶと、電子音は鳴りません。

音の高さ

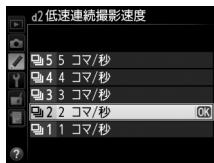
電子音の音の高さを［**高音**］と［**低音**］から選べます。

- ［**音量**］を［**電子音なし**］以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
  - セルフタイマー作動中（104）
  - 微速度撮影終了時（204）
  - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモード（89）が**AF-C**のとき、電子音は鳴りません）
  - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき（32）
- 動画ライブビュー時（57）およびレリーズモードが**Q**の場合（101）は、［**電子音設定**］の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

電子音設定時の表示について

［**音量**］が［**電子音なし**］以外の場合は表示パネルとインフォ画面に♪（電子音あり）マークが表示されます。

d2：低速連続撮影速度

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

レリーズモードがCLのときの連続撮影速度を［**5コマ/秒**］～［**1コマ/秒**］の間で設定できます（🕮102）。

インターバルタイマー撮影速度について

レリーズモードを**S**に設定してインターバルタイマー撮影を行った場合、カスタムメニュー d2で設定した連続撮影速度で撮影されます。

d3：連続撮影コマ数

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、1コマ～100コマの間で設定します。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d3［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります（🕮444）。このコマ数を超えると「r00」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d4：露出ディレーモード

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：連番モード

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 • 連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	［**する**］に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

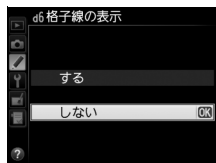
- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 に達しているときにファイル番号が 9999 に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、カスタムメニュー d5［**連番モード**］を［**リセット**］した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号＋1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d6：格子線の表示

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

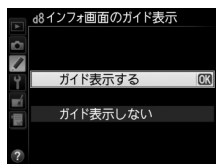
ファインダー内に構図用格子線（8）を表示するかしないかを設定できます。

d7：ISO感度表示と簡易設定

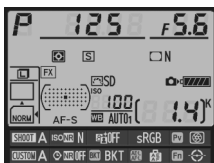
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

表示パネルの記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示できます。［**感度表示と簡易設定をする**］を選ぶと、コマンドダイヤルの操作だけでISO感度を変更できます。

ISO **感度を表示する**	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示します。
ISO **感度表示と簡易設定をする**	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示し、露出モードがP、S、Aのときにコマンドダイヤルで ISO 感度を変更できます。 • **露出モードP、S**：サブコマンドダイヤルでISO感度を変更します。 • **露出モードA**：メインコマンドダイヤルでISO感度を変更します。
しない	記録可能コマ数表示部にISO感度を表示しません。

d8：インフォ画面のガイド表示　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

インフォ画面で選んだ項目の文字表示ガイドを表示するかどうかを設定します（□13）。

d9：インフォ画面の表示設定　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

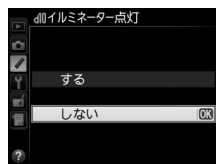
明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見づらいときにインフォ画面（□10）の見え方を設定できます。

黒文字表示

白文字表示

<table>
<tr><td>AUTO 自動</td><td colspan="2">インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">手動</td><td colspan="2">手動でインフォ画面の表示を切り換えます。</td></tr>
<tr><td>B 黒文字</td><td>明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターが点灯し、文字を黒く表示します。</td></tr>
<tr><td>W 白文字</td><td>暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、液晶モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。</td></tr>
</table>

d10：イルミネーター点灯

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

［**しない**］に設定すると、電源スイッチを☀に合わせたときだけ表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します（□4）。［**する**］に設定すると、このほか、半押しタイマー（□40）の作動中にも、表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

d11：MB-D12電池設定

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12に単3形電池（8本）を入れて使用するときに、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15または別売のEN-EL18を使用する場合は、設定する必要がありません。

MB-D12で使える市販の単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池です。次の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しないおそれがあります。

	対応する電池
LR6　アルカリ単3形電池	アルカリ単3形電池
Ni-MH　Ni-MH単3形充電池	ニッケル水素単3形充電池
FR6　リチウム単3形電池	リチウム単3形電池

単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

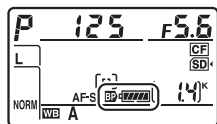
- アルカリ電池を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

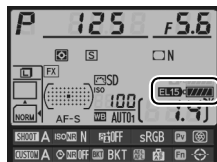
表示パネル	ファインダー	意味
（満）	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
（少）	（少）	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
（空）（点滅）	（空）（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

d12：電池の使用順序

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時に、MB-D12に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。

- MB-D12側のバッテリーを使用しているときのみ、表示パネルにBPアイコンが表示されます。

マルチパワーバッテリーパックMB-D12について

- 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D12 をカメラに装着すると、インフォ画面のMB-D12のバッテリー種別表示は、使用しているバッテリーにより、次のように変わります。

MB-D12の バッテリー種別表示	MB-D12で使用しているバッテリー
EL15	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
EL18	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL18
FR6/AA	単3形電池

- 別売のパワーコネクターEP-5BとACアダプターEH-5bをMB-D12に接続している場合は、カスタムメニュー d12［**電池の使用順序**］の設定にかかわらず、常にACアダプターを使用します。

e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ撮影同調速度　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/320秒（オートFP） **1/250秒（オートFP）**	フラッシュ撮影時の同調速度を1/320秒または1/250秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト（□387）使用時は1/320秒または1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。※
1/250秒 **1/200秒** **1/160秒** **1/125秒** **1/100秒** **1/80秒** **1/60秒**	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。

※ 露出モードがPまたはAで、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードがSまたはMのときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒またはbulb）の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

オートFPハイスピードシンクロについて

カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］（🕮294）を［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、内蔵フラッシュや別売のスピードライト（🕮387）を使って1/320秒または1/250秒までフラッシュ同調ができます。また、別売のオートFP ハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時にシャッタースピードが1/320秒または1/250秒より速くなると、自動的にFP発光に切り替わります。

シャッタースピード	1/320秒（オートFP）		1/250秒（オートFP）		1/250秒	
	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）	内蔵フラッシュ	スピードライト（別売）
1/8000～1/320秒より高速側	—	FP発光	—	FP発光	—	—
1/320～1/250秒より高速側	フラッシュ同調 ※	フラッシュ同調 ※	—	FP発光	—	—
1/250～30秒	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調	フラッシュ同調

※ ガイドナンバーは、シャッタースピードが速くなるほど小さくなりますが、FP発光時よりは大きくなります。

露出不足のときの警告表示について

［**1/320秒（オートFP）**］時は、スピードライトがフル発光して露出不足のおそれがある場合でも、スピードライト側のレディーライトは点滅警告しません。ファインダー内のレディーライトで確認してください。

FP発光について

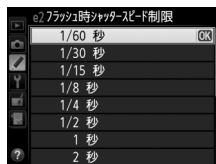
フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（🕮180）。［**1/320秒（オートFP）**］や［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます（🕮181、391）。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

露出モードがPまたはAの場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を、［**1/60秒**］～［**30秒**］から設定できます。

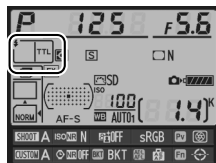
- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードがS、Mの場合には、カスタムメニューe2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：内蔵フラッシュ発光

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

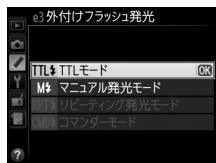
TTL⚡ **TTLモード**	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M⚡ **マニュアル発光モード**	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します。モニター発光は行いません。
RPT⚡ **リピーティング発光モード**	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させます。被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます。詳しくは🕮297をご覧ください。
CMD⚡ **コマンダーモード**	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯（リモート）グループをワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します。詳しくは🕮298をご覧ください。

✎ 内蔵フラッシュの発光方式について

内蔵フラッシュの発光方式は、インフォ画面のフラッシュモードで確認できます（🕮11、181）。

調光補正マークの表示について

［**マニュアル発光モード**］、［**リピーティング発光モード**］にすると、表示パネルとファインダー内表示に⚡マークが点滅します。

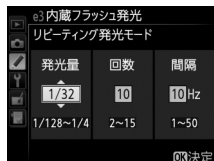
別売スピードライトSB-400を装着している場合について

別売スピードライトSB-400を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニューe3［**内蔵フラッシュ発光**］がe3［**外付けフラッシュ発光**］に変わり、SB-400の発光方式を［**TTLモード**］または［**マニュアル発光モード**］に設定できます。［**リピーティング発光モード**］と［**コマンダーモード**］は選択できません。

マニュアル発光モード

「Full」（フル発光）のほか、「1/1.3」～「1/128」から発光量を選べます。

- 「Full」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約12（ISO 100・m、20℃）となります。

リピーティング発光モード

［**リピーティング発光モード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で［**発光量**］、［**回数**］、［**間隔**］の各設定項目を切り換え、▲または▼で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz（ヘルツ；1秒あたりの発光回数）単位で設定します。

リピーティング発光モードの発光回数について

- ［**回数**］で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、［**発光量**］によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

■ コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯（リモート)グループをワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング、🕮387）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュや2つの補助灯グループのスピードライトに、それぞれ発光モードと調光補正量（または発光量）を設定できます。

［**コマンダーモード**］を選ぶと、右のような画面が表示されます。

マルチセレクターの◀または▶で項目を切り換え、▲または▼で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。

	発光モード	内容
内蔵フラッシュ	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3段ステップで± 3 段）します。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、内蔵フラッシュの発光量を［**1/1**］（フル発光）、または［**1/1.3**］～［**1/128**］から選びます。
	--	内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。
Aグループ	TTL	A グループの全ての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	AA※	Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の調光補正量を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	M	Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の［補正量］欄で、A グループの補助灯の発光量を［**1/1**］（フル発光）、または［**1/1.3**］～［**1/128**］から選びます。
	--	A グループの補助灯は発光しません。
Bグループ	Bグループの補助灯について、A グループと同様の設定を行います。	
チャンネル	補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。	

※ 絞り連動外部自動調光対応スピードライトの場合のみ発光します（🕮387）。

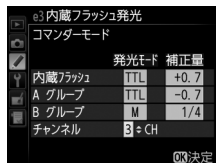
コマンダーモードでの撮影手順は、次のとおりです。

1 右の画面で、［内蔵フラッシュ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

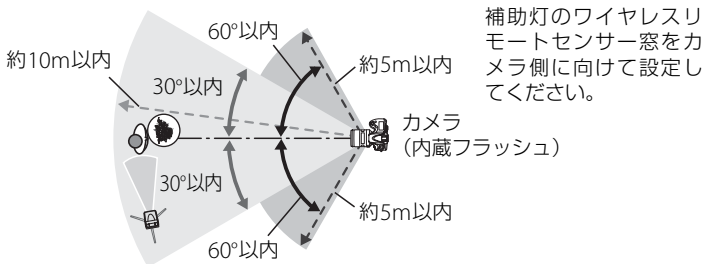
- 発光モードを［--］（非発光）にした場合は、［**補正量**］が設定できません。

2 同様に［A グループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

3 Bグループの補助灯を使用する場合は、同様に［Bグループ］の［発光モード］と［補正量］を設定する

4 ［チャンネル］を設定する

5 ㊙ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をON にし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～ 4）に設定してください。

8 フラッシュロック解除ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの［**発光モード**］を［**--**］に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFV ロック（□186）と組み合わせて撮影することもできます。

内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［--］にして内蔵フラッシュを上げると、表示パネルのフラッシュモード表示から⚡が消灯します。

コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、⚡（⚡☒）ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、［**内蔵フラッシュ**］、［**A グループ**］、「**B グループ**」のそれぞれの［**補正量**］に加算されます。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**TTL**］にして、［**補正量**］を**0**以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡☒が点灯します。
- ［**内蔵フラッシュ**］を［**M**］に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に⚡☒が点滅します。

コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュの光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、内蔵フラッシュの光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（［**TTL**］設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（［**AA**］設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- ［**内蔵フラッシュ**］の［**発光モード**］を［--］にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：モデリング発光

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（□115、386）使用時にカメラのプレビューボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e5：オートブラケティングのセット

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

オートブラケティング（□130）の種類を設定できます。

AE⚡	**AE・フラッシュブラケティング**	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE	**AEブラケティング**	露出値を変えながら撮影します。
⚡	**フラッシュブラケティング**	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB	**WBブラケティング**（□135）	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
	ADLブラケティング（□138）	アクティブD-ライティング（□170）の効果の度合いを変えながら撮影します。

e6：BKT変化要素（Mモード） MENUボタン ➜ カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、カスタムメニューe5［**オートブラケティングのセット**］とe6［**BKT変化要素（Mモード）**］との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6［BKT変化要素（Mモード）］	カスタムメニュー e5［オートブラケティングのセット］	
	AE・フラッシュブラケティング※	**AEブラケティング※**
フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
フラッシュ	フラッシュの調光レベル	–

※カスタムメニュー e6が［**フラッシュ・シャッタースピード**］、［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］、［**フラッシュ・絞り値**］のいずれかのときに、［**感度自動制御**］（□109）が［**する**］に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

e7：BKTの順序

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N	[0] → [−] → [+]	「補正なし」→「−側に補正」→「＋側に補正」の順になります。
−➜+	[−] → [0] → [+]	「−側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。

- カスタムメニューe5［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f：操作

f1：スイッチの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

電源スイッチをマークの方向に回したときの機能を設定できます。

	の点灯/消灯	表示パネルのイルミネーターを約6秒間点灯します。
info	**とインフォ画面の点灯/消灯**	表示パネルのイルミネーターの点灯とインフォ画面の表示を行います。

f2：中央ボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー撮影時または再生時にマルチセレクターの**中央**ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、［**再生モード**］の設定にかかわらず、**中央**ボタンを押すと動画を再生します）。

■ 撮影モード

RESET	**フォーカスポイント中央リセット**	**中央**ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	選択フォーカスポイント表示	**中央**ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
	使用しない	**中央**ボタンは機能しません。

再生モード

▦	**1コマとサムネイルの切り換え**	**中央**ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
▲	**ヒストグラム表示**	**中央**ボタンを押している間、ヒストグラム（□222）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
🔍	**拡大画面との切り換え**	**中央**ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度**中央**ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を［**低倍率**］、［**中倍率**］、［**高倍率**］から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
□	**スロット/フォルダー指定**	**中央**ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面（□217）が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

ライブビュー

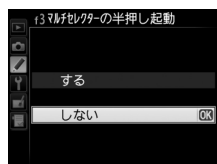
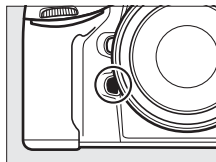
RESET	**フォーカスポイント中央リセット**	ライブビュー表示中に**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
🔍	**拡大画面との切り換え**	ライブビュー表示中に**中央**ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度**中央**ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を［**低倍率**］、［**中倍率**］、［**高倍率**］から選べます。
	使用しない	**中央**ボタンは機能しません。

f3：マルチセレクターの半押し起動

MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

半押しタイマー（□40）がきれたときにマルチセレクターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f4：Fnボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

Fnボタンを単独で押したときの機能と、**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

Fnボタン押し時の動作

Fnボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

プレビュー※	レンズの絞り羽根が絞り込まれ、被写界深度が確認できます（115）。
FV-L※	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト（387）使用時は、FVロック（186）を行い、もう一度**Fn**ボタンを押すと解除します。
AE-L/AF-L	**Fn**ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	**Fn**ボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L（レリーズでリセット）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度**Fn**ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがきれると、解除されます。
AE-L（ホールド）※	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度**Fn**ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。
AF-L	**Fn**ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AF-ON※	**Fn**ボタンを押している間、**AF-ON**ボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
フラッシュ発光禁止	**Fn**ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。

BKT自動連写	カスタムメニューe5の［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］以外の場合でレリーズモードが**CH**または**CL**のときは、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、レリーズモードが**S**または**Q**のときは、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 ［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］の場合は、**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。
マルチパターン測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
中央部重点測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
スポット測光簡易設定	**Fn**ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
再生※	**Fn**ボタンに▶ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、▶ボタンを左手で操作できないときに便利です。
マイメニューのトップ項目先へジャンプ※	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
+RAW プラスRAW記録※	画質モードがJPEG（FINE）、JPEG（NORMAL）、JPEG（BASIC）の場合、**Fn**ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度**Fn**ボタンを押すと［**プラスRAW記録**］を解除します。
ファインダー内水準器※	1回押すと、ファインダーに水準器インジケーターを表示します（□309）。もう一度**Fn**ボタンを押すと、水準器表示を終了します。

設定しない	**Fn**ボタンは機能しません。

※これらの機能は、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□310）とは併用できません。設定するとメッセージが表示され、［**コマンドダイヤル併用時の動作**］が自動的に［**設定しない**］になります。また、これらの機能が選ばれているときに［**コマンドダイヤル併用時の動作**］を［**設定しない**］以外に設定すると、［**Fnボタン押し時の動作**］の設定が自動的に［**設定しない**］になります。

水準器インジケーターについて

［**Fnボタン押し時の動作**］を［**ファインダー内水準器**］に設定して**Fn**ボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケーターを表示します。この「水準器インジケーター」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが反時計回りに傾いている場合

ピッチング方向

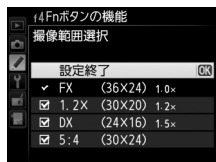
カメラが前に傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが後ろに傾いている場合

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。

コマンドダイヤル併用時の動作

Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

撮像範囲選択	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、[**撮像範囲**]（□77）の設定を切り換えられます。 • 切り換えたい撮像範囲を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ□になります。[**設定終了**]を選んで㊉ボタンを押すと、設定が完了します。 f4Fnボタンの機能 撮像範囲選択 設定終了 OK ✓ FX (36×24) 1.0× ☑ 1.2× (30×20) 1.2× ☑ DX (24×16) 1.5× ☑ 5:4 (30×24)
シャッタースピードと絞り値のロック	露出モードが**S**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。露出モードが**A**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。シャッタースピードと絞り値のロックについては、□124をご覧ください。
シャッター・絞り値1段選択	カスタムメニューb2［**露出設定ステップ幅**］（□280）の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 • 露出モードが**S**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 • 露出モードが**A**または**M**のとき、**Fn**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU 手動設定済みレンズの選択	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□209）で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
アクティブD-ライティング設定	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング（□170）の設定を切り換えられます。
設定しない	**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：プレビューボタンの機能　MENUボタン ➜ ✎カスタムメニュー

プレビューボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

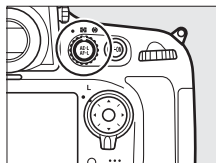
■ プレビューボタン押し時の動作

プレビューボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**Fnボタン押し時の動作**］（□307）とほぼ同じですが、［**AF-ON**］は選べません。初期設定は［**プレビュー**］です。

■ コマンドダイヤル併用時の動作

プレビューボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□310）と同じです。初期設定は［**設定しない**］です。

f6：AE/AFロックボタンの機能 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

AE-L AF-L AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

AE/AFロックボタン押し時の動作

AE-L AF-L AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**Fnボタン押し時の動作**］（□307）と同じです。ただし、初期設定は［**AE-L/AF-L**］です。

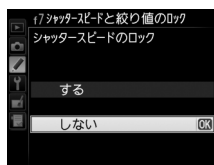
コマンドダイヤル併用時の動作

AE-L AF-L AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］→［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□310）とほぼ同じですが、［**シャッター・絞り値1段選択**］と［**アクティブD-ライティング設定**］は選べません。初期設定は［**設定しない**］です。

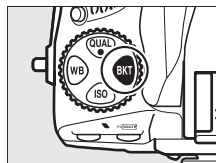
f7：シャッタースピードと絞り値のロック

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

［**シャッタースピードのロック**］を［**する**］にすると、露出モード**S**または**M**ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。［**絞り値のロック**］を［**する**］にすると、露出モード**A**または**M**では絞り値を現在の設定でロックします。

- 露出モードが **P** の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。

f8：BKTボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

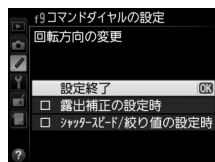
BKTボタンを押したときの機能を設定できます。

BKT **オートブラケティング**	**BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回すと、オートブラケティング撮影時の撮影コマ数、補正ステップ、アクティブD-ライティングの度合いを設定できます（□130）。
多重露出	**BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、多重露出モードを設定できます。**BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数を設定できます（□195）。
HDR **HDR（ハイダイナミックレンジ）**	**BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、HDRモードを設定できます。**BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、HDRの露出差を設定できます（□175）。

- HDR（ハイダイナミックレンジ）または多重露出の設定が有効なときに、カスタムメニューf8［**BKTボタンの機能**］に他の機能を割り当てた場合、**BKT**ボタンは使えません。**BKT**ボタンが使えないときは、HDR（ハイダイナミックレンジ）または多重露出を解除してください。

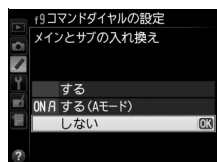
f9：コマンドダイヤルの設定　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

▌回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- ［**露出補正の設定時**］または［**シャッタースピード/絞り値の設定時**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
- ［**設定終了**］を選んでⓀボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D12 のコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。

▌メインとサブの入れ換え

シャッタースピードを設定するメインコマンドダイヤルと、絞り値を設定するサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

する	メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。
ON A **する（Aモード）**	露出モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
しない	メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞り値を設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードが**A**または**M**の場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（[**メインとサブの入れ換え**］を［**する**］に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（G タイプレンズ）装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非 CPU レンズ装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

▮▮ 再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	**再生時**： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルで画像情報の表示ページを切り換えます。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、上下に移動します。 **メニュー画面表示時**※**：** メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON **する（撮影後確認時を除く）**	［**する**］と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターを操作して行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、OKボタンか、マルチセレクターの▶または**中央**ボタンを押してください。

f10：ボタンのホールド設定　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放しても設定できる状態が維持できます。

［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、MODE（FORMAT）ボタン、ボタン、（）ボタン、**BKT**ボタン、**ISO**ボタン、**QUAL**ボタン、**WB**ボタン、AFモードボタンです。また、カスタムメニューf4［**Fnボタンの機能**］（□307）またはf5［**プレビューボタンの機能**］（□311）の［**コマンドダイヤル併用時の動作**］で、**Fn**ボタンまたはプレビューボタンに［**アクティブD-ライティング設定**］が割り当てられている場合も、［**ボタンのホールド設定**］の対象になります。

する	1回ボタンを押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがきれると、解除されます。 • カスタムメニューc2［**半押しタイマー**］が［**制限なし**］に設定されている場合には、自動的に解除されません。
しない	ボタンを押し続けている間のみ設定できる状態となります。

f11：カードなし時レリーズ　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

LOCK レリーズ禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK レリーズ許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［デモモード］と表示され、画像は記録できません。

f12：インジケーター表示の＋/－方向

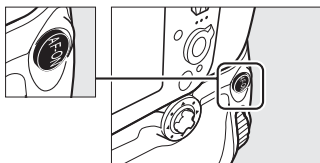
MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面（info）での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケーターの＋と－方向を入れ換えることができます。

+0－ +◀ⅰⅰⅰⅰⅰⅰⅰⅰ▶－	インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
－0+ －◀ⅰⅰⅰⅰⅰⅰⅰⅰ▶+	インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

f13：MB-D12のAF-ONボタン機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12の**AF-ON**ボタンの機能を設定します。

AF-ON	**AF-ON**ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト（387）使用時は、1回押すとFVロック（186）を行い、もう一度**AF-ON**ボタンを押すと解除します。
AE-L/AF-L	**AF-ON**ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	**AF-ON**ボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L（レリーズでリセット）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。もう一度**AF-ON**ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE-L（ホールド）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態を維持します。シャッターをきってもAEロックを解除しません。ただし、もう一度**AF-ON**ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AF-L	**AF-ON**ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
Fnボタンと同じ	**Fn**ボタンと同じ機能になります（307）。

g：動画

g1：Fnボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

動画ライブビューで**Fn**ボタンを押したときの機能を設定できます。

パワー絞り（開放絞り側）	**Fn**ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニューg2［**プレビューボタンの機能**］が［**パワー絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます（□320）。
インデックスマーキング	動画撮影中に**Fn**ボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます（□59）。
静止画撮影情報の表示	**Fn**ボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度**Fn**ボタンを押すと元の画面に戻ります。
設定しない	**Fn**ボタンは機能しません。

g2：プレビューボタンの機能

MENUボタン ➜ カスタムメニュー

動画ライブビューでプレビューボタンを押したときの機能を設定できます。

パワー絞り（最小絞り側）	プレビューボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニューg1［**Fnボタンの機能**］が［**パワー絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます（□320）。
インデックスマーキング	動画撮影中にプレビューボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます（□59）。
静止画撮影情報の表示	プレビューボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度プレビューボタンを押すと元の画面に戻ります。
設定しない	プレビューボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 露出モードAまたはMのときのみ動作します。
- 動画撮影中はパワー絞りは動作しません。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りが動作しないときは、マークが液晶モニターに表示されます。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

g3：AE/AFロックボタンの機能 MENUボタン ➜ カスタムメニュー

動画ライブビュー時でAE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。

インデックスマーキング	動画撮影中にAE/AFロックボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます（□59）。
静止画撮影情報の表示	AE/AFロックボタンを押すと、動画ライブビューで静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度AE/AFロックボタンを押すと元の画面に戻ります。
AE-L/AF-L	AE/AF ロックボタンを押している間、AE ロックとフォーカスロックを同時に行います。
AE-L	AE/AF ロックボタンを押している間、AE ロックを行います。
AE-L（ホールド）	1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度AE/AFロックボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。
AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
設定しない	AE/AFロックボタンは機能しません。

g4：シャッターボタンの機能　MENUボタン ➜ カスタムメニュー

ライブビューセレクターが動画の場合に、シャッターボタンを押したときの機能を設定できます。

静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比（縦横比）16：9の静止画を撮影します（撮影中の動画は終了します）。静止画の画像サイズ（ピクセル）については、「動画ライブビュー時に撮影できる静止画の画像サイズと画質モードについて」（63）をご覧ください。
動画撮影	シャッターボタンを半押しすると、動画ライブビューを開始します。フォーカスモードセレクターがAFの場合、動画ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。また、全押しすると、動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。 • 動画ライブビューを終了するには、Lvボタンを押してください。 • 別売のリモートコード（395）使用時には、リモートコードのシャッターボタンを半押しして動画ライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

［シャッターボタンの機能］が［動画撮影］のときのご注意

g4［**シャッターボタンの機能**］が［**動画撮影**］の場合、インターバルタイマー撮影（197）はできません。また、ライブビューセレクターが動画のとき、静止画撮影、プリセットマニュアルホワイトバランスデータ取得、イメージダストオフデータ取得などのシャッターボタンを使う操作は行えません。これらの機能を使うには、g4の設定を［**静止画撮影**］に設定してください。

セットアップメニュー：
カメラを使いやすくする基本設定

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。

MENUボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
カードの初期化（フォーマット）	324
液晶モニターの明るさ	324
イメージセンサークリーニング	400
クリーニングミラーアップ※1	403
イメージダストオフデータ取得	325
HDMI	249
フリッカー低減	327
地域と日時	328
言語（Language）	328
縦横位置情報の記録	329
電池チェック	330
ワイヤレストランスミッター	239
画像コメント	332
著作権情報	333
カメラ設定の保存と読み込み	334
GPS	214
水準器表示	336
レンズ情報手動設定	209
AF微調節	337
Eye-Fi送信機能※2	338
ファームウェアバージョン	339

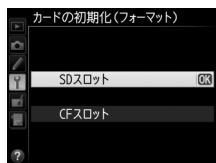
※1 バッテリー残量表示が以下のときは選べません。

※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます（📖339）。

関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」（📖416）

カードの初期化（フォーマット）　MENUボタン → Y セットアップメニュー

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで［**はい**］を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードの初期化についてのご注意

［**カードの初期化（フォーマット）中です。**］のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ボタン操作による初期化

O（FORMAT）ボタンとMODE（FORMAT）ボタンを2秒以上同時に押して初期化することもできます（□31）。

液晶モニターの明るさ　MENUボタン → Y セットアップメニュー

画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさを設定できます。

オート	液晶モニターが点灯した時点で照度センサー（□5）の測定した周囲の明るさに合わせて、カメラが自動で液晶モニターを見やすい明るさに調整します。照度センサー（□5）を指でふさがないでください。
マニュアル	液晶モニターの明るさを、マルチセレクターの▲または▼を押して調整できます。+にすると明るく、−にすると暗くなります。

関連ページ

ライブビュー表示中の液晶モニターの明るさを設定する →「液晶モニターの明るさの調整方法」（□50）

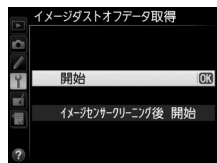
イメージダストオフデータ取得　MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

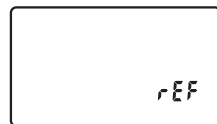
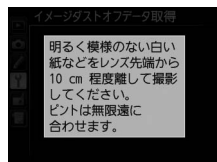
別売のCapture NX 2（□395）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX 2 の使用説明書をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得の手順

1　イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- ［**開始**］を選んでⓄボタンを押すと、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

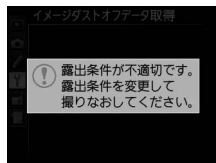
Ⓞボタン

- ［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選んでⓄボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、［イメージダストオフデータ取得］画面が表示されます。

- 表示パネルとファインダー内表示に右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

> **イメージセンサークリーニングについてのご注意**
> イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、Capture NX 2のイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（□375）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。

フリッカー低減

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー表示中（0 43）や動画撮影時（0 57）に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ［**オート**］をお使いください。［**オート**］にしていても、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では［**60 Hz**］を選んでください。

✔ フリッカー低減についてのご注意

- ［**オート**］に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 露出モードがM以外の場合、設定したシャッタースピードが必ずしも反映されないため、フリッカー低減できるシャッタースピードに設定しても、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、露出モードをMに設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
  - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
  - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

地域と日時

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（□25）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、［**年/月/日**］、［**月/日/年**］、［**日/月/年**］から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

- 日時が設定されていない場合、表示パネルに時刻未設定マークCLOCKが点滅して警告します。

言語（Language）

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を、日本語または英語に設定します。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	液晶モニターや付属のViewNX 2、別売のCapture NX 2（□395）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3 種類です。 横位置 縦位置 時計回りに 90°回転 縦位置 反時計回りに 90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

再生メニュー［縦位置自動回転］

再生メニューの［**縦位置自動回転**］（□260）では、［**縦横位置情報の記録**］を［**する**］に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

電池チェック

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。

残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時に、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18が入っている場合に、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと［CAL］が表示されます。 • ［CAL］が表示されているときは、キャリブレーションすることをおすすめします。 • [--] が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5 段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（ ）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1 ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12を装着している場合、MB-D12 に入れたバッテリーがLi-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15のときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。バッテリーがEN-EL18の場合、キャリブレーション情報が追加され、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。単3 形電池を使用している場合は、残容量にバッテリー残量表示のアイコンが表示され、その他の項目は表示されません。

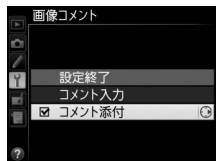
画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2（□395）のメタデータで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□166）。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んでⓄボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。

画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます（□224）。

著作権情報

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、付属のViewNX 2や別売のCapture NX 2（□395）のメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。［**撮影者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと名前の入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□166）。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、［**著作権情報添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。［**設定終了**］を選んで㊉ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。

✔ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます（□224）。

カメラ設定の保存と読み込み　MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD800を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを2枚使用している場合、撮影メニューの［**主スロットの選択**］（□88）で選んだ主スロットのカードが対象になります。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
撮影メニュー（A～D全メニュー）	撮影メニューの管理
	拡張撮影メニューの設定
	ファイル名設定
	主スロットの選択
	副スロットの機能
	画質モード
	画像サイズ
	撮像範囲
	JPEG圧縮
	RAW記録
	ホワイトバランス（微調整値、プリセットマニュアルデータ）
	ピクチャーコントロール
	色空間
	アクティブD-ライティング
	ヴィネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ISO感度設定
	動画の設定
カスタムメニュー（A～D全メニュー）	全メニュー

セットアップメニュー	イメージセンサークリーニング
	HDMI
	フリッカー低減
	地域と日時（日時の設定を除く）
	言語（Language）
	縦横位置情報の記録
	画像コメント
	著作権情報
	GPS
	レンズ情報手動設定
	Eye-Fi送信機能
マイメニュー / 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■ 保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■ 読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、［**読み込み**］は選べません。

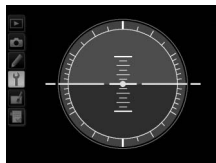
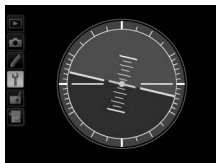
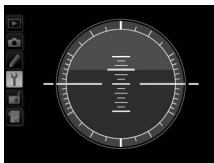
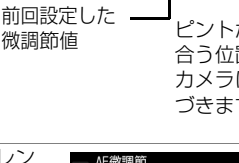
☑ 設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUP8」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

水準器表示

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向（水平方向）とピッチング方向（前後方向）の水準器を表示します。

- カメラが水平や垂直になると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は基準線が緑色に変わり、中央に●が表示されます。
- 水準器の1目盛は、5°を表します。

カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合

カメラがローリング方向に傾いている場合

カメラがピッチング方向に傾いている場合

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

- ファインダーに水準器インジケーターを表示する → f4［**Fnボタンの機能**］（□307、309）
- 静止画ライブビュー、動画ライブビュー時に水準器を表示する →「静止画ライブビュー時の表示切り換え」（□51）、「動画ライブビュー時の表示切り換え」（□62）

AF微調節

MENUボタン ➜ セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

<table>
<tr><td rowspan="2">AF微調節
（する/しない）</td><td>する</td><td>AF微調節の設定が有効になります。</td></tr>
<tr><td>しない</td><td>AF微調節を行いません。</td></tr>
<tr><td>個別レンズの登録</td><td colspan="2">装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの▲または▼を押して、＋20～－20の範囲で調節できます。最大20種類のレンズを登録できます。
• 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。</td></tr>
<tr><td>その他レンズの登録</td><td colspan="2">［個別レンズの登録］で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。▲または▼を押して、＋20～－20の範囲で調節できます。</td></tr>
<tr><td>個別レンズ登録リスト</td><td colspan="2">［個別レンズの登録］で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで▶を押すと、右の画面が表示されます。
• ［識別番号入力］画面では、レンズの識別番号を変更できます。▲または▼を押して識別番号を選んで、㊙ボタンを押します。［個別レンズの登録］は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくと、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。</td></tr>
</table>

AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、［**AF微調節**］で設定した微調節値は適用されません。

個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

登録したレンズを削除するには

［**個別レンズの登録**］で登録したレンズを削除するには、［個別レンズ登録リスト］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑（FORMAT）ボタンを押します。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン ➜ Y セットアップメニュー

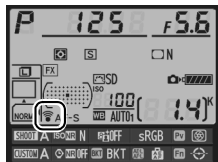
このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、［**有効**］に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を［**無効**］にしてください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- ：［**Eye-Fi送信機能**］が［**無効**］に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像がありません。
- ：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
  - 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で CArd が点滅している場合は、□429をご覧ください。
  - CArdが点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi 送信機能の設定を変更できないことがあります。

使用できるEye-Fiカードについて

このカメラでは、次のEye-Fiカードをお使いいただけます（2011年9月現在）。販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

- Eye-Fi Pro X2 SDHC 8GB

アドホックモード対応のEye-fiカードについて

Eye-Fi Pro X2 SDHC 8GBなど、アドホックモードに対応しているEye-fiカードを使う場合は、通信の手続きに時間がかかることがあるため、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］を30秒以上に設定してください。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラにはEye-Fiカードの通信機能をON/OFFする機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fiカードは、ご購入された国でのみ使用が認められています（2011年9月現在）。使用する国の法律に従ってお使いください。

Eye-Fi送信機能が無効のときの警告表示について

［**無効**］に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。液晶モニターに警告表示（□429）が表示された場合は、カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

ファームウェアバージョン

MENUボタン ➔ Ｙ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。

画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
D-ライティング	344
赤目補正	345
トリミング	346
モノトーン	347
フィルター効果	347
カラーカスタマイズ	349
画像合成※1	350
RAW現像	353
リサイズ	355
簡単レタッチ	357
傾き補正	358
ゆがみ補正	359
魚眼効果	360
塗り絵	360
カラースケッチ	361
アオリ効果	362
ミニチュア効果	363
セレクトカラー	364
動画編集	72
編集前後の画像表示※2	366

※1 MENUボタンを押して、タブのアイコンを選んだときのみ表示されます。

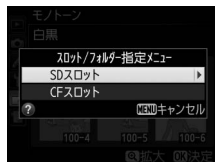
※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示してⓄボタンを押したときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選び、▶を押します。

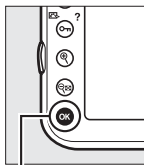
2 画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (217)。

- 画像を選んでボタンを押すと、編集画面が表示されます。

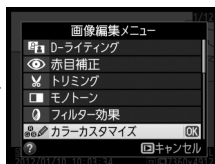
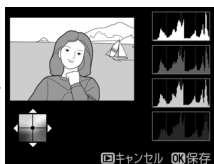
3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENUボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には が付きます。

ボタン

1コマ表示モードで選んだ画像を編集する

1コマ表示モード（□215）で静止画を選んでから®ボタンを押すと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

静止画を選んで®ボタンを押す　メニュー項目を選び、®ボタンを押す　選んだ画像を編集する

画像編集についてのご注意

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時記録した場合（□84）、JPEG画像が画像編集の対象になります（[**画像合成**]と[**RAW現像**]を除く）。
- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc4[**液晶モニターのパワーオフ時間**]（□285）の[**メニュー表示**]の時間を長く設定することをおすすめします。

繰り返し画像編集する場合のご注意

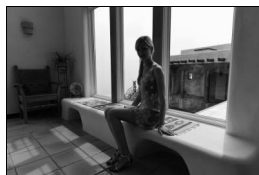
- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（[**画像合成**]、[**動画編集**]の[**始点/終点の設定**]を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

画質モードと画像サイズについて

［**D-ライティング**］、［**赤目補正**］、［**モノトーン**］、［**フィルター効果**］、［**カラーカスタマイズ**］、［**簡単レタッチ**］、［**傾き補正**］、［**ゆがみ補正**］、［**魚眼効果**］、［**塗り絵**］、［**カラースケッチ**］、［**アオリ効果**］、［**ミニチュア効果**］、［**セレクトカラー**］で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録します。ただし、元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE**］、［**画像サイズ**］が［**サイズL**］のJPEG 画像を作成します。TIFF（RGB）で撮影された画像の場合、画質モードは［**FINE**］になりますが、元画像と同じ画像サイズで記録します。また、どの画質モードで撮影した画像も、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。

D-ライティング

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの▲または▼を押して、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］の3段階から選びます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ㊇ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、次の操作ができます。

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	⊕	⊕ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。	拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が表示され、拡大部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、もう一度操作すると表示されます。
拡大率を下げる	⊖	プレビュー画像の拡大再生中は、⊖ボタンを押すごとに、プレビュー画像の拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）する	マルチセレクター	プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールして、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
拡大表示を終了する	OK	拡大表示中にOKボタンを押すと、拡大表示を終了します。	
画像を保存する	OK	補正した画像が記録されます。	

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン → 画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広くなります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を3：2、4：3、5：4、1：1、16：9に変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード（□83）は、元画像の画質モードが RAW を含む画質モードや［**TIFF（RGB）**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミング時の拡大率とアスペクト比により変わります。

モノトーン

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

［**モノトーン**］を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

濃くする

薄くする

- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

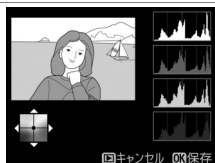
スカイライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。	編集画面では、プレビュー画像を表示します。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	

赤強調	赤色が強調されます。	マルチセレクターで強調の度合い（色の濃さ）を調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。
緑強調	緑色が強調されます。	
青強調	青色が強調されます。	
クロス スクリーン	クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光のすじが伸びる効果があります。 • ［**光線の本数**］：光線の本数を、3種類から選べます。 • ［**クロスの量**］：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。 • ［**光線の傾き**］：光線の傾きを3段階から選べます。 • ［**光線の長さ**］：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	［**確認**］を選んでOKボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。拡大ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は［**保存**］を選んでOKボタンを押してください。
ソフト	ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気に仕上げます。	▲または▼を押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。

• OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

カラーカスタマイズ

画像全体の色調を調整できます。

右のような画面が表示され、マルチセレクターで画像全体の色調を調整できます。▲▼◀ ▶を押すたびに、画面全体の色調が次のように変わります。

色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：0222）に反映されます。

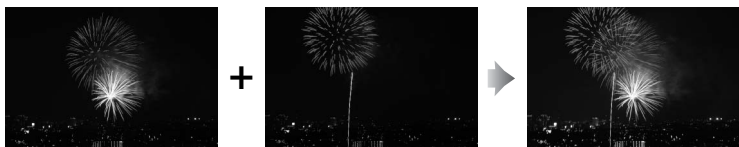
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

プレビュー画像の拡大表示について

調整画面でボタンを押すと、プレビュー画像を拡大表示し、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。拡大表示中にO-n（/?）ボタンを押すと、色調の調整と拡大表示の操作を切り換えられます。拡大表示中にマルチセレクターを操作して画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。ボタンを押すと画像を縮小表示します。

画像合成

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

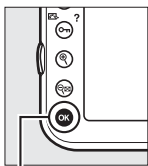
メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。

1 **画像編集メニュー画面で［画像合成］を選ぶ**

- ［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示され、［**画像1**］欄がハイライト表示されます。

2 **合成する画像の1 コマ目を選ぶ**

- Ⓚボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（217）。

3 **1コマ目の画像を決定する**

- Ⓚボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。

Ⓚボタン

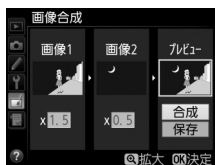
4 2コマ目の画像を選ぶ

- ▶を押して［**画像2**］を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。

5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に［**画像1**］と［**画像2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像1**］または［**画像2**］を選んでから▲または▼を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1 ～ 2.0 の範囲で、0.1 ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

6 プレビュー欄に移動する

- ◀または▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んで㊊ボタンを押してください。

7 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、㊊ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。

8 合成画像を保存する

- もう一度Ⓚボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。

☑ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード（□83）と画像サイズ（□86）は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- ［**撮像範囲**］と［**記録ビットモード**］が同じRAW画像のみ合成できます。
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEGの場合、［**JPEG圧縮**］は［**サイズ優先**］になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

RAWを含む画質モード（□83）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で［RAW現像］を選ぶ

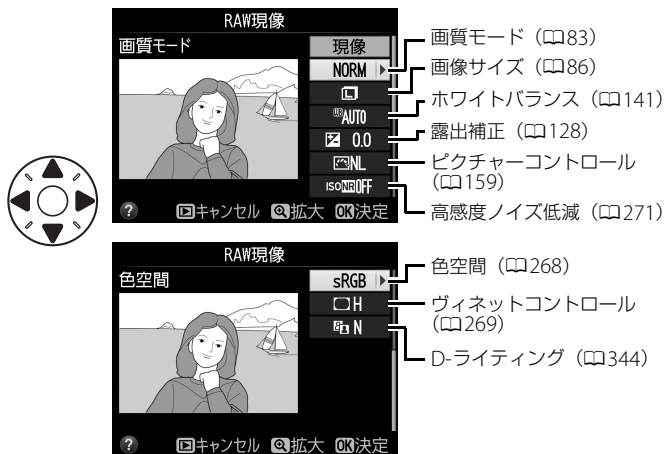
- ［**RAW現像**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセレクターでRAW現像する画像を選んでⓄボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□217）。

3 表示されている項目をそれぞれ設定する

4 RAW現像する

Ⓞボタン

- ［**現像**］を選んでⓄボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENUボタンを押してください。

☑ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- ［**ホワイトバランス**］で［**AUTO**］を選んだ場合、撮影時の［**AUTO**］の設定（［**AUTO1 標準**］もしくは［**AUTO2 電球色を残す**］のいずれか）になります（□141）。
- 多重露出撮影した画像や［**画像合成**］で編集した画像の場合、［**ホワイトバランス**］と［**ヴィネットコントロール**］は選べません。
- ［**露出補正**］で設定できる明るさ（－2～＋2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。
- RAW現像の［**ピクチャーコントロール**］では、調整時のグリッド表示はできません（□163）。

リサイズ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。メモリーカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

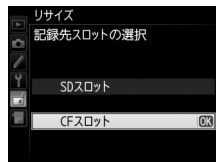
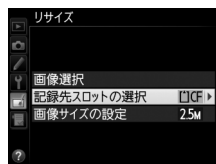
MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

1 画像編集メニュー画面で［リサイズ］を選ぶ

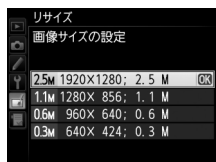
- ［**リサイズ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

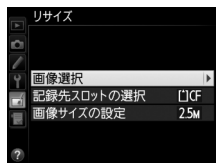
2 記録先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、［**記録先スロットの選択**］を選んで▶を押します。

- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、［**記録先スロットの選択**］を選べません。手順3に進んでください。
- ▲または▼でスロットを選び、Ⓞボタンを押します。

3 画像サイズを設定する

- ［**画像サイズの設定**］を選んで▶を押します。

- ▲または▼で画像サイズを選び、㊍ボタンを押します。

4 ［画像選択］を選ぶ

- ［**画像選択**］を選んで▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

5 リサイズしたい画像を選ぶ

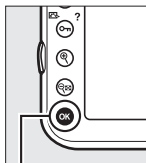
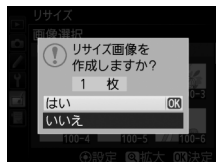
- マルチセレクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
- ㊂ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- ㊀ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（□217）。

6 設定する

- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して設定します。設定すると㊃が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、㊃が消えます。

- リサイズする画像全てに設定したら、㊍ボタンを押します。

7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で［**はい**］を選択し、Ⓚボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。

リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード（□83）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードや［**TIFF（RGB）**］のときは［**FINE**］になり、［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］のときは元画像と同じ画質モードになります。
- 撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］（□78）を［**5:4 (30 × 24)**］にして撮影した画像は、リサイズできません。

簡単レタッチ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

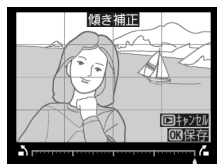
コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの▲または▼を押すと、効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］から選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- Ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

傾き補正

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

傾きを補正する	◀ ▶	マルチセレクターの▶を押すと時計回りに傾き、◀を押すと反時計回りに傾きます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
傾き補正を実行して画像を保存する	OK	傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。［**オート**］を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。［**マニュアル**］を選ぶと自分でゆがみを補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- ［**オート**］は、G タイプ・D タイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- ［**自動ゆがみ補正**］（□270）を行った画像の場合、［**マニュアル**］のみ選べます。

ゆがみを補正する	マルチセレクター	• たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクターの▶を押します。 • 糸巻き型のゆがみを補正するには、◀を押します。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する	OK	ゆがみ補正した画像が記録されます。

✔ ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を［**DX（24×16）1.5×**］以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

魚眼効果

MENUボタン ➜ ✍ 画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

魚眼効果を調節する	◀▶	マルチセレクターの▶を押すほど、魚眼効果は大きくなり、◀を押すほど小さくなります。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
魚眼効果を実行して画像を保存する	OK	魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

MENUボタン ➜ ✍ 画像編集メニュー

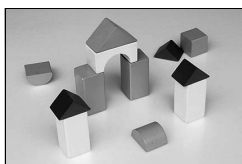
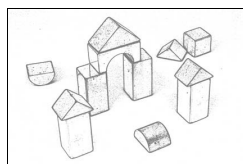
輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

塗り絵処理前

塗り絵処理後

カラースケッチ

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

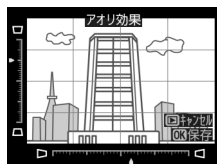
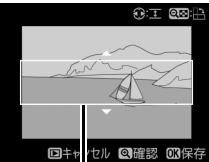
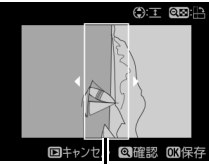
- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。

色の濃さを変える	マルチセレクター	マルチセレクターの▲または▼で［**色の濃さ**］を選んだ後、▶を押すと色が濃くなり、◀を押すと薄くなります。
線の濃さを変える	マルチセレクター	▲または▼で［**線の濃さ**］を選んだ後、▶を押すと線が濃くなり、◀を押すと薄くなります。［**線の濃さ**］を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに画像の再生に戻ります。
カラースケッチ画像を保存する	OK	カラースケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

アオリ効果を調節する	▲▼◀▶	マルチセレクターの▲▼◀▶でアオリの効果を変更できます。
キャンセルする	▶	編集中の画像を保存せずに、画像の再生に戻ります。
アオリ効果を実行して画像を保存する	OK	アオリ効果の画像が記録されます。

アオリ効果処理前

アオリ効果処理後

ミニチュア効果

MENUボタン ➜ 画像編集メニュー

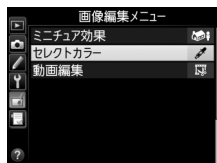
ミニチュア(模型)を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

効果をかける方向を変える	(ズームアウトボタン)	(ズームアウトボタン)ボタンを押すと、効果をかける方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める	(マルチセレクター▲▼)	横位置で撮影した画像の場合、マルチセレクターの▲または▼を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
	(マルチセレクター◀▶)	縦位置で撮影した画像(□329)の場合、◀または▶を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。 ぼかさない範囲
効果をかける幅を変える	(マルチセレクター◀▶)	横位置で撮影した画像の場合、◀または▶で効果をかける幅の広さを選びます。
	(マルチセレクター▲▼)	縦位置で撮影した画像の場合、▲または▼で効果をかける幅の広さを選びます。
プレビューを表示する	(ズームインボタン)	プレビューが表示され、効果を確認できます。
キャンセルする	(再生ボタン)	編集中の画像を保存せずに、1コマ表示モードに戻ります。
ミニチュア効果を実行して画像を保存する	OK	ミニチュア効果の画像が記録されます。

セレクトカラー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン（白黒）に加工します。

1 画像編集メニュー画面で［セレクトカラー］を選ぶ

- ［**セレクトカラー**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

2 加工する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、OKボタンを押します。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ボタンを押すと、［スロット/フォルダー指定メニュー］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます（217）。

3 残したい色を抽出する

- マルチセレクターを操作して、色取得の枠を画像上の残したい色に重ねます。
- ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。ボタンを押すと縮小表示します。

- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- **中央**ボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

4 色の感度の枠を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。

5 抽出する色の感度を設定する

- ▲または▼を押して、抽出する色の感度を［**1**］～［**7**］から設定します。数値が大きいほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。

6 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3～5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、🗑（FORMAT）ボタンを押し続けます。確認画面で［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、全ての色をリセットします。

7 決定する

- ⓄⓀボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。

ⓄⓀボタン

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して㊿ボタンを押したときのみ表示されます。

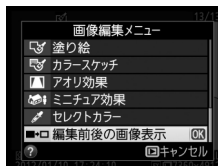
■ 編集前後の画像表示方法

1 **1コマ表示モードで画像を選ぶ**

- 画像編集で作成した画像（✍が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。
- 画像を選んで㊿ボタンを押すと、画像編集メニュー項目を表示します。

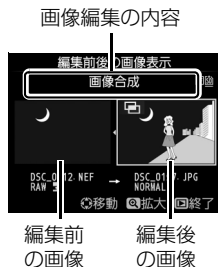
㊿ボタン

2 **［編集前後の画像表示］を選ぶ**

- ［**編集前後の画像表示**］を選んで㊿ボタンを押すと、［編集前後の画像表示］画面を表示します。

3 編集前と編集後の画像を比較する

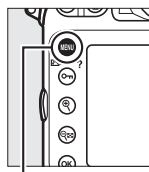
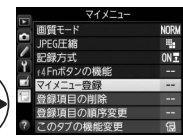
- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀または▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。

- 画像合成の元画像の場合、▲または▼で2枚の元画像を切り換えられます。

- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲または▼で編集後の画像を切り換えられます。
- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- Ⓚボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

☑ 編集前後の画像表示についてのご注意

- 次の画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
  - プロテクト（□229）が設定されている画像
  - 書き込み禁止スイッチがロックされているSDカード（□32）内の画像
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定（□254）にした場合、編集前の画像は表示されません。

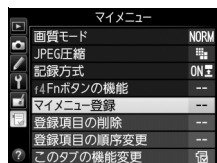
マイメニュー / 最近設定した項目

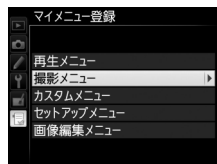
MENUボタンを押して、タブの アイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。

マイメニュー：よく使うメニューを登録する

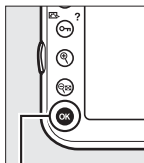
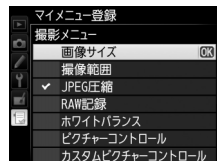
再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

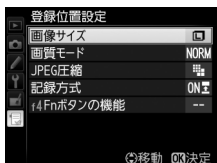
■ マイメニューを登録する

1 [マイメニュー] 画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

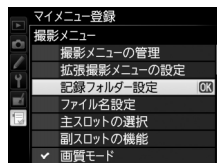
- [**マイメニュー登録**] を選んで、マルチセレクターの▶を押します。

2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。

3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んでⓀボタンを押します。

4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ▲または▼で登録する項目の表示位置を選んで、Ⓚボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

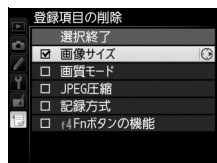
- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に⧄が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。

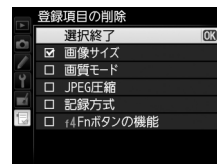
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を全て登録します。

▮ 登録した項目を削除する

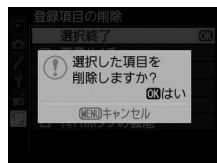
1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の削除］を選ぶ

- ［**登録項目の削除**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目の左側のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。

3 ［選択終了］を選ぶ

- ［**選択終了**］を選んで㊉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

4 選んだ項目を削除する

- ㊉ボタンを押すと、選択した項目が削除されます。

> **ボタン操作で登録した項目を削除するには**
> ［マイメニュー］画面で削除したい項目を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

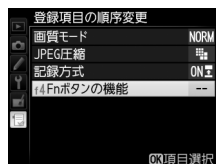
登録した項目の表示順序を変える

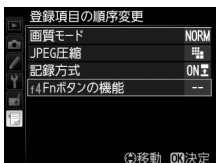
1 ［マイメニュー］画面で［登録項目の順序変更］を選ぶ

- ［**登録項目の順序変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

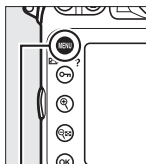
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、Ⓞボタンを押します。

Ⓞボタン

3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

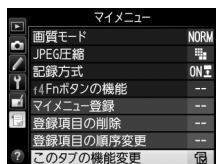
- ▲または▼で移動したい位置を選んで、Ⓞボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。

- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。

4 ［マイメニュー］画面に戻る

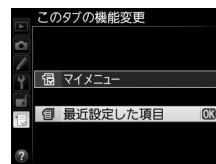
MENUボタンを押すと、［マイメニュー］画面に戻ります。

MENUボタン

■ マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

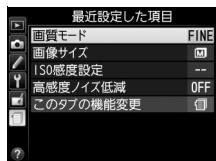
1 **［マイメニュー］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ**

- ［**このタブの機能変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 **［最近設定した項目］を選ぶ**

- ［このタブの機能変更］画面で［**最近設定した項目**］を選んで、OKボタンを押します。
- マイメニューが「最近設定した項目」に切り替わります。

OKボタン

最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。

最近設定した項目を削除するには

［最近設定した項目］画面で削除したい項目を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選択した項目を削除します。

「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の［**このタブの機能変更**］を選択すると、🕮372の手順2と同じ画面が表示されます。［**マイメニュー**］を選んで㊋ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

資 料

このカメラで使えるアクセサリーやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ・Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

モード／レンズ		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		AF（オートフォーカス）	フォーカスエイド	M（マニュアルフォーカス）	P S	A M	マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
							3D-RGB	RGB	
CPUレンズ※1	Gタイプレンズ※2、Dタイプレンズ※2、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	PC-E NIKKORシリーズ	×	○※5	○	○※5	○※5	○※5	×	○※3、5
	PCマイクロ 85mm F2.8D※4	×	○※5	○	×	○※6	○	×	○※3、5
	AF-S/AF-Iテレコンバーター※7	○	○	○	○	○	○	×	○※3
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※9	○※9	○	○	○	×	○	○※3
	AI-Pニッコール	×	○※10	○	○	○	×	○	○※3

非CPUレンズなど※11	AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※12	×	○※10	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※16	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※13	×	×	○※15
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※17	×	×	○
	AI-S、AIテレコンバーター※18	×	○※8	○	×	○※13	×	○※14	○※15
	ベローズアタッチメントPB-6 ※19	×	○※8	○	×	○※20	×	×	○
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※8	○	×	○※13	×	×	○

※1　IXレンズは装着できません。

※2　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。

※3　フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（□113）。

※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。

※5　アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※6　露出モードはMで使用可能。

※7　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です（□378）。オートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイントについては、□378をご覧ください。

※8　合成絞り値がF5.6 以上明るい場合に使用可能。

※9　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※10 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

※11 一部装着不可能なレンズ（□379）があります。

※12 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

※13 レンズ情報手動設定（□209）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内表示に絞り値が表示されます。

※14 レンズ情報手動設定（□209）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。

※15　レンズ情報手動設定（🕮209）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。

※16　露出モードがMでフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。

※17　絞り込み測光で使用します。露出モードがAの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードがMの場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。

※18　AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。

※19　オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。

※20　絞り込み測光で使用可能、露出モードがAの場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
- このカメラにAF-S Zoom Nikkor 24-85mm F3.5-4.5G（IF）レンズを装着して静止画撮影を行う場合、ISO 6400以上の高感度で横すじノイズが発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

CPUレンズ、Gタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

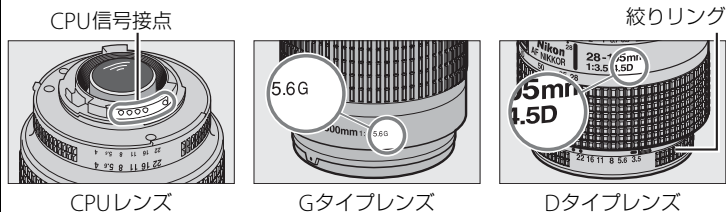
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。G タイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

CPUレンズ

Gタイプレンズ

絞りリング

Dタイプレンズ

PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDについて

このカメラにPC-E NIKKOR 24mm f/3.5D EDを取り付けた場合、アオリ操作をすると、レンズとカメラボディーが接触してキズが付いたり、ケガをする可能性があります。充分ご注意の上、お使いください。

AF-S/AF-Iテレコンバーターについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターは、AF-SレンズとAF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用できるレンズは、次の通りです。

- AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II
- AF-S VR ED 70–200mm f/2.8G
- AF-S ED 80–200mm f/2.8D
- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED ※1
- AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
- AF-S VR ED 200mm f/2G
- AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II ※2
- AF-S VR ED 200–400mm f/4G ※2
- AF-S NIKKOR 300mm f/2.8G ED VR II
- AF-S VR ED 300mm f/2.8G
- AF-S ED 300mm f/2.8D II
- AF-S ED 300mm f/2.8D
- AF-I ED 300mm f/2.8D
- AF-S ED 300mm f/4D ※2
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S ED 400mm f/2.8D II
- AF-S ED 400mm f/2.8D
- AF-I ED 400mm f/2.8D
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR※2
- AF-S ED 500mm f/4D II ※2
- AF-S ED 500mm f/4D ※2
- AF-I ED 500mm f/4D ※2
- AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR※2
- AF-S ED 600mm f/4D II ※2
- AF-S ED 600mm f/4D ※2
- AF-I ED 600mm f/4D ※2

※1 オートフォーカス撮影はできません。

※2 開放F値がF4のレンズにAF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II/TC-20E IIIを装着して撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

TC-17E II	TC-20E II/TC-20E III

TC-20E II/TC-20E IIIとの組み合わせでは、中央のフォーカスポイント以外はラインセンサーによってピント情報を取得します。また、AFエリアモード（□91）が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合、シングルポイントAFに変更されます。

非CPUレンズを使用する場合は

非CPUレンズは、露出モードがA、Mのときのみ使用できます。非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］（□209）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。

また、絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11 （製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 内蔵フラッシュには、24mm（DXフォーマット時16mm）から300mmまでのCPUレンズが使用できます。
  - ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
  - 撮影距離0.6m未満では使用できません。
  - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
  - 次のAFレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。

	レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
DX	AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED	● 焦点距離18mm以上は制約なし
DX	AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED	● 焦点距離20mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離24mm以上は制約なし
FX	AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR	● 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上
FX	AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離35mmでは制約なし
FX	AF Zoom-Nikkor 18–35mm f/3.5–4.5D IF-ED	● 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離28mm以上は制約なし
FX	AF Zoom-Nikkor 20–35mm f/2.8D IF	● 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離28mm以上は制約なし
FX	AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	● 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離50mm以上は制約なし
FX	AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	● 焦点距離24mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離28mm以上は制約なし
FX	AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR	● 焦点距離28mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離35mm以上は制約なし
FX	AF-S Zoom-Nikkor 28–70mm f/2.8D IF-ED	● 焦点距離35mmでは撮影距離1.5m以上 ● 焦点距離50mm以上は制約なし
FX	AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	● 焦点距離35mmでは撮影距離1m以上 ● 焦点距離50mm以上は制約なし
FX	PC-E NIKKOR 24mm f/3.5 ED	● アオリ操作をしていない状態で撮影距離1.5m以上

  - AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED使用時は、全ての撮影距離でケラレが発生します。

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、24mmから300mm までのニッコール（AI-S、AI、改造AI)、ニコンレンズシリーズEです。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI 50–300mm f/4.5 AI改 50–300mm f/4.5 AI-S ED 50–300mm f/4.5	焦点距離180mm 以上は制限なし
AI ED 50–300mm f/4.5	焦点距離135mm 以上は制限なし

赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

AF補助光撮影に制限のあるレンズについてのご注意

AF補助光を使用できるレンズの焦点距離は24～200mmです。このうち、AF補助光撮影に制限のあるレンズは次の通りです。

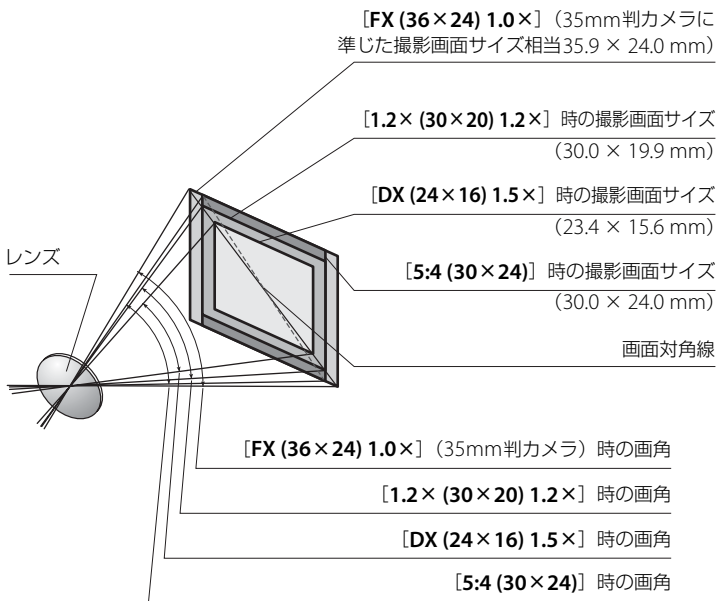
AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ
AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II
AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED
AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ	
AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR	0.7m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AI AF-S Zoom-Nikkor 17–35mm f/2.8D IF-ED	
AF-S DX Zoom-Nikkor 17–55mm f/2.8G IF-ED	
AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II	
AF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8G ED	
AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED	
AI AF-S Zoom Nikkor ED 28–70mm f/2.8D（IF）	
AI AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED	
AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR	1.1m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR	
AF-S DX Zoom-Nikkor 55–200mm f/4–5.6G ED	
AF-S NIKKOR 14–24mm f/2.8G ED	1.5m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。
AF-S VR Zoom-Nikkor ED 70–200mm f/2.8G（IF）	
AF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8G ED VR II	
AF Zoom-Nikkor 70–300mm f/4–5.6G	
AI AF Zoom-Nikkor 80–200mm f/2.8D ED	
AI AF-S Zoom Nikkor ED 80–200mm f/2.8D(IF)	
AI AF VR Zoom-Nikkor 80–400mm f/4.5–5.6D ED	2.3m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

レンズの画角と焦点距離について

D800では、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。［**DX自動切り換え**］（□77）を［**する**］に設定している場合、35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）の［**FX (36×24) 1.0×**］で撮影できます。DXレンズを装着すると、カメラが判別して自動的に［**DX (24×16) 1.5×**］に切り換えます。

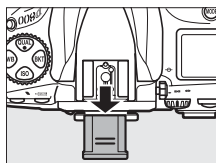
［**DX自動切り換え**］の設定を変えて、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、［**DX (24×16) 1.5×**］や［**1.2× (30×20) 1.2×**］に設定して画角を狭くしたり、［**5:4 (30×24)**］に設定してアスペクト比（縦横比）の異なる画像を撮影することもできます。

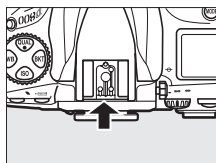
このため、［**撮像範囲**］の設定によっては、同じレンズで撮影しても、画角と画面サイズが異なることにご注意ください。

35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで［**DX (24×16) 1.5×**］のときの約1.5倍、［**1.2× (30×20) 1.2×**］のときの約1.2倍、［**5:4 (30×24)**］のときの約1.1倍です。したがって、D800に35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、［**DX (24×16) 1.5×**］のときが約1.5倍、［**1.2× (30×20) 1.2×**］のときが約1.2倍、［**5:4 (30×24)**］のときが約1.1倍に相当します。
たとえば、焦点距離50 mmのレンズを装着したときは、［**DX (24×16) 1.5×**］では約75 mm、［**1.2× (30×20) 1.2×**］では約60 mm、［**5:4 (30×24)**］では約55 mmの焦点距離に相当する画角になります。

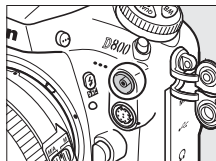
使用できるスピードライト（別売フラッシュ）

このカメラは、ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで、さまざまな機能が利用できます。
なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

別売スピードライトをカメラに装着するには

1　アクセサリーシューカバーを取り外す

2　別売のスピードライトをアクセサリーシューに取り付ける

- セーフティーロックピン付きのスピードライトを取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。
- スピードライトの取り付け方は、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリーシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト

SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400、SB-R200の主な仕様

	ガイドナンバー（ISO 100・m/ISO 200・m、20℃）
SB-910※1	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-900※1	34/48（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-800	38/53（照射角35mm時）
SB-700※1	28/39（照射角35mm、スタンダード配光時）
SB-600	30/42（照射角35mm時）
SB-400※2	21/30
SB-R200※3	10/14

※1 カメラのホワイトバランスを AUTO（オート）または ⚡（フラッシュ）に設定し、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 ワイヤレス機能はありません。

※3 リモート発光用スピードライト SB-R200 を使用するには、内蔵フラッシュをコマンダーモードに設定するか、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。

SU-800

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応カメラに装着すると、ワイヤレスでSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて制御できます。SU-800には発光機能はありません。

SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400、SB-R200 を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用				アドバンストワイヤレスライティング					
							主灯として使用			補助灯として使用		
スピードライト			SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-400	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SU-800※1	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700 SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※2	○※2	○※2	○※2	○	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※3	○	○※3	○	—	—	—	—	—	—
	AA	絞り連動外部自動調光	○※4	—	—	—	○※5	—	○※5	○※5	—	—
	A	外部自動調光	○※4	—	—	—	○※5	—	—	○※5	—	—
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○※6	○	○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
機能		オートFPハイスピードシンクロ※7	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアAF補助光※8	○	○	○	—	○	○	○	—	—	—
		発光色温度情報伝達	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	👁	赤目軽減発光	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
		オートパワーズーム	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—

※1 SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。
※2 スポット測光時は設定できません。
※3 スピードライト側でも設定できます。
※4 **AA**モードと**A**モードの選択は、SB-910、SB-900、SB-800のカスタム設定で行います。
※5 SB-910、SB-900、SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的に**AA**モードになります。
※6 カメラ側で設定できます。
※7 カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］（□294）を［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定してください。
※8 非CPUレンズ装着時は機能しません。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。SB-800はガイドナンバーが38（照射角35mm、ISO感度100、20℃）なので、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、38 ÷ 5.6 = 約6.8mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍（$\sqrt{2}$倍）になります。たとえば、このカメラでISO感度200でSB-800を使用すると、絞り値がF5.6なら38 ÷ 5.6 × 1.4 = 約9.5mまで光が届きます。

AAモードとAモード

AAモード設定時でも、非CPUレンズを装着し、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない場合は、自動的に**A**モードになります。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX/ SB-28DX	SB-50DX	SB-28/ SB-26/ SB-25/ SB-24	SB-30/ SB-27※1/ SB-22S/ SB-22/ SB-20/ SB-16B/ SB-15	SB-23/ SB-29※2/ SB-21B※2/ SB-29S※2
区分	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	⚡⚡⚡	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR※3	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 SB-29・21B・29SでオートフォーカスができるレンズはAF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※3 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTL モード時のISO 感度連動範囲はISO 100～6400相当です。
- ISO感度を6400よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 露出モードが**P**の場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）						
100	**200**	**400**	**800**	**1600**	**3200**	**6400**
4	5	5.6	7.1	8	10	11

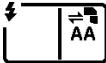
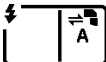
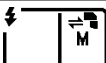
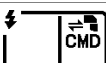
※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- スピードライトSB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。
- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

17～19mmの場合	20～105mmの場合	106～135mmの場合

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

24～34mmの場合	35～49mmの場合	50～105mmの場合

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。各焦点距離でオートフォーカス可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです。

24～27mmの場合	28～135mmの場合

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

インフォ画面のフラッシュモード表示について

インフォ画面のフラッシュモードでは、別売のスピードライト使用時の発光方式が、次のように表示されます。

	通常発光	FP発光（□295）
i-TTL-BL調光 スタンダードi-TTL調光	TTL	TTL FP
絞り連動外部自動調光（AA）	AA	AA FP
外部自動調光（A）	A	A FP
距離優先マニュアル発光（GN）	GN	GN FP
マニュアル発光	M	M FP
リピーティング発光	RPT	—
アドバンストワイヤレスライティング	CMD	CMD FP

他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

<table>
<tr><td>電源</td><td>
• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15（□19、21）
ニコンデジタルカメラD800用のバッテリーです。
• バッテリーチャージャー MH-25（□19）
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15用のチャージャーです。
• マルチパワーバッテリーパックMB-D12
MB-D12には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセレクター、AF作動ボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D12用接点カバーを取り外して装着します。
※ MB-D12でEN-EL18を使用する場合は、別売のバッテリーチャージャー MH-26とバッテリー室カバー BL-5が必要です。
• パワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5b
ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
- このカメラは、カメラ本体と AC アダプターを接続するためにパワーコネクター EP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（□397）をご覧ください。
- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。
- マルチパワーバッテリーパック MB-D12 をカメラに装着して AC アダプターを使用する場合、EP-5B は、カメラではなくMB-D12に入れてください。なお、カメラとMB-D12の両方にEP-5Bを入れて使用しないでください。
※ 日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
</td></tr>
</table>

無線LAN アダプター (□239)	• **ワイヤレストランスミッター WT-4** - USBケーブルでカメラと接続することにより、カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。また、イーサネットケーブルを接続することにより有線でも通信できます。 - WT-4には、カメラ本体とは別に電源が必要です。別売のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eまたはACアダプター EH-6aをお使いください。 - WT-4をお使いいただく場合は、無線LANの知識および環境が必要です。 - WT-4に付属のソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。
ファインダー用 アクセサリー	• **接眼目当てDK-19** 接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。 • **接眼補助レンズDK-17C（脱落防止機能付き）** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－ 3、－ 2、0、＋1、＋2m^{-1}の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（－3～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。 • **マグニファイングアイピースDK-17M（脱落防止機能つき）** ファインダー接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 • **アイピースアダプター DK-18** このカメラにマグニファイヤーDG-2やアングルファインダーDR-3を取り付けるためのアダプターです。 • **アンティフォグ　ファインダーアイピースDK-14、DK-17A（脱落防止機能付き）** 寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアーなファインダー像を提供します。

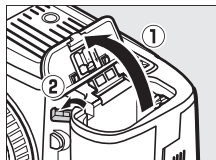
ファインダー用アクセサリー	• **変倍アングルファインダー DR-5** 変倍アングルファインダーDR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍※の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。 ※2倍では周辺部にケラレが生じます。 • **アングルファインダー DR-4** アングルファインダー DR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
フィルター	• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL Ⅱ）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
PCカードアダプター	• **PCカードアダプター EC-AD1** CFカード（Type I）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。CFカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。

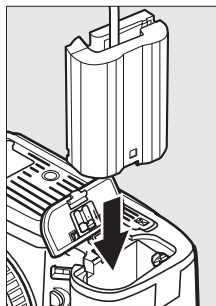
ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア	• **Capture NX 2** ※ 画像編集用ソフトウェアです。選択コントロールポイントや自動レタッチブラシなどさまざまな機能を備えています。 • **Camera Control Pro 2** ※ パソコンからカメラを操作して画像を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。 ※ 必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xix）でご確認ください。
ボディー キャップ	• **ボディーキャップBF-1B、BF-1A** レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
10ピン ターミナルに 接続する アクセサリー	10ピンターミナル（□3）に次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。 • **リモートコードMC-22**（長さ：約1 m） コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。 • **リモートコードMC-30**（長さ：約80 cm） カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。

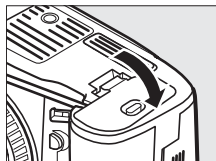
10ピンターミナルに接続するアクセサリー	• **リモートコードMC-36**（長さ：約85 cm） 一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。 • **延長コードMC-21**（長さ：約3 m） MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30、MC-36、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21を2本以上接続して使用することはできません）。 • **接続コードMC-23**（長さ：約40 cm） 10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。 • **変換コードMC-25**（長さ：約20 cm） 2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。 • **GPSユニットGP-1** 10ピンターミナルでカメラとGP-1を接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、協定世界時（UTC：🕮214）を画像データに記録することができます（🕮212）。 • **GPS変換コードMC-35**（長さ：約35 cm） カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです（🕮212）。 - データ形式がNMEA（National Marine Electronics Association）0183 ver.2.01 および ver.3.01 を満たす GPS 機器（お持ちのGARMIN社製:「eTrex」シリーズ、「geko」シリーズ）と接続できます。PC-Interface Cableが接続可能な機種のみ対応しています。USBインターフェース対応機種には接続できません。 - MC-35とGPS機器との接続には、GPSメーカーのPC接続ケーブル（D-sub9ピンタイプ）が必要です。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。 - GPS機器の通信形式は、NMEAに設定してください（Baud rateは4800です）。 - GPS 機器の使用方法については、GPS 機器の使用説明書をご覧ください。 • **ルミコントロールセットML-3** 最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。
外部マイク	• **ステレオマイクロホンME-1**（🕮61） ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中（🕮57）にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音が録音されるのを軽減できます。

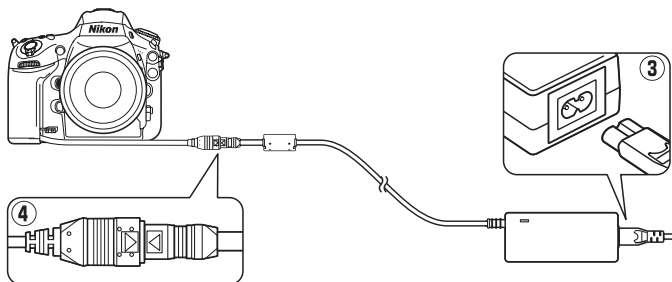
カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

カメラとパワーコネクター EP-5B、ACアダプター EH-5bを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室カバー（①）とパワーコネクターカバー（②）を開ける

2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。

3 カメラのバッテリー室カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。

4 パワーコネクターとACアダプターを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます（③）。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます（④）。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示が消えます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

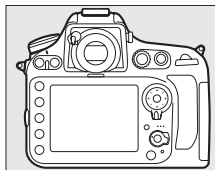
ローパスフィルターを自動で掃除する（イメージセンサークリーニング）

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

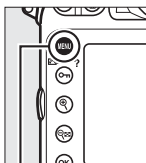
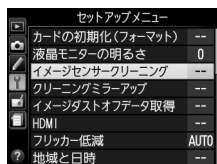
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

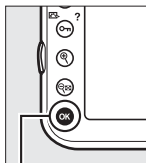
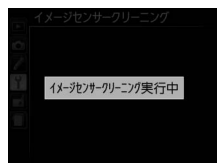
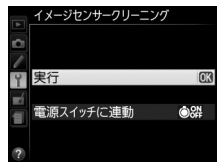
セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］から操作する

1 カメラを右図のように正位置に置く

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてイメージセンサークリーニングを行ってください。

2 セットアップメニューの［イメージセンサークリーニング］を選ぶ

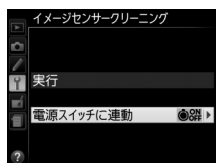
MENUボタン

- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選びます。マルチセレクターの▶を押すと、［イメージセンサークリーニング］画面が表示されます。

3 ［実行］を選ぶ

- ［**実行**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルにbuSYが点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- クリーニングには、約10秒かかります。buSYが表示されている間は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。

ⓄⓀボタン

■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

- ［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［電源スイッチに連動］画面が表示されます。

2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- ⓞボタンを押して設定します。

ⓞボタン

イメージセンサークリーニングについてのご注意
- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- カメラの電源ON時に内蔵フラッシュの充電が行われるときは、カメラの電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動する設定になっていても、イメージセンサークリーニングを行わないことがあります。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（□403）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

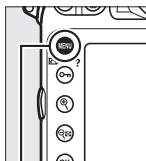
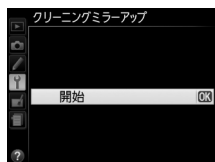
イメージセンサークリーニング（🕮400）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーEN-EL15、または別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bを組み合わせてお使いください。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

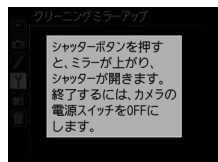
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

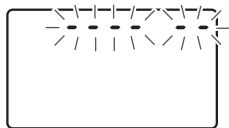
2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］※を選ぶ

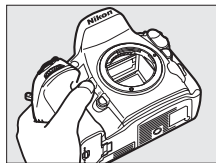
- MENUボタンを押して、セットアップメニューの［**クリーニングミラーアップ**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

MENUボタン

※バッテリー残量表示が▭以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

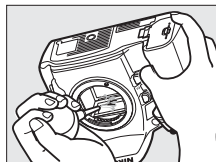
3 ⓞボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。

- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。

5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。

6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

ローパスフィルター上のゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造しています。しかし、このカメラはレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子前面のローパスフィルターに付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。ローパスフィルターに付着したゴミを、イメージセンサークリーニング（□400）で取り除きされないときは、403ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX 2（□395）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については 🕮400、403ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをお使いにならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
  - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
  - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
  - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
  - 必ず指定のバッテリーを使う。
  - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
  - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15 ～ 25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーEN-EL15をお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

初期設定一覧

再生、撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツーボタンリセット（🕮189）、撮影メニューのリセット（🕮264）、またはカスタムメニューのリセット（🕮275）を行うと、それぞれ別の項目の設定をリセットできます。ツーボタンリセットで初期設定に戻る項目については、「基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）」（🕮189）をご覧ください。

■ 再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
［**再生フォルダー設定**］（🕮254）	ND800
［**撮影直後の画像確認**］（🕮259）	しない
［**削除後の次再生画像**］（🕮260）	後ろのコマ
［**縦位置自動回転**］（🕮260）	する
［**スライドショー**］（🕮260）	
［**再生画像の種類**］（🕮260）	静止画と動画
［**インターバル設定**］（🕮260）	2 秒

■ 撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、撮影メニューの［**撮影メニューの管理**］で撮影メニューのリセットを行います（□263）。※1

撮影メニュー項目		初期設定
［**拡張撮影メニューの設定**］（□264）		しない
［**ファイル名設定**］（□267）		DSC
［**主スロットの選択**］（□88）		SDスロット
［**副スロットの機能**］（□88）		順次記録
［**画質モード**］（□83）		NORMAL
［**画像サイズ**］（□86）		サイズL
［**撮像範囲**］（□77）		
	［**DX自動切り換え**］（□77）	する
	［**撮像範囲設定**］（□78）	FX (36×24) 1.0×
［**JPEG圧縮**］（□85）		サイズ優先
［**RAW記録**］（□85）		
	［**記録方式**］（□85）	ロスレス圧縮RAW
	［**記録ビットモード**］（□85）	14ビット記録
［**ホワイトバランス**］（□141）		オート：標準
	微調整値（□144）	A-B: 0、G-M: 0
	色温度設定（□147）	5000K
	プリセットマニュアル（□150）	d-1
［**ピクチャーコントロール**］（□159）		スタンダード
［**色空間**］（□268）		sRGB
［**アクティブD-ライティング**］（□170）		しない
［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］（□172）		
	［**HDRモード**］（□173）	しない
	［**露出差**］（□174）	オート
	［**スムージング**］（□174）	標準
［**ヴィネットコントロール**］（□269）		標準
［**自動ゆがみ補正**］（□270）		しない
［**長秒時ノイズ低減**］（□271）		しない
［**高感度ノイズ低減**］（□271）		標準
［**ISO感度設定**］（□107）		
	［**ISO感度**］（□107）	100
	［**感度自動制御**］（□109）	しない

撮影メニュー項目		初期設定
［**多重露出**］（🕮192）※2		
	［**多重露出モード**］（🕮193）	しない
	［**コマ数**］（🕮193）	2
	［**自動ゲイン補正**］（🕮194）	する
［**インターバルタイマー撮影**］（🕮197）		設定解除※3
［**微速度撮影**］（🕮204）		設定解除※4
［**動画の設定**］（🕮67）		
	［**画像サイズ/フレームレート**］（🕮67）	1920× 1080 30fps
	［**動画の画質**］（🕮67）	高画質
	［**録音設定**］（🕮68）	マイク感度 オート
	［**動画記録先**］（🕮68）	SDスロット

※1 撮影メニューのリセットで初期設定に戻るのは、撮影メニューの［**撮影メニューの管理**］（🕮263）で選択されている撮影メニュー（「**A**」～「**D**」のいずれか）の内容だけです（［**拡張撮影メニューの設定**］、［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］、［**微速度撮影**］を除く）。

※2 撮影メニューのリセットを行うと、全ての撮影メニューで初期状態（しない、コマ数：2、自動ゲイン補正：する）にリセットされます。なお、多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで撮影メニューはリセットできません。

※3 撮影メニューのリセットを行うと、実行中のインターバル撮影は終了します。全ての撮影メニューで初期状態（開始トリガー：即時スタート、撮影間隔：1分、設定：1回×1コマ、撮影動作：終了）にリセットされます。

※4 撮影メニューのリセットを行うと、全ての撮影メニューで初期状態（撮影間隔：5秒、撮影時間：25分）にリセットされます。

カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの［**カスタムメニューの管理**］でカスタムメニューのリセットを行います（□274）。※

カスタムメニュー項目			初期設定
a1	［**AF-Cモード時の優先**］（□275）		レリーズ
a2	［**AF-Sモード時の優先**］（□276）		フォーカス
a3	［**AFロックオン**］（□276）		3（標準）
a4	［**半押しAFレンズ駆動**］（□277）		する
a5	［**フォーカスポイント照明**］（□277）		オート
a6	［**フォーカスポイント循環選択**］（□277）		しない
a7	［**AF点数切り換え**］（□278）		51点
a8	［**内蔵AF補助光の照射設定**］（□279）		する
b1	［**ISO感度設定ステップ幅**］（□280）		1/3 段
b2	［**露出設定ステップ幅**］（□280）		1/3 段
b3	［**露出・調光補正ステップ幅**］（□280）		1/3 段
b4	［**露出補正簡易設定**］（□281）		しない
b5	［**中央部重点測光範囲**］（□282）		φ 12 mm
b6	［**基準露出レベルの調節**］（□282）		
		［**マルチパターン測光**］	0
		［**中央部重点測光**］	0
		［**スポット測光**］	0
c1	［**半押しAEロック**］（□283）		しない
c2	［**半押しタイマー**］（□283）		6 秒
c3	［**セルフタイマー**］（□284）		
		［**時間**］	10秒
		［**撮影コマ数**］	1コマ
		［**連続撮影間隔**］	0.5秒
c4	［**液晶モニターのパワーオフ時間**］（□285）		
		［**画像の再生**］	10 秒
		［**メニュー表示**］	1 分
		［**インフォ画面表示**］	10 秒
		［**撮影直後の画像確認**］	4 秒
		［**ライブビュー表示**］	10 分

カスタムメニュー項目		初期設定
d1	［**電子音設定**］（□286）	
	［**音量**］	電子音なし
	［**音の高さ**］	高音
d2	［**低速連続撮影速度**］（□287）	2 コマ/秒
d3	［**連続撮影コマ数**］（□287）	100
d4	［**露出ディレーモード**］（□288）	しない
d5	［**連番モード**］（□288）	する
d6	［**格子線の表示**］（□289）	しない
d7	［**ISO感度表示と簡易設定**］（□289）	しない
d8	［**インフォ画面のガイド表示**］（□290）	ガイド表示する
d9	［**インフォ画面の表示設定**］（□290）	自動
d10	［**イルミネーター点灯**］（□291）	しない
d11	［**MB-D12電池設定**］（□291）	アルカリ単3形電池
d12	［**電池の使用順序**］（□292）	MB-D12から
e1	［**フラッシュ撮影同調速度**］（□294）	1/250 秒
e2	［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］（□296）	1/60 秒
e3	［**内蔵フラッシュ発光**］／［**外付けフラッシュ発光**］（□296）	TTLモード
e4	［**モデリング発光**］（□303）	する
e5	［**オートブラケティングのセット**］（□303）	AE・フラッシュ ブラケティング
e6	［**BKT変化要素（Mモード）**］（□304）	フラッシュ・ シャッタースピード
e7	［**BKTの順序**］（□305）	［0］→［−］→［+］
f1	［**☀スイッチの機能**］（□305）	☀の点灯/消灯
f2	［**中央ボタンの機能**］（□305）	
	［**撮影モード**］	フォーカスポイント 中央リセット
	［**再生モード**］	1コマとサムネイルの 切り換え
	［**ライブビュー**］	フォーカスポイント 中央リセット
f3	［**マルチセレクターの半押し起動**］（□306）	しない
f4	［**Fnボタンの機能**］（□307）	
	［**Fnボタン押し時の動作**］（□307）	ファインダー内水準器
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］（□310）	設定しない

カスタムメニュー項目		初期設定
f5	［**プレビューボタンの機能**］（□311）	
	［**プレビューボタン押し時の動作**］	プレビュー
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	設定しない
f6	［**AE/AFロックボタンの機能**］（□312）	
	［**AE/AFロックボタン押し時の動作**］	AE-L/AF-L
	［**コマンドダイヤル併用時の動作**］	設定しない
f7	［**シャッタースピードと絞り値のロック**］（□313）	
	［**シャッタースピードのロック**］	しない
	［**絞り値のロック**］	しない
f8	［**BKTボタンの機能**］（□313）	オートブラケティング
f9	［**コマンドダイヤルの設定**］（□314）	
	［**回転方向の変更**］（□314）	露出補正の設定時：□、 シャッタースピード/ 絞り値の設定時：□
	［**メインとサブの入れ換え**］（□314）	しない
	［**絞り値の設定方法**］（□315）	サブコマンドダイヤル
	［**再生/メニュー画面で使用**］（□316）	しない
f10	［**ボタンのホールド設定**］（□317）	しない
f11	［**カードなし時レリーズ**］（□317）	レリーズ許可
f12	［**インジケーター表示の＋/－方向**］（□318）	−◀ıııııı0ıııııı▶+
f13	［**MB-D12のAF-ONボタン機能**］（□319）	AF-ON
g1	［**Fnボタンの機能**］（□320）	
	［**Fnボタン押し時の動作**］	設定しない
g2	［**プレビューボタンの機能**］（□320）	
	［**プレビューボタン押し時の動作**］	インデックスマーキング
g3	［**AE/AFロックボタンの機能**］（□321）	
	［**AE/AFロックボタン押し時の動作**］	AE-L/AF-L
g4	［**シャッターボタンの機能**］（□322）	静止画撮影

※ 初期設定に戻るのは、カスタムメニューの［**カスタムメニューの管理**］（□274）で選択されているカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の内容だけです。

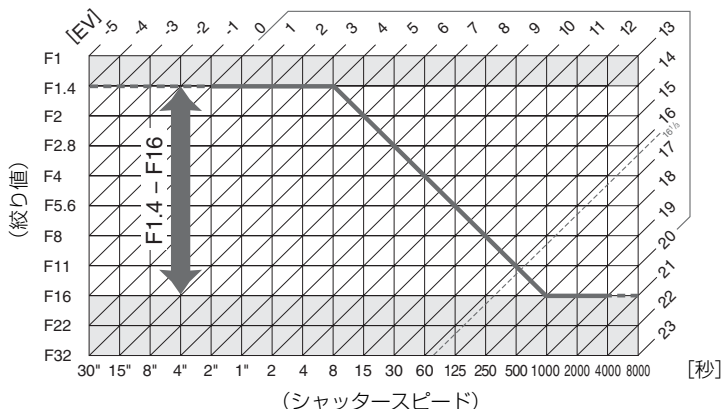
❚❚ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目			初期設定
［液晶モニターの明るさ］（□324）			マニュアル
	［マニュアル］		0
［イメージセンサークリーニング］（□400）			
	［電源スイッチに連動］（□402）		電源ONとOFFで実行
［HDMI］（□250）			
	［出力解像度］		オート
	［詳細設定］		
		［出力レンジ］	オート
		［出力画面サイズ］	95%
		［ライブビュー時の情報表示］	する
［フリッカー低減］（□327）			オート
［地域と日時］（□328）			
	［夏時間の設定］		しない
［縦横位置情報の記録］（□329）			する
［GPS］（□214）			
	［半押しタイマー］		有効
	［GPSによる日時合わせ］		する
［Eye-Fi送信機能］（□338）			有効

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのとき（0116）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
（例：AF 50mm f/1.4D）の場合

測光範囲：EV 0～20

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合16 1/3を超えるEV値では、全て16 1/3として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

表示関連

● **ファインダー内がはっきり見えない**

視度調節ノブで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください（□33、393）。

● **ファインダー内が暗い**

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（□19、35）。

● **ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう**

カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］やc4［**液晶モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□283、285）。

● **表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い**

低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

カメラが作動しなくなったら

きわめてまれに、液晶モニターが異常な状態になり、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

● **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**

メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● **シャッターがきれない**

- 残量のあるメモリーカードが入っていますか？（□28、36）
- Gタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルにfE Eと表示されている場合、カスタムメニューf9［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（□315）。
- 露出モードMでシャッタースピードをbulbに設定し、そのまま露出モードをSに変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□426）。
- カスタムメニューf11［**カードなし時レリーズ**］が［**レリーズ禁止**］になっていませんか？（□317）

● **シャッターがきれるのが遅い**

カスタムメニューd4［**露出ディレーモード**］を［**しない**］にしてください（□288）。

● **連続撮影できない**

- 内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません（□177、178）。
- HDR撮影時は、連続撮影できません（□172）。

● **ピントが合わない**

- マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください（□89）。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□96、99）。
  明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/320～1/60秒の範囲で設定できます。［**1/320秒（オートFP）**］または［**1/250秒（オートFP）**］に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です（□294）。

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、AE-L/AF-L AE/AFロックボタンを押してフォーカスをロックしてください（□96）。

● **フォーカスポイントを選べない**

- フォーカスポイントロックレバー（マルチセレクター）が **L**（ロック）の位置になっていませんか？（□94）
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません（□91）。
- AFエリアモードを顔認識AFにしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません（□46）。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません（□215、253）。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選択するには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください（□40）。

● **AF補助光ランプが光らない**

- 次の場合、AF補助光を照射しません。
  - ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき（□89）
  - ライブビュー/動画撮影時
  - オートエリアAF以外のAFエリアモードで中央以外のフォーカスポイントが選択された場合（□94）
- カスタムメニューa8［**内蔵AF補助光の照射設定**］が［**しない**］になっていませんか？（□279）
- AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと再び照射するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。

● **画像サイズを変更できない**

［**画質モード**］が［**RAW**］のときは、画像サイズを変更できません（□86）。

● **画像の記録に時間がかかる**

撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？（□271）

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる**

セットアップメニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（□327）。

● **ライブビュー表示中や動画撮影時に横帯状の明るい部分が生じる**

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光された場合には、画面の上部や下部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● **画像がざらつく**

- ISO感度が高くなっていませんか？ ISO 1600以上の高感度で撮影する場合、撮影メニュー［**高感度ノイズ低減**］を［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］のいずれかに設定すれば、ざらつきを低減できます（□271）。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、ざらつきが発生しやすくなります。撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］にして撮影すると、ざらつきを低減できます（□271）。
- アクティブD-ライティングを設定していませんか？撮影シーンによっては、ざらつきが強調される場合があります（□170）。

● **画像にゴミが写り込む**

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（□400）。

● **画像の色合いがおかしい**

- ホワイトバランスは正しく設定されていますか？（□141）
- 撮影メニュー［**ピクチャーコントロール**］は正しく設定されていますか？（□159）

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない**

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□153）。

● **ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□154）。

● **ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない**

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません（□83、135）。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（□192）。

● ［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］の調整画面で、［**輪郭強調**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください（□163）。

● **測光モードが変更できない**

AEロック中または動画ライブビュー中は、測光モードを変更できません（□57、126）。

● **露出補正ができない**

露出モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません（□129）。

● **画像の一部が赤っぽくなる**

シャッタースピードをbulbにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（□271）。

● **画像にむらが出る**

シャッタースピードをbulbにした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部にむらが出ることがあります。この現象は、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます（□271）。

● **動画に音声が録音されない**

撮影メニュー［**動画の設定**］の［**録音設定**］が［**録音しない**］になっていませんか？（□68）

再生関連

● **RAW画像が表示されない**

［**画質モード**］を［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません（□84）。

● **他のカメラで撮影した画像が表示されない**

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● **全ての画像が表示されない**

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（□254）。

● **画像の縦位置・横位置が正しく表示されない**

- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？（□260）
- セットアップメニュー［**縦横位置情報の記録**］が［**しない**］になっていませんか？（□329）
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません（□259）。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります（□329）。

● **画像が削除できない**

- SDカードがロックされていませんか？（□32）
- 画像にプロテクトが設定されていませんか？（□229）

● **画像が編集できない**

このカメラでは編集できない画像です（□342）。

● **［撮影画像がありません］と表示される**

メモリーカードの交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください（□254）。

● **プリント指定ができない**

- SDカードがロックされていませんか？（□32）
- メモリーカードの空き容量が不足していませんか？（□36）

● **ダイレクトプリントができない**

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません（□246）。

● **RAW画像をプリントできない**

- 画像編集メニューの［**RAW現像**］などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください（□353）。
- RAW 画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアや別売の Capture NX 2などのソフトウェアを使ってプリントしてください（□395）。

● **画像がHDMI対応機器で再生できない**

市販のHDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください（🕮249）

● **Capture NX 2で画像が表示されない**

ソフトウェアのバージョンが最新になっていますか？（🕮395）

● **Capture NX 2でイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき（🕮325）

● **［ピクチャーコントロール］、［アクティブD-ライティング］、［ヴィネットコントロール］の効果がパソコンで確認できない**

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像は付属のViewNX 2や、別売のCapture NX 2をお使いください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります（🕮236）。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

その他

● **撮影日時が正しく表示されない**

カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（🕮25、328）。

● **表示されているメニュー項目が選択できない**

- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。
- セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売のパワーコネクター EP-5BとACアダプター EH-5bを使用している場合は選択できません（🕮330）。

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	
表示パネル	ファインダー内表示			
FEE （点滅）	FEE （点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	24
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	35
（点滅）	（点滅）	• バッテリーが消耗しています。 • バッテリーとの情報通信ができません。 • 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時に、極端に消耗しているLi-ion リチャージャブルバッテリー、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラかMB-D12のいずれかで使用しています。	• バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。 • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 • カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。	21 19 392、457 19 xix、21、392
CLOCK （点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	25

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示パネル	ファインダー内表示			
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	209
—	▶ ◀ （点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	38、99
bulb （点滅）	bulb （点滅）	露出モードがSのときにシャッタースピードがbulbにセットされています。	• シャッタースピードを変えてください。 • 露出モードMで撮影してください。	117、120
busy （点滅）	bsy （点滅）	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	⚡ （点滅）	フラッシュがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。	182

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示パネル	ファインダー内表示			
（シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかまたは露出インジケーターが点滅）		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くしてください。 • 露出モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。	107 394 117 118
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くしてください。 • 露出モードがPのときはフラッシュを使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 露出モードがAのときは絞りを開いてください（より小さい数値）。	107 177 117 118

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示パネル	ファインダー内表示			
Full、CF/SD（点滅）	Ful（点滅）	• 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。	230、233 28
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	457

CF/SDアイコンについて

点滅しているメモリーカードでエラーが発生しています。

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	28
このメモリーカードは壊れている可能性があるため、使用できません。カードを交換してください。	CArd、Err、CF/SD（点滅）	• メモリーカードへのアクセス異常です。 • 新規フォルダーが作成できません。	• このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。 • メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。	442 457 230、233 28
	CArd、Err（点滅）	Eye-Fiカードをコントロールできません。	• Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 • 新しいSDカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。	339 28、31

こんなとき		原因	対処方法	
液晶モニター	表示パネル			
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	CArd、SD（点滅）	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	32
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	CArd、Err、SD（点滅）	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	32
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	For（点滅）	メモリーカードが正しく初期化されていません。	• メモリーカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。	31、324 28
接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。サービス機関にお問い合わせください。	—	バージョンアップに失敗したスピードライトがカメラに装着されています。	接続中のスピードライトはバージョンアップに失敗しているため使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。	457
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	54、65
撮影画像がありません。	—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選択してください。	28 254

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	表示パネル			
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの［**非表示設定**］で、画像の非表示設定を解除してください。	254
このファイルは表示できません。	—	• アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	342
プリンターの状態を確認してください。※	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、［**継続**］を選べない場合があります）。	241
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	241
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	241
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	241

こんなとき		原因	対処方法	📖
液晶モニター	表示パネル			
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	241
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んで ㊊ ボタンを押して、プリントを再開してください。	241

※プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D800/D800E

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
有効画素数	
有効画素数	36.3 メガピクセル
撮像素子	
方式	35.9 × 24.0 mmサイズCMOSセンサー、ニコンFXフォーマット
総画素数	36.8 メガピクセル
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（別売Capture NX 2必要）
記録形式	
記録画素数	• 撮像範囲［FX (36×24) 1.0×］の場合： 7360×4912ピクセル（サイズL） 5520×3680ピクセル（サイズM） 3680×2456ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［1.2× (30×20) 1.2×］の場合： 6144×4080ピクセル（サイズL） 4608×3056ピクセル（サイズM） 3072×2040ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［DX (24×16) 1.5×］の場合： 4800×3200ピクセル（サイズL） 3600×2400ピクセル（サイズM） 2400×1600ピクセル（サイズS） • 撮像範囲［5:4 (30×24)］の場合： 6144×4912ピクセル（サイズL） 4608×3680ピクセル（サイズM） 3072×2456ピクセル（サイズS） • FXベースの（動画）フォーマット（撮像範囲［FX (36×24) 1.0×］で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合）※： 6720×3776ピクセル（サイズL） 5040×2832ピクセル（サイズM） 3360×1888ピクセル（サイズS）

記録形式	
記録画素数	• DXベースの（動画）フォーマット（撮像範囲［DX (24×16) 1.5×］で動画ライブビュー中に静止画撮影する場合）： 4800×2704ピクセル（サイズL） 3600×2024ピクセル（サイズM） 2400×1352ピクセル（サイズS） ※撮像範囲［1.2× (30×20) 1.2×］または［5:4 (30×24)］で、動画ライブビュー中に静止画撮影する場合、「FXベースの（動画）フォーマット」のときの画像サイズになります。
画質モード	• RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮） • TIFF（RGB） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE （1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC （1/16）サイズ優先時、画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	• SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-I規格に対応） • コンパクトフラッシュカード（Type I、UDMA対応）
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、同時記録、RAW＋JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0（Design rule for Camera File system）、 DPOF（Digital Print Order Format）、 Exif 2.3（Exchangeable image file format for digital still cameras）、PictBridge

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• **FX**：上下左右とも約100%（対実画面） • **1.2×**：上下左右とも約97%（対実画面） • **DX**：上下左右とも約97%（対実画面） • **5：4**：上下約100%、左右約97%（対実画面）
倍率	約0.7倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、$-1.0\ m^{-1}$のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から17 mm（$-1.0\ m^{-1}$のとき）
視度調節範囲	-3～$+1\ m^{-1}$
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンⅧ （AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）

ファインダー	
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	プレビューボタンによる絞り込み可能、露出モードA、Mでは設定絞り値まで絞り込み可能、P、Sでは制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **DXレンズ**（撮像範囲は［DX (24×16) 1.5×］） • **GまたはDタイプレンズ**（PCレンズ一部制限あり） • **GまたはDタイプ以外のAFレンズ**（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • **Pタイプレンズ** • **非CPUレンズ**（ただし、非AIレンズは使用不可）：露出モードA、Mで使用可能 • 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスエイド可能。ただしフォーカスポイント11点は、F8以上明るいレンズで、フォーカスエイド可能。

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1/8000～30秒（1/3、1/2、1ステップ）、Bulb、X250
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/250秒、1/320秒以下の低速シャッタースピードで同調（1/250より1/320秒まではガイドナンバーが減少）

レリーズ機能	
レリーズモード	**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、**Q**（静音撮影）、self-timer（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）
連続撮影速度	• **EN-EL15使用時** - **撮像範囲：FX、5：4** **CL**：約1～4コマ/秒 **CH**：約4コマ/秒 **撮像範囲：DX、1.2X** **CL**：約1～5コマ/秒 **CH**：約5コマ/秒 • **マルチパワーバッテリーパック MB-D12（EN-EL15以外の電池使用時）またはACアダプター EH-5b/EH-5a/EH-5使用時** - **撮像範囲：FX、5：4** **CL**：約1～4コマ/秒 **CH**：約4コマ/秒 - **撮像範囲：DX** **CL**：約1～5コマ/秒 **CH**：約6コマ/秒 - **撮像範囲：1.2×** **CL**：約1～5コマ/秒 **CH**：約5コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御	
測光方式	91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ（GまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅲ（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • **中央部重点測光**：φ12 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズ使用時はφ12 mm、または画面全体の平均） • **スポット測光**：約φ4mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズ使用時は中央に固定）
測光範囲	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：0～20 EV • **スポット測光**：2～20 EV （ISO 100、 f /1.4レンズ使用時、常温20℃）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P：プログラムオート（プログラムシフト可能）、S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップ
オートブラケティング	• AE、フラッシュブラケティング時、撮影コマ数： 2～9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1ステップ • ホワイトバランスブラケティング時、撮影コマ数： 2～9コマ、補正ステップ：1～3ステップ • アクティブD-ライティングブラケティング時、撮影コマ数：2 ～5コマ、撮影コマ数が2コマの場合のみアクティブD-ライティングの効果の度合いを選択可能
AEロック	AE-L/AF-L AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式
ISO感度 （推奨露光指数）	ISO 100～6400（1/3、1/2、1ステップ）、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 50相当）の減感、 ISO 6400に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段 （ISO 25600相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない
オートフォーカス	
方式	TTL 位相差検出方式：フォーカスポイント51点（うち、クロスタイプセンサー 15点、11点はF8対応）、アドバンストマルチCAM 3500FXオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能、AF補助光（約0.5～3 m)付

オートフォーカス	
検出範囲	–2～＋19 EV （ISO 100、常温（20℃））
レンズサーボ	• **オートフォーカス**：シングルAFサーボ（AF-S）またはコンティニュアスAFサーボ（AF-C）、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 • **マニュアルフォーカス（M）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	• **AF51点設定時**：51点のフォーカスポイントから1点を選択 • **AF11点設定時**：11点のフォーカスポイントから1点を選択
AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード（9点、21点、51点）、3D-トラッキング、オートエリアAFモード
フォーカスロック	AE-L AF-L AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
内蔵フラッシュ	押しボタン操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー： • 約12（マニュアルフル発光時約12）（ISO 100・m、20℃）
調光方式	**91Kピクセル（約91,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL調光制御**：内蔵フラッシュ、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600またはSB-400でi-TTL-BL調光（マルチパターン測光または中央部重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、後幕スローシンクロ • オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲：–3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップ
レディーライト	内蔵フラッシュ、別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー （ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	• SB-910、SB-900、SB-800またはSB-700を主灯、SU-800をコマンダーとしたアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200 はリモートのみ）可能。コマンダーモード設定時は、内蔵フラッシュを主灯として制御可能 • オート FP ハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応（SB-400は発光色温度情報伝達、FVロックのみ対応）
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（2種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（4件登録可）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能

ライブビュー機能	
撮影モード	静止画ライブビューモード、動画ライブビューモード
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F） • **マニュアルフォーカス（M）**
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
記録画素数/フレームレート	• 1920×1080：30p/25p/24p • 1280×720：60p/50p/30p/25p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 標準/★高画質選択可能
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵モノラルマイク、外部マイク使用可能（ステレオ録音）、マイク感度設定可能
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影

液晶モニター	
液晶モニター	3.2型TFT液晶、約92万ドット（VGA）、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能、照度センサーによる液晶モニター自動明るさ調整機能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影画像の縦位置自動回転、画像コメント入力可能（英数字36文字まで）

インターフェース	
USB	SuperSpeed USB（USB 3.0 Micro-B端子）
HDMI出力	HDMIミニ端子（Type C）装備、HDMI出力と液晶モニターの同時再生可
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）
10ピンターミナル	• **リモートコントロール**：10ピンターミナルに接続 • **GPS**：GPSユニットGP-1（別売）を10 ピンターミナルに接続。または、10 ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35（別売）を介して、NMEA0183 Ver. 2.01 およびVer. 3.01に準拠したGPS機器（D-sub 9 ピンケーブル併用）に接続

表示言語	
表示言語	日本語、英語

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 1個使用
マルチパワーバッテリーパック	MB-D12（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18（別売）※ またはEN-EL15 1個使用。単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）8本使用 ※ 別売のバッテリー室カバー BL-5が必要です。
ACアダプター	ACアダプター EH-5b（パワーコネクター EP-5Bと組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4 （ISO 1222）

寸法・質量	
寸法（W×H×D）	約146×123×81.5 mm
質量	約1000 g（バッテリーおよびSD カードを含む、ボディーキャップを除く） 約900 g（本体のみ）

動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

バッテリーチャージャー MH-25	
電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、0.23～0.12 A
定格入力容量	21 ～28 VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適用充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約91.5 × 33.5 × 71 mm（突起部除く）
電源コード	長さ約1.5m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約110 g（電源コードおよび電源プラグ（直付け型）を除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法（W×H×D）	約40 × 56 × 20.5 mm
質量	約88 g（端子カバーを除く）

- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system（DCF）Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **DPOF（Digital Print Order Format）**：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- **Exif Version 2.3**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge**：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。
  1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk 社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

使用できるSDカードとCFカード

次のSDカードとCFカード（Type I）が使用できます。

■ SDカード

次のSDカードの動作を確認しています。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード※2	SDXC メモリーカード※3
SanDisk製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
東芝製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic製	2 GB※1	4 GB、6 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
LEXAR MEDIA社製	2 GB※1	4 GB、8 GB、16GB	—
プラチナⅡシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	—
プロフェッショナルシリーズ	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	—
フルHDビデオカードシリーズ	—	4GB、8GB、16GB	—

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC 規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。このカメラは、UHS-I規格に対応しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

■ CFカード

次のCFカードの動作を確認しています（Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません）。

SanDisk製	Extreme Pro	SDCFXP	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
	Extreme	SDCFX	8 GB、16 GB、32 GB
	Extreme IV	SDCFX4	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Extreme III	SDCFX3	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Ultra II	SDCFH	2 GB、4 GB、8 GB
	Standard	SDCFB	2 GB、4 GB
LEXAR MEDIA社製	Professional UDMA	1000×	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB
		600×	8 GB、16 GB、32 GB
		400×	8 GB、16 GB、32 GB
		300×	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
	Professional	233×	2 GB、4 GB、8 GB
		133×	2 GB、4 GB、8 GB
		80×	2 GB、4 GB
	Platinum II	80×	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB
		60×	4 GB

- 上記メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲（□77）、画質モード（□83）、画像サイズ（□86）の組み合わせによって、8GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■［撮像範囲］が［FX (36×24) 1.0×］の場合※2

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※3	連続撮影可能コマ数※4
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約32.4 MB	133コマ	21コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約41.3 MB	103コマ	17コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約29.0 MB	182コマ	25コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約35.9 MB	151コマ	20コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	—	約57.0 MB	133コマ	18コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	—	約74.4 MB	103コマ	16コマ
TIFF（RGB）	L	約108.2 MB	71コマ	16コマ
	M	約61.5 MB	126コマ	18コマ
	S	約28.0 MB	277コマ	26コマ
FINE※5	L	約16.3 MB	360コマ	56コマ
	M	約10.4 MB	616コマ	100コマ
	S	約5.2 MB	1200コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約9.1 MB	718コマ	100コマ
	M	約5.3 MB	1200コマ	100コマ
	S	約2.6 MB	2400コマ	100コマ
BASIC※5	L	約4.0 MB	1400コマ	100コマ
	M	約2.7 MB	2400コマ	100コマ
	S	約1.4 MB	4800コマ	100コマ

カスタムメニュー d3［連続撮影コマ数］（□287）

カスタムメニューd3［**連続撮影コマ数**］では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～100コマの範囲で設定できます。

■■［撮像範囲］が［DX (24×16) 1.5×］の場合※6

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※3	連続撮影可能コマ数※4
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	—	約14.9 MB	303コマ	38コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	—	約18.6 MB	236コマ	29コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	—	約13.2 MB	411コマ	54コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	—	約16.2 MB	343コマ	41コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	—	約25.0 MB	303コマ	30コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	—	約32.5 MB	236コマ	25コマ
TIFF（RGB）	L	約46.6 MB	165コマ	21コマ
	M	約26.8 MB	289コマ	26コマ
	S	約12.5 MB	616コマ	41コマ
FINE※5	L	約8.0 MB	796コマ	100コマ
	M	約5.1 MB	1200コマ	100コマ
	S	約2.7 MB	2300コマ	100コマ
NORMAL※5	L	約4.1 MB	1500コマ	100コマ
	M	約2.6 MB	2500コマ	100コマ
	S	約1.4 MB	4600コマ	100コマ
BASIC※5	L	約2.0 MB	3000コマ	100コマ
	M	約1.3 MB	5000コマ	100コマ
	S	約0.7 MB	8900コマ	100コマ

※1 東芝社製8GBのSDHC UHS-Iカード（SD-E008GUX）を使用した場合

※2［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※3 撮影条件により、記録可能コマ数は増減することがあります。

※4 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- ［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ISO感度（□107）をHi 0.3以上に設定した場合
- ISO感度をISO 1600以上に設定し、［**高感度ノイズ低減**］（□271）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**アクティブD-ライティング**］（□170）を［**しない**］以外に設定した場合
- ［**長秒時ノイズ低減**］（□271）を［**する**］に設定した場合
- ［**自動ゆがみ補正**］（□270）を［**する**］に設定した場合
- ［**感度自動制御**］（□109）を［**する**］に設定し、［**高感度ノイズ低減**］を［**しない**］以外に設定した場合

※5 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、［**JPEG圧縮**］（□85）が［**サイズ優先**］に設定されている場合です。［**JPEG圧縮**］を［**画質優先**］に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

※6［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズを装着した場合を含みます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D12装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

- ［CIPA基準準拠※1］
  約900コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15使用時）
  約900コマ（MB-D12を装着してEN-EL15 1個使用時）
  約1400コマ（MB-D12を装着してEN-EL18 1個使用時）
  約1000コマ（MB-D12を装着してアルカリ単3形電池使用時）
- ［当社試験条件※2］
  約2400コマ（カメラ本体でEN-EL15使用時）
  約2400コマ（MB-D12を装着してEN-EL15 1個使用時）
  約3800コマ（MB-D12を装着してEN-EL18 1個使用時）
  約2400コマ（MB-D12を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。レリーズ2 回につき1 回内蔵フラッシュを発光させる。装着レンズAF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR、温度23（± 2）℃。

※2 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II（VR機能OFF）、温度20℃。

※バッテリーの充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。また、単 3 形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- ワイヤレストランスミッター WT-4を使用した場合
- GPSユニットGP-1を使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索 引

マーク・英数字

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、裏面に記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、裏面に記載の「修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「表示されたメッセージ」、「症状の発生頻度」など。
- ソフトウェアのトラブルの場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「ソフトウェア名およびバージョン」、「パソコンの機種名」、「OSのバージョン」、「メモリー容量」、「ハードディスクの空き容量」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」、エラーメッセージが表示されている場合はエラーメッセージの内容など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（裏面に記載の「修理センター」など）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関につきましては、詳しくは「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。

【お願い】

- 修理に出されるときは、メモリーカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。
  ※ 内蔵メモリー内に画像データがあるときは、消去される場合があります。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後7年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

Nikon

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30 ～ 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03） 5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155 営業時間：9:00～18:00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03） 6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

＜ニコンイメージング／サポートページ＞

- http://www.nikon-image.com/support/

  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。

  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。

- http://www.nikon-image.com/support/repair/

  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、裏面の「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Thailand

6MB12210-04